

新潟県立看護大学 自己点検評価報告書

－専任教員の活動業績－

平成24年3月



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

【 目 次 】

- 1 研究及び社会活動業績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 3
- 2 年度別大学運営各種委員会活動構成員・・・・・・・・・・・・ p 1 2 2

1 研究及び社会活動業績

(1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」について、平成19年4月から23年3月までの4年間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動（業績）の一覧である。

ア 23年3月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。

イ 原則として、各教員が提出されたものを修正せず掲載する。

ウ 掲載の順番は科目群順とし、個人は職位順ついで採用順に掲載する。

エ 掲載に際して職位名等は入れず、氏名のみを表示とする。

オ 平成23年4月以降12月現在までに着任した専任教員の業績についても、ウに従って掲載する。

(2) 活動業績掲載順

<p>【共通科目】</p> <p>I 人間環境科学領域……………p 4</p> <p>橋本 明浩 中村 博生 藤田 尚 徐 淑子 渡辺 弘之 永吉 雅人 エルダトン・サイモン</p> <p>II 生物医学領域……………p 2 2</p> <p>中野 正春 関谷 伸一 境原 三津夫</p> <p>【専門科目】</p> <p>III 基礎看護学領域……………p 2 6</p> <p>坪倉 繁美 堀 良子 水口 陽子 岡村 典子 水澤 久恵 内藤 みほ</p> <p>IV 臨床看護学領域……………p 4 3</p> <p>加城 貴美子 石田 和子 酒井 禎子 高柳 智子 山田 正実 大久保 明子 高島 葉子 内宮 律代</p>	<p>飯田 智恵 小林 綾子 菊地 美帆 郷 更織 山田 真衣 渡邊 千春 石岡 幸恵 弓納持 浩子 須藤 陽子 高塚 麻由 西山 佳良 星 揚子</p> <p>V 地域生活看護学領域……………p 7 6</p> <p>栗生田 友子 平澤 則子 小泉 美佐子 原 等子 飯吉 令枝 田口 玲子 城戸 裕子 後田 穰 片平 伸子 藤川 あや 櫻井 信人 角山 裕美子 加賀美 亜矢子 井上 智代 野口 裕子 大郷 みさき 川里 庸子</p>
--	--

I 人間環境科学領域

橋本 明浩

1. 原著論文

Hashimoto Akihiro, Miyano Hisao and Taguri Masaaki : ” MAXIMIZATION OF CORRELATION UNDER A QUADRATIC CONSTRAINT” , Journal of the Japan Statistical Society, Vol.37, No.1, 105-121, (2007).

2. その他論文

- ア. 堀良子, 橋本明浩, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 水澤久恵, 渡辺江里子:上越地域における訪問看護師のコミュニティを中心としたe-ラーニングシステムの基盤整備 , 平成 18 年度看護研究交流センター 年報(地域課題研究) pp.9-10,2009
- イ. 関谷伸一, 吉山直樹, 渡辺弘之, 杉田収, 中野正春, 橋本明浩, 山本淳子, 岡村典子, 水澤久恵, 徐淑子, 丸田健一郎: 「生活者の理解」を推進する地域参加を通じた学生の学び,
- ウ. 平成 19 年度看護研究交流センター 年報・平成 19 年度学長特別研究費研究報告書, pp. 13-14, 2008.
- エ. 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵, 橋本明浩, 渡辺江里子: 県内訪問看護師のコラボレーティブ・ラーニングの可能性に関する研究, 平成 19 年度看護研究交流センター 年報・平成 19 年度学長特別研究費研究報告書, pp15-16,2008.
- オ. 橋本明浩, 吉山直樹, 永吉雅人, 深山真司, 堀良子, 深澤佳代子, 粟生田友子, 原等子, 水口陽子, 岡村典子, 大久保明子, 飯田智恵, 水澤久恵, 藤川あや, 角山裕美子: 看護師の学び直しに必要なユビキタス教育環境の作成の試みと評価, 平成 21 年度情報処理教育研究集会論文集, 71-72, 2010.
- カ. 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵, 深澤佳代子, 粟生田友子, 橋本明浩, 原等子, 大久保明子, 飯田智恵, 永吉雅人, 藤川あや, 角山裕美子: 基礎看護技術のためのe-Learning教材作成の試みと評価:平成 21 年度情報処理教育研究集会論文集, 69-70, 2010.
- キ. 山田正実, 深澤佳代子, 岡村典子, 中野正春, 橋本明浩: ネット上の保健指導システムの構築と評価, 平成 21 年度情報処理教育研究集会論文集, 493, 2009.
- ク. 原等子, 飯田智恵, 深澤 佳代子, 粟生田友子, 藤川あや, 大久保明子, 角山裕美子, 橋本明浩, 永吉雅人, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵: ニーズに基づく潜在看護師の学び直しシステムの構築の試み, 平成 21 年度情報処理教育研究集会論文集, 494, 2009.
- ケ. 中野正孝, 本多正幸, 中村洋一, 西出りつ子, 橋本明浩(分担). 看護研究のための統計教育方法の検討-統計解析支援システムの開発-, 2006 年度研究実績報告書, 三重大学

3. 著書

- ア. 本多, 中村, 橋本, 中野:臨床研究の時計実践ガイド 論文の企画から投稿まで, Edix 出版 2011.
- イ. 橋本, 本多, 中村, 中野: P 値の実践的活用 , Edix 出版 2012(In Printing).
- ウ. その他
 - (ア) 文部科学省「社会人の学びなおしニーズ対応教育推進事業」「看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み」平成 19 年度成果報告書
 - (イ) 文部科学省「社会人の学びなおしニーズ対応教育推進事業」「看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み」平成 20 年度成果報告書
 - (ウ) 文部科学省「社会人の学びなおしニーズ対応教育推進事業」「看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み」平成 21 年度成果報告書

4. 学会発表

- コ. 堀良子, 橋本明浩, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 水澤久恵, 渡辺江里子:上越地域における訪問看護師のコミュニティを中心としたe-ラーニングシステムの基盤整備, 平成18年度看護研究交流センター 年報(地域課題研究) pp.9-10.2009
- サ. 関谷伸一, 吉山直樹, 渡辺弘之, 杉田収, 中野正春, 橋本明浩, 山本淳子, 岡村典子, 水澤久恵, 徐淑子, 丸田健一郎:「生活者の理解」を推進する地域参加を通じた学生の学び,
- シ. 平成19度看護研究交流センター 年報・平成19年度学長特別研究費研究報告書, pp. 13-14, 2008.
- ス. 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵, 橋本明浩, 渡辺江里子: 県内訪問看護師のコラボレーティブ・ラーニングの可能性に関する研究, 平成19度看護研究交流センター 年報・平成19年度学長特別研究費研究報告書, pp15-16,2008.
- セ. 橋本明浩, 吉山直樹, 永吉雅人, 深山真司, 堀良子, 深澤佳代子, 粟生田友子, 原等子, 水口陽子, 岡村典子, 大久保明子, 飯田智恵, 水澤久恵, 藤川あや, 角山裕美子: 看護師の学び直しに必要なユビキタス教育環境の作成の試みと評価, 平成21年度情報処理教育研究集会論文集, 71-72, 2010.
- ソ. 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵, 深澤佳代子, 粟生田友子, 橋本明浩, 原等子, 大久保明子, 飯田智恵, 永吉雅人, 藤川あや, 角山裕美子: 基礎看護技術のためのe-Learning教材作成の試みと評価:平成21年度情報処理教育研究集会論文集, 69-70, 2010.
- タ. 山田正実, 深澤佳代子, 岡村典子, 中野正春, 橋本明浩: ネット上の保健指導システムの構築と評価, 平成21年度情報処理教育研究集会論文集, 493, 2009.
- チ. 原等子, 飯田智恵, 深澤佳代子, 粟生田友子, 藤川あや, 大久保明子, 角山裕美子, 橋本明浩, 永吉雅人, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵: ニーズに基づく潜在看護師の学び直しシステムの構築の試み, 平成21年度情報処理教育研究集会論文集, 494, 2009.

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

看護科学会, 日本公衆衛生学会, 情報処理学会会員

【社会活動】

上越市情報格差解消インフラ整備検討委員会委員長(2008-2009年)

上越市情報格差解消インフラ整備検討委員会作業部会委員長(2008-2009年)

上越市ホームページ再構築検討委員会委員長(2010年)

中村 博生

【研究活動】

1. 原著論文

- ・中村博生 (2008) : 看護研究を目指す学生の英文読解力向上に有効な語彙コーパスの基礎的研究—看護の英語論文に現れる語彙の分析をとおして—, 人間科学研究第9号 人間科学研究会 (ISSN 1345-1790), 31-42.
- ・中村博生 (2009) : The Effect on Japanese EFL Learners' Reading Ability of Interactive Reading, Enriching Content Schema and Formal Schema - In the Case of Nursing Students—, Language Education & Technology No. 46, 99-112.

2. その他の論文

- ・中村博生 (2007) : 看護研究を行う学生の英文読解力向上に有効な教材開発のための基礎的研究, 平成18年度新潟県立看護大学学長特別研究費研究報告書, 75 - 79.
- ・中村博生、山本淳子 (2007) : 看護職及び看護学生の英語コミュニケーション能力育成に関する研修プログラム—国内研修プログラム—, 平成18年看護研究交流センター年報 (新潟県立看護大学, 1-2.
- ・中村博生、山本淳子 (2008) : 看護職及び看護学生の英語コミュニケーション能力育成に関する研修プログラム(2) —海外研修プログラム—, 平成19年看護研究交流センター年報新潟県立看護大学, 11-12.
- ・柿川房子、中村博生、水澤久恵、丸山美香、北島昌樹、星野めぐみ、鈴木真理子、三浦一二美 (2009) : がん看護CNS教育と臨地実務普及へ向けての実践研究—社会人修士課程及び課程終了後のフォローアップ—, 平成20年度看護研究交流センター年報 (新潟県立看護大学, 3-4

3. 著書

- ・中村博生 (2007) : 看護学生のための英文読解—トピック・センテンスに焦点をあてた双方向読解練習帳—, 北越印刷株式会社, 新潟.
- ・中村博生 (2007) : 115 English Adjectives for Junior High School Students - 中学生のための英語形容詞115—, 考古堂書店, 新潟.
- ・中村博生、Simon J. Elderton (2008) : 大学生のための英字新聞読解—パラグラフのコントロール・アイデアに焦点をあてた英文読解練習帳—, 北越印刷株式会社, 新潟.
- ・中村博生 (2009) : 72 English Adverbs for Junior High School Students -中学生のための英語副詞72—, 考古堂書店, 新潟.

4. 学会発表

- ・中村博生、廣瀬浩二 (平成21年8月4~6日) : インターラクティブ・リーディングが日本人EFL学習者の読解能力に及ぼす影響: 内容スキーマと形式スキーマを豊かにして, 第49回外国語教育メディア学会全国研究大会, 神戸市.
- ・中村博生 (平成22年12月4日), どんな明示的なインターラクティブ・リーディング指導がEFL学習者にとって英語読解力向上に最も効果的か, 外国語教育メディア学会 (LET) 関東支部 第125回 (2010年度) 研究大会, 東京都八王子市南大沢.

5. その他の研究活動

- ・中村博生 (平成20年10月) : コミュニケーション能力の素地を育む英語活動の環境作り, 平成20年度教育を考える集い「小学校英語活動の必修化に備える研修会」 (上越市教育委員会), 外国語とし

て教室で英語を学び、一歩教室の外に出ればほとんど英語を使用する必要のない日本のような環境における英語教育の充実への示唆を得るため、ニュージーランドにおけるマオリ語教育を取り巻く環境について調査研究をした。この成果をもとに、現在の小学校英語活動の目的を踏まえ、週1回の英語活動の授業だけでなく、児童が英語に慣れ親しむための環境作りを海外の例を示して提案した。この内容を上越市教育委員会へ報告した。

・中村博生（平成20年2月6日）：英語の参考書「173 English Verbs for Junior High School Students」（中学生のための動詞173）の発刊、新潟県立看護大学の英語表現法Ⅰ（会話）の授業、「謙信公アカデミー 研究助成」を受けての取り組み（ニュージーランドのマオリ語に関する調査）、小学校総合学習で英語指導に取り組む先生方との研修会などを題材として、英語教育に取り組む姿を放映したもの（約10分間の番組）。ux 新潟テレビ21「ひがたスーパーJチャンネル」。

・中村博生（平成21年11月21日、22日）：「えいごでショッピング」開催（上越市教育委員会主催）平成21年11月21日、22日、上越市民プラザにおいて、上越市教育委員会主催の「学び愛フェスタ」で、上越学生寮研究生に採択された研究を、「えいごでショッピング」というタイトルで具現化した。買い物客（園児、小学生、中学生、等を対象）が英語でALT（言語活動助手：英語母語話者）と会話して、買い物ができるよう、品物や活動などを工夫したもの。この研究実践の結果、合計で400名ほどの買い物客が訪れ、商品の購入はもちろんのこと（用意した12万円相当のお菓子、文具、飲み物、手芸品などすべて完売）、英語で買い物することを十分に楽しんだということが、アンケートの調査結果でもうかがえた。このことが、上越タイムス平成21年11月22日付記事「楽しんで教育知ろう 学び愛フェスタ 『えいごでショッピング』」と題して掲載された。

【学会等における活動】

- ・全国英語教育学会 役員（会計監査）（平成19年4月～平成21年3月）
- ・関東甲信越英語教育学会（理事）（昭和62年8月～現在に至る）。

【社会活動】

- ・行政委員会：上越市子どもの権利委員会委員（平成20年9月～現在に至る）
- ・研修会発起人・指導者：上越小学校英語担当教員の会（T-E-Getpora）（平成19年6月～現在に至る）
- ・上越教育大学非常勤講師（平成14年4月～現在に至る）。

【外的資金獲得】

・外国語教育メディア学会（LET）の2007年公募プロジェクトに採択（平成19年度～平成20年度）：読解能力育成のための指導方法の開発—ボトム・アップ処理とトップ・ダウン処理の相互作用の概念を身につけさせるための試み（看護学生の場合）

・上越市教育委員会主催上越学生寮研究生に採択（平成21年度）

英語コミュニケーション能力向上のための空間の構想—英語教師研修プログラムの実施と英語でも買い物ができるショップの創造—上越における英語コミュニケーション能力向上のために、英語教師の研修プログラムを実施し、「E-ショップ・上越」（ENGLISH-SHOP・JOETSU：英語でショッピングができる空間）を実験的に創造したもの。

【研究活動】

1. 原著論文

Fujita, H. and Asakura, K. (2007): Care for Bone Fractures during the Jomon Period: Evidence from the Pathological Condition of Fractures. *Japanese Journal of Health and Behavior Science*, 22, 96-105.

Fujita, H., Asakura, K. and Ogura, M. (2007): Age- and Sex- related Dental Caries Prevalence in Japanese from the Jomon Period. *Journal of Oral Biosciences*, 49(3), 198-204.

Suzuki, T., Fujita, H. and Jong, G. C. (2008): New evidence of tuberculosis from prehistoric Korea-population movement and early evidence of tuberculosis in far east Asia. *American Journal of Physical Anthropology*, 136, 357-360.

Fujita, H. and Jong, G. C. (2008): Dental Information about Human Skeletal Remains from Nukdo, South Korea from a Period Corresponding to the Yayoi Period in Japan. *Journal of Oral Biosciences*, 50, 215-221.

Fujita, H. and Ogura, M. (2009): Degree of Dental Attrition with Sex and Aging among Jomon and Edo People in Japan. *Journal of Oral Biosciences*, 51(3), 165-171.

Fujita, H. (2009): Dental Caries in Japanese Human Skeletal Remains. *Journal of Oral Biosciences*, 51(2), 105-114.

Fujita, H. (2010): The number of missing teeth in people of Edo-period Japan in the seventeenth to nineteenth centuries. *Gerodontology*,
DOI: 10.1111/j.1741-2358.2011.00511.x

Fujita, H. (2011): Stab Marks Possibly from a Spear (Yari) on a skull Excavated from the Mediaeval Zaimokuza Site, Kamakura City. *International Journal of Osteoarchaeology*,
DOI: 10.1002/oa.1246

2. その他の論文

藤田 尚 (2007): 歯の人類学－古人骨にみられた悪性腫瘍－. *老年歯科医学*, 21(4), 411-414.

藤田 尚 (2007): 古人骨から見た日本人の齶蝕. *老年歯科医学*, 21(4), 389-391.

Fujita, H. (2007): Were the Jomon People Healthy or Not? Speculation of total health condition of ancient people. *Journal of Lipid Nutrition*, 16(2), 205-210.

藤田 尚 (2010) : 縄文人や弥生人はどのように形成されたか (予報) - 韓半島の古人骨の調査から -, *Anthropological Science*(和文号), 118(2) , 116-117.

藤田 尚：韓国勸島出土人骨に関する形質人類学的研究，平成 16～18 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書，2007 年 1-45.

前田北斗・藤田 尚 (2010) 「弥勒寺跡 1 次調査出土人骨の鑑定結果」千代田区文化財調査報告書 (18) 186 - 200 頁，千代田区立四番町歴史民俗資料館

前田北斗・藤田 尚 (2010) 「栖岸員跡出土人骨の鑑定結果」千代田区文化財調査報告書 (18) 294-299 頁、千代田区立四番町歴史民俗資料館

平野浩彦・鈴木隆雄・栗田主一・枝広あや子・大堀嘉子・大内ゆかり・小原由紀・菅武雄・佐々木健・島田裕之・高田 靖・竹内嘉伸・千葉由美・戸原 玄・新谷浩和・藤田 尚・細野 純・山田律子・吉田英世・渡辺 裕 (2010) 「認知症高齢者の食行動および支援に関連した課題に関する調査研究報告書」厚生労働科学研究費報告書 1-142頁.

3. 著書

藤田 尚 (2007) 『旧石器考古学辞典-三訂版-』 (分担執筆) 旧石器文化談話会編, 学生社

藤田 尚 (2007) 『東アジア考古学辞典』 (分担執筆) 西谷正編, 東京堂出版

藤田 尚 (2010) 『日本の弥生時代に相当する韓国勸島人骨の比較人類学的研究』 (分担執筆) 菊池徹夫, 281-287頁, 同成社

藤田 尚 (2010) 『更新世の人類化石』 (分担執筆) 稲田孝司・佐藤宏之編, 「講座日本の考古学 第1巻 旧石器時代上巻」, 235-262頁, 青木書店

藤田 尚 (2010) 『齶蝕と歯周病の人類学』 (分担執筆) 金澤英作・葛西一貴編, 「歯科に役立つ人類学」, 109-125頁, わかば出版

4. 学会発表

藤田 尚・崔 鐘圭 (2007年5月27日) : 韓国勸島人骨の頭蓋形態について、2007年 第73回日本考古学協会, 明治大学

鈴木隆雄・藤田 尚・崔 鐘圭 (2007年5月27日) : 韓国勸島出土人骨における古病理学的変化についての研究, 第73回日本考古学協会, 明治大学

橋本裕子・藤田 尚・崔 鐘圭 (2007年5月27日) : 歯の観察からみた韓国勸島遺跡に埋葬された人々, 第73回日本考古学協会, 明治大学

藤田 尚・朝倉京子・小椋正之・平野裕彦 (2007年6月21日) : 縄文時代の齶歯率の加齢変化, 第18回日本老年歯科医学会, 札幌厚生年金会館

藤田 尚 (2007年10月8日) : 勸島人骨の歯科人類学的考察第61回日本人類学会, 日本歯科大学新潟歯学部

Fujita, H., Asakura, K. and Ogura, M. (2007年11月24日): Sex and Age distribution of dental

caries in the Neolithic Jomon period in Japan. The 39th conference of the Asia-Pacific Academic consortium for Public Health., 女子栄養大学

朝倉京子・藤田 尚 (2007年12月8日) : 「男性看護職の生存方略; 過疎化農村地域の医療現場におけるジェンダー・マイノリティ, 第27回日本看護科学学会学術大会, 東京国際フォーラム

藤田 尚・小椋正之・朝倉京子 (2008年6月20日) : 「日本人の咬耗度の時代的变化ー加齢変化を中心とする考察ー, 第19回日本老年歯科医学会, 岡山大学

藤田 尚 (2008年6月28日) : 過去の社会はパラダイスか?, 第50回日本老年社会科学会, 大阪府立大学

藤田 尚 (2009年5月31日) : 縄文パラダイス論を否定する, 第75回日本考古学協会, 早稲田大学

藤田 尚 (2009年6月20日) 日本における歯頸部Abfractionの起源, 第20回日本老年歯科医学会, パシフィコ横浜

藤田 尚 (2009年6月27日) : 自然人類学的視点からケアの起源に迫る, 第24回日本保健医療行動科学会, 甲南大学

藤田 尚 (2009年10月3日) : 縄文時代人の齲歯率の地理差から生業を考える, 第63回日本人類学会骨考古学分科会シンポジウム, 東京都老人総合研究所

Fujita, H. (2009年12月3日) : Historical and Epidemiological Study of Japanese Life Span, The 41th conference of the Asia-Pacific Academic consortium for Public Health., 台北医科大学

藤田 尚・橋本裕子・鈴木隆雄 (2010年5月23日) : 韓国煙臺島人骨の形質から東アジアモンゴロイドの形成史を推測する, 第76回日本考古学協会, 国士舘大学

橋本裕子・藤田 尚・鈴木隆雄 (2010年5月23日) : 縄文時代相当の韓国煙臺島人骨についてー歯の観察からの検討ー, 第76回日本考古学協会, 国士舘大学

藤田 尚 (2010年6月12日) : 古人骨からみた保健医療行動としての歯磨きの習慣の始まり, 第25回日本保健医療行動科学会, 前橋元気プラザ

藤田 尚 (2010年9月11日) : 縄文人や弥生人はどのように形成されたか (予報) ー韓半島の古人骨の調査からー, 第64回日本人類学会遺伝分科会シンポジウム (オーガナイザー兼務), 東京大学

藤田 尚 (2010年10月2日) : 縄文時代人・弥生時代人の齲蝕, 第64回日本人類学会歯の人類学分科会シンポジウム (座長兼務), 伊達市文化センター

藤田 尚 (2010年10月28日) : 江戸時代人の喪失歯 (残存歯) 数の研究, 第69回日本公衆衛生

学会総会, 東京国際フォーラム

5. その他の研究活動

藤田 尚 (2008) 中米ホンジュラス共和国にて、マヤ遺跡出土人骨の鑑定研究に従事 (約15日間)

藤田 尚・橋本裕子・水島崇一郎 (2009) 韓国三江文化財研究院にて、科学研究費による調査 (約4日間)。

藤田 尚・橋本裕子・庄田慎矢 (2010) 韓国釜山大学校博物館にて、科学研究費による調査 (約4日間)。

柳澤清一・藤田 尚 (2011) 北海道礼文島にて、科研費によるアイヌ期の遺跡発掘調査 (約10日間)。

藤田 尚・橋本裕子・川久保善智・大野憲五 (2011) 韓国釜山大学校博物館にて、科研費による調査 (5日間)。

【学会等による活動】

日本人類学会評議員 (平成9年ー現在に至る)

日本人類学会遺伝分科会幹事 (平成7年ー現在に至る)

日本老年歯科医学会評議員 (平成12年ー現在に至る)

日本旧石器学会会計監査役 (平成18年・19年)

日本旧石器学会幹事 (編集委員・ニューズレター委員) (平成20年・21年)

厚生労働省医政局検討会委員 (平成19年・20年)

東京都板橋区高齢者大学講師 (平成19年ー22年)

日本人類学会会計監査役 (平成21年ー現在に至る)

平成21年度日本人類学会大会運営委員 (平成21年)

平成21年度日本人類学会若手研究者奨励賞選考委員 (平成21年)

【社会活動】

東京大学理学部非常勤講師 (2005ー現在に至る)

早稲田大学人間科学部非常勤講師 (2004ー現在に至る)

早稲田大学大学院人間科学研究科非常勤講師 (2006ー現在に至る)

東京大学大学院理学系研究科客員共同研究員 (2005ー現在に至る)

東京都健康長寿医療センター研究所協力研究員 (2009ー現在に至る)

北里大学医学部非常勤講師 (2009ー2010年度)

【外的資金獲得】

藤田 尚 (研究代表者)、鈴木隆雄、橋本裕子、川久保善智、庄田慎矢「韓国出土人骨の形質人類学的研究」基盤研究C、課題番号 21570246、2009年度ー2011年度

藤田 尚 (研究分担者)・平野浩彦・鈴木隆雄他「認知症高齢者の食行動および支援に関連した課題に関する調査研究」厚生労働科学研究費 2009ー2010年度

徐 淑子

【研究活動】

1. 原著論文

葛西賢太, 徐淑子(2008):リカバリー・ダイナミクス・プログラム日本導入の意義と可能性—AAプログラムとの共通点・相違点を検討しながら, 日本アルコール関連問題学会雑誌 10, 83-88.

2. その他の論文

徐淑子、東優子、野坂祐子、池上千寿子(2007): 性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」平成 18 年度総括・分担報告書, 9-14

徐淑子、東優子、野坂祐子、内海千種、池上千寿子、鍵田いずみ、要友紀子、渋井哲也、仲尾唯治、松沢呉一、張由紀夫(2008): 性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究Ⅱ, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」平成 19 年度総括・分担報告書, 9-14.

徐淑子(2009): 性娯楽施設・産業に係わる人々への健康教育介入に向けて—コミュニティ参加を促進する立案・実施・評価ガイドラインについての検討, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」平成 20 年度総括・分担報告書, 5-7.

3. 著書

なし

4. 学会発表

徐淑子(2007年3月17日): 性感染症の予防的保健行動と性の関係性, 第13回日本行動医学会学術総会, シンポジウム1『若者と大人の性感染症予防』, 埼玉県立大学

Higashi, Y Suh, S, Ikegami, C, Nosaka, S, Katsumata, S. (April 15, 2007): Japanese men and their utilization of sex entertainment establishment/industry, 18th World Congress of the WAS/1st World Congress for Sexual Health, Sydney, Australia

葛西賢太, 徐淑子(2007年6月23日):リカバリー・ダイナミクス・プログラム日本導入の意義と可能性—AAプログラムとの共通点・相違点を検討しながら, 日本アルコール関連問題学会総会, 高崎メトロポリタンホテル.

徐淑子 (2007年8月19日):ピア・モデルを活用した映像教材の開発, 第3回アジア性教育会議, 立教大学.

Higashi, Y., Nosaka, S., Uchiumi, C., and Suh, S. (Oct 16-20, 2008): Sexual Health Practices among Young Japanese Women Who Have Sex in Exchange for Money, The 10th Asia-Oceania Conference for Sexology and Exhibition..Beijing, China.

徐淑子、東優子、野坂祐子、内海千種、勝又沙織 (2007年11月30日) : 日本人成人異性愛男性における性娯楽サービス利用時のコンドーム使用, 第21回日本エイズ学会学術集会・総会. 広島国際会議場

徐淑子、東優子、野坂祐子、内海千種、勝又沙織 (2008年11月30日) : 日本人成人異性愛男性における性娯楽サービス利用時のコンドーム使用, 第22回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪。

野坂祐子、内海千種、東優子、徐淑子 (2008年11月30日) : 青年期女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルス, 第22回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪

徐淑子（2010年8月30日）：性教育の実践にあたって知っておきたいこと2題，糸魚川市性教育スタッフ研修，糸魚川市役所子ども育成課主催，糸魚川市役所研修室

徐淑子（2010年9月11日）：健康教育のメッセージをよりよく届けるために，社団法人日本助産師会新潟県支部研修会公開講座，新潟県立看護大学第一ホール

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

徐淑子（2007年11月21日）：生と性について話そう，新潟県立海洋高校研修会。

徐淑子（2007年12月14日）：リカバリー・ダイナミクスー健康教育・患者教育の見地から第1回「依存症からの回復」研究会，墨田区。

徐淑子（2010年5月23日）依存症は学校でどう教えられているか 2010年5月23日第226回アルコール問題を考える集い，仲間と共に歩む会主催，東村山公民館

【外的資金獲得】

文部科学省科学研究費「アルコール・薬物乱用防止教育とエイズ教育統合の試み」2007年度
2008年度

文部科学省科学研究費「個人・行動・環境・健康リスクをコア概念とした薬物・アルコール依存症予防教育の画策」2009年度
2010年度

渡辺 弘之

【研究活動】

1. 原著論文

- ・ 渡辺弘之 (2010) : ベトナムにおけるハンセン病対策の現状と課題—重度障害を持つ患者の処遇改善に向けて—, 国際保健医療, 第 25 巻第 1 号, 79-87.

2. その他の論文

- ・ 渡辺弘之 (2008) : ベトナムのハンセン病村における子どもたちの意識と生活—ハンセン病村における聞き取りを通して—, 人間科学研究, 9 巻 5 - 28.
- ・ 渡辺弘之 (2008) : ハンセン病による障害程度とMDT導入時期との比較—ベトナムのハンセン病患者を事例として—, 新潟県立看護大学看護研究交流センター年報, 4 号, 47-50.

3. 著書

- ・ 山本淳子, 渡辺弘之, Sarah Crow. (2007) : 看護師の英語ワークブック—患者対応の基本 93 フレーズ—, 株式会社NOVA, 東京.

4. 学会発表

- ・ 渡辺弘之 (2010 年 9 月) : ベトナムにおけるハンセン病元患者への就労支援プログラム事例, 国際保健医療学会学術大会 第 25 回大会 日本赤十字九州国際看護大学.
- ・ 渡辺弘之 (2009 年 8 月) : ベトナムのハンセン病 (元) 患者の状況と障害程度, 国際保健医療学会学術大会, 東北大学.
- ・ 渡辺弘之 (2008 年 10 月) : ベトナムのハンセン病 (元) 患者の障害と特徴, 日本社会福祉学会大会, 岡山県立大学.
- ・ 渡辺弘之 (2007 年 10 月) : ベトナムにおけるハンセン病 (元) 患者の実態とその特徴について, 日本社会福祉学会大会, 大阪市立大学.

5. その他の研究活動

- ・ WATANABE HIROYUKI (2010) : Thực hành chăm sóc điều dưỡng trên những bệnh lây qua đường tình dục.(Quy Hoa National Leprosy Dermatology Hospital(Vietnam)におけるスタッフ向けセミナー)
- ・ WATANABE HIROYUKI (2008) : Curriculum of Nursing Education in Japan.(Quy Hoa National Leprosy Dermatology Hospital(Vietnam)におけるスタッフ向けセミナー)

【学会等における活動】

- ・ 日本社会学会
- ・ 日本国際保健医療学会
- ・ ハンセン病市民学会
- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 福祉社会学会
- ・ 解放社会学会
- ・ 日本時事英語学会 (2006- 2010)

【社会活動】

- ・ 上越市介護保険サービス評価会議座長 (2002~2010)

- ・ 上越市ユニバーサルデザイン検討委員会副委員長（2005～2009年）

【外的資金獲得】

- ・ 科学研究費基盤研究(B)「ベトナムのハンセン病（元）患者および家族の状況分析と社会復帰支援に関する研究」（20402045）2008～2011年

【研究活動】

1. 原著論文

- ① 永吉雅人, 村尾元, 玉置久 (2009) : POMDPsでの強化学習における状態フィルタ, 計測自動制御学会論文集, 45(1), 41-50.
- ② Masato Nagayoshi, Hajime Murao and Hisashi Tamaki (2010) : A Reinforcement Learning with Switching Controllers for Continuous Action Space, Artificial Life and Robotics, 15, 97-100.

2. その他の論文

2-1. 国際会議 (査読あり)

- ① M. Nagayoshi, H. Murao and H. Tamaki (2010.2.4) : A Reinforcement Learning with Switching Controllers for Continuous Action Space, Proc. the 15th International Symposium on Artificial Life and Robotics 2010 (AROB 15th'10), 236-239(GS7-2(on CD-ROM)), 別府市.
- ② M. Nagayoshi, H. Murao and H. Tamaki (2010.8.19) : Switching Reinforcement Learning to Mimic an Infant's Motor Development - Application to Two-dimensional Continuous Action Space -, Proc. SICE Annual Conference 2010 (SICE 2010), 243-246(TA09-3(on DVD-ROM)), 台北(台湾).
- ③ M. Nagayoshi, H. Murao and H. Tamaki (2011.1.29) : Adaptive Co-construction of State and Action Spaces in Reinforcement Learning, Proc. the 16th International Symposium on Artificial Life and Robotics 2011 (AROB 16th'11), 589-592(GS1-1(on CD-ROM)), 別府市.
- ④ C. IIDA, H. MIZUSAWA, N. HARA, Y. SUDO, R. HORI, A. HASHIMOTO, N. OKAMURA, M. NAGAYOSHI, A. FUJIKAWA, Y. TSUNOYAMA and Y. MIZUGUCHI (2011.2.12) : PARTICIPANTS' PERSPECTIVES ON THE FUNCTION OF A PROFESSIONAL DEVELOPMENT LEARNING SYSTEM FOR NURSES ON A CAREER BREAK AND THEIR EVALUATION OF THE LEARNING SYSTEM, Proc. the 14th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2011), 381 (PP II-151), Seoul(Korea).

2-2. 報告書

- ① 永吉, 橋詰, 北山, 室崎, 神吉 (2007) : 電動車いすによる自律移動を促進する開発およびまちの環境整備に関する研究, 平成18年度兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集, 102-109.
- ② 橋詰, 中村, 永吉, 室崎, 神吉 (2007) : 高齢者・障害者の生活支援用具の開発と適合に関する研究, 平成18年度兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集, 110-114.
- ③ 深澤, 堀, 栗生田, 橋本, 原, 水澤, 岡村, 飯田, 浦山, 永吉, 若杉, 吉山 (2008) : 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み, 平成19年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対策教育推進プログラム」成果報告書, 分担執筆 (III章2節 (pp.41-44), IV章1-3節 (pp.47-108)) .
- ④ 深澤, 堀, 栗生田, 橋本, 原, 水澤, 岡村, 飯田, 浦山, 永吉, 若杉, 吉山 (2009) : 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み, 平成20年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対策教育推進プログラム」成果報告書, 全体編集及び分担執筆 (V章4節 (pp.75-86), VI章2節 (pp.91-93), VII章 (pp.95-144), 付録D, E (pp.158-161)) .
- ⑤ 堀, 深澤, 栗生田, 橋本, 原, 水口, 大久保, 水澤, 岡村, 飯田, 永吉, 藤川, 角山 (2010) : 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み, 平成21年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対策教育推進プログラム」成果報告書, 分担執筆 (III章6-1)節 (pp.46-51)).

- ⑥ 原, 永吉, 角山, 須藤 (2010): 最新看護技術周知のためのWEBネットワーク構築の試み-高齢者ケアにかかわるネットワークづくり-, 平成 21 年度看護研究交流センター年報, 9-110.

3. 著書

なし

4. 学会発表

- ① 村井, 永吉, 村尾, 玉置 (2007. 5. 16): 強化学習による電動車イスの適応的直進走行, 第 51 回システム制御情報学会研究発表講演会, 京都市.
- ② 橋詰, 北川, 室崎, 永吉, 米田, 神吉, 糟谷 (2007. 8. 24): 車いす使用者の電車乗降アクセシビリティの研究, 第 22 回リハ工学カンファレンス, 名古屋市.
- ③ 村井, 永吉, 玉置 (2007. 9. 4): 強化学習による電動車イスの適応的直進走行, 平成 19 年電気学会電子・情報・システム部門大会, 大阪市.
- ④ 大原, 永吉, 橋詰, 北山, 大森 (2007. 12. 12): 電動車いすによる自律移動を促進する開発, 第 16 回交通・物流部門大会 (TRANSLOG2007), 川崎市.
- ⑤ 永吉, 村尾, 玉置 (2008. 11. 21): 強化学習を用いた電動車いすのワンボタン制御, 第 83 回知識ベースシステム研究会, 霧島市.
- ⑥ 大原, 玉置, 永吉, 橋詰, 大森 (2008. 12. 10): 斜面横断時における電動車いすの直進走行システム, 第 17 回交通・物流部門大会 (TRANSLOG2008), 川崎市.
- ⑦ 永吉, 村尾, 玉置 (2009. 9. 12): 強化学習における行動空間の適応的構成法の提案, 平成 21 年度電気関係学会北陸支部連合大会, 能美市.
- ⑧ 大原, 永吉, 玉置, 橋詰 (2009. 9. 18): 傾斜路面横断時における電動車いす用直進走行システムの試作, 生体医工学シンポジウム 2009, 千葉市.
- ⑨ 堀, 水口, 岡村, 水澤, どこでもカレッジプロジェクト (深澤, 粟生田, 橋本, 原, 大久保, 飯田, 永吉, 藤川, 角山) (2009. 11. 15): 基礎看護技術のためのe-Learning教材作成の試みと評価, 平成 21 年度情報教育研究集会, 仙台市.
- ⑩ 橋本, 吉山, 永吉, 深山, どこでもカレッジプロジェクト (2009. 11. 15): 看護師の学び直しに必要なユビキタス教育環境の作成と試みと評価, 平成 21 年度情報教育研究集会, 仙台市.
- ⑪ 原, 飯田, 深澤, 粟生田, 藤川, 大久保, 角山, どこでもカレッジプロジェクト (橋本, 永吉, 堀, 水口, 岡村, 水澤) (2009. 11. 15): ニーズに基づく潜在看護師の学び直しシステムの構築と試み, 平成 21 年度情報教育研究集会, 仙台市.
- ⑫ 永吉, 村尾, 玉置 (2009. 11. 22): 連続行動空間への適用を考慮した学習器の切り替えを行う強化学習, 第 52 回自動制御連合講演会, 豊中市.
- ⑬ 大原, 玉置, 永吉, 橋詰, 大森 (2009. 12. 3): 斜面横断時における電動車いすの直進走行システムII, 第 18 回交通・物流部門大会 (TRANSLOG2009), 渋谷区.
- ⑭ 永吉, 村尾, 玉置 (2010. 4. 21): 連続行動空間への適用を考慮したSwitching強化学習: 二次元連続行動空間への適用, 第 54 回システム制御情報学会研究発表講演会, 京都市.
- ⑮ 永吉, 村尾, 玉置 (2010. 9. 3): 連続行動空間への適用を考慮したSwitching強化学習の状態空間構成に関する一考察, 平成 22 年電気学会電子・情報・システム部門大会, 熊本市.
- ⑯ 永吉, 村尾, 玉置 (2010. 11. 25): 強化学習における状態空間と行動空間の適応的共構成に関する試み, システム・情報部門学術講演会 2010 (SSI2010), 京都市.
- ⑰ 永吉, 杉田, 橋本, 小林, 平澤, 飯吉, 曾田, 室岡, 坂本 (2010. 12. 10): 化学物質に過敏な児童・生徒に関するアンケート再調査, 平成 22 年度室内環境学会学術大会, 横浜市.

5. その他の研究活動

- ① 看護研究交流センター事業 どこでもカレッジプロジェクト メンバー（平成 22 年 3 月まで）
- ② 看護研究交流センター 地域課題研究
 - （ア）平成 21～22 年度 「最新看護技術周知のための WEB ネットワーク構築の試み-摂食・嚥下，栄養，口腔機能向上ケアスキル版-」，分担。
 - （イ）平成 22 年度 「化学物質過敏症に関する実態調査を例にしたアンケート調査における IT 化の試み」，代表。
- ③ 看護研究交流センター特別研究部門「メディカルグリーンツーリズム」メンバー，介護準備コース，広報担当（平成 22 年 4 月より）
- ④ 研究活動による受賞
 - （ア）平成 22 年 1 月：平成 21 年電気関係学会北陸支部連合大会 優秀論文発表賞
 - （イ）平成 22 年 8 月：The Society of Instrument and Control Engineers Finalist in the SICE Annual Conference Young Author' s Award

【学会等における活動】

1. 学会会員

- ① システム制御情報学会
- ② 電気学会
- ③ 計測自動制御学会
- ④ 人工知能学会
- ⑤ IEEE 会員（平成 20 年 3 月より平成 22 年 12 月まで）
- ⑥ 室内環境学会（平成 22 年 4 月より）

2. 委員会

- ① 電気学会 電子・情報・システム部門システム工学技術委員会
実応用を指向する機械学習技術調査専門委員会 委員（平成 22 年 9 月より）

3. 査読

- ① 電気学会 C 部門誌（平成 22 年 9 月より）
- ② Journal of Artificial Life and Robotics（平成 23 年 1 月より）

【社会活動】

- ① 快適住まい環境研究会 幹事（平成 20 年 4 月より平成 22 年 3 月まで）
 - （ア）平成 20 年 10 月：千葉大学 森千里先生「誰もが安心して暮らせる化学物質の少ない街を」講演会（上越文化会館にて）主催
 - （イ）平成 21 年 3 月：“「基礎科学セミナー」をおえて，” 住ま研ニュース（発行：快適住まい環境研究会），Vol. 11(6)，pp. 1-3，寄稿。
 - （ウ）平成 21 年 7 月：ケミレスタウン見学会（千葉大学環境健康フィールド科学センター内にて）主催
 - （エ）平成 21 年 7 月：住ま研ニュース（発行：快適住まい環境研究会），Vol. 12(2)，文責
 - （オ）脊髄損傷青年の道具改良による作業性の向上に関する援助（平成 21 年 9 月より）
- ② 上越市多発性硬化症患者の環境制御装置内の Mac パソコン構築ボランティア（平成 21 年 9 月より）
- ③ 平成 21 年 11 月：難病出前パソコンボランティア養成講座 in 上越（新潟県立看護大学 第一ホール）協力

- ④ 新潟県立看護大学共通基礎系教員会 基礎科学セミナー
 - (ア) 平成 21 年 1 月：第 16 回講師 道具が「賢く」なる世界！？
 - (イ) 平成 22 年 11 月：第 23 回世話人 精神科医・神谷恵美子の人と仕事
- ⑤ 上越高齢者ケアを考える会 幹事 (HP 管理運営, 当日設営・案内・AV 機器操作担当) (平成 21 年 4 月より)
 - (ア) 平成 21 年 6 月：第一回 第 2 ホール 参加者 99 名
 - (イ) 平成 21 年 9 月：第二回 第 2 ホール 参加者 132 名
 - (ウ) 平成 22 年 2 月：第三回 第 1, 2 ホール 参加者 112 名
 - (エ) 平成 22 年 5 月：第四回 第 1, 2 ホール 参加者 129 名
 - (オ) 平成 22 年 10 月：第五回 第 1, 2 ホール 参加者 150 名
 - (カ) 平成 23 年 2 月：第六回 第 1, 2 ホール 参加者 128 名
- ⑤ 新潟県難病支援センター 会員 (平成 22 年 4 月より)
- ⑥ 関川水辺クラブ 後援 (新潟県立看護大学水研究サークル顧問として) (平成 22 年 4 月より)
 - (ア) 平成 22 年 6 月：水質調査 (関川水辺デイ) 参加
 - (イ) 平成 22 年 7 月：関川クリーン作戦 参加
 - (ウ) 平成 23 年 6 月：水質調査 (関川水辺デイ) 参加
- ⑦ 看護研究交流センター公開講座：看護情報処理セミナー 講師
 - (ア) 平成 20 年 10 月
 - (イ) 平成 21 年 10 月
 - (ウ) 平成 22 年 9 月

【外的資金獲得】

- ① 平成 21～22 年度 科学研究費補助金 若手研究 (B) 「乳幼児における知覚・運動の相互発達模倣型強化学習システム」 (1,560 千円(1,200 千円)).

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
 - 中村博生、Simon J. Elderton (2008): 大学生のための英字新聞読解—パラグラフのコントロールリング・アイデアに焦点を当てた英文読解練習帳—、北越印刷株式会社
3. 学会発表
なし
5. その他の研究活動
 - Simon Elderton (H. 20年4月～現在に至る) 研究教材の翻訳 (和英) (論文・企業研究・医療機関)
新潟県立看護大学の多くの教員の多数の研究の英文要旨等の翻訳 (H. 20年度～ 20件以上)
 - Simon Elderton (H. 20年6月) 上越中学校の英語教員の会(Echo会)の研修会
Guest speaker (Topic: The Third Place)
 - Simon Elderton (H. 20年6月) 基礎科学セミナー (The Third Place: 第三の場所)
新潟県立看護大学基礎科学セミナーを対象としたプレゼンテーション
 - Simon Elderton (H. 20年11月) 上越中学校の英語教員の会(Echo会)の研修会 Guest speaker (Topic: A Step Towards Building an English-Speaking Identity in Japan)
 - Simon Elderton (H. 21年10月) 英語を担当する上越地区の小学校の先生のための研修会シリーズ 担当指導者
(英語を楽しく、効果的に指導する方法の研修会: 第一回～第四回)
 - Simon Elderton (H. 21年11月～現在に至る) 外国から呼ばれたGuest Speaker の講義通訳
 - (1) Davies, E. (H. 21年11月24日) 新潟県立看護大学と上越教育大学の連携公開講座の講演「ケアする人のグリーフ・ケア」 (S. Elderton Interpreter)
 - (2) Attig, T. (H. 21年11月25日) 新潟県立看護大学と上越教育大学の連携公開講座の講演「教育におけるグリーフ・ケア」 (S. Elderton Interpreter)
 - (3) Schreiner, S. (H. 21年12月11日) 新潟県立看護大学看護研究交流センター専門公開講座「看護の役割拡大の可能性: 米国における専門看護師 (ナース・プラクティショナー) 活動の実践から」 (S. Elderton Interpreter)
 - Simon Elderton (H. 22年3月) ニュージーランドのリンカン大学とネルソンカレッジにおける第二言語学者のL2 Motivationに関する調査
 - Simon Elderton (H. 22年4月～H. 23年3月) 新潟県立看護大学看護研究交流センター先駆的学習支援部門 部門員
 - Simon Elderton (H. 22年4月～現在に至る) Associate Editor (English submissions) The Journal of Infection Control and Prevention (Edix International Co., Ltd., Department of Publications) 「雑誌「感染制御」(株)EDIXi出版部」

【学会等における活動】

- Simon Elderton (H. 20年4月～現在に至る) ECHO会 (上越中学校の英語教員の会) 会員
- Simon Elderton (H. 20年4月～現在に至る) T-E-GETPORA会 (上越小学校英語担当教員の会)

会員・指導者

- Simon Elderton (H. 20 年 4 月～現在に至る) JETAA (JETプログラム同窓会) (関東甲信越部) 協会会員
- Simon Elderton (H. 23 年 1 月～現在に至る) JALT (全国語学教育学会) 会員

【社会活動】

- Simon Elderton (H. 19 年 8 月) 新潟県立看護大学公開講座 (夏季看護英語セミナー英会話ワークショップ)
新潟県内に在住の現役看護師を対象とした英会話指導
新潟県立看護大学教員を対象とした英会話指導
- Simon Elderton (H. 21 年 7 月) 国際イベントで通訳 (田中産業に呼ばれたアメリカ海軍の訪問)
- Simon Elderton (H. 21 年 11 月 22 日) 上越市教育委員会と中村博生准教授主催した「英語ショッピング」の英語指導

【外的資金獲得】

なし

II 生物医学領域

中野 正春

【研究活動】

3 著書

- ・中野正春（2007）：第1特集 スローエイジングとアンチエイジング 骨折を防いで快適な老後を - 骨粗鬆症対策 -, 臨牀看護, 33 (10), 1406—1411
- ・中野正春（2009）：2010 年看護師国家試験必修問題オール予想 目標Ⅲ 12 主要疾患と看護 ナーシングカレッジ 2009. 10 臨時増刊号 104—119

【学会等における活動】

昭和 49 年 7 月 日本整形外科学会会員（現在に至る）
昭和 49 年 7 月 新潟整形外科研究会会員（現在に至る）
昭和 50 年 4 月 日本股関節学会会員（現在に至る）
昭和 50 年 4 月 東北整形災害外科学会会員（現在に至る）
昭和 63 年 5 月 東日本臨床整形外科学会会員（現在に至る）
昭和 63 年 7 月 日本小児整形外科学会会員（現在に至る）
平成 2 年 11 月 中部日本整形外科災害外科学会会員（現在に至る）
平成 11 年 4 月 小児股関節研究会会員（現在に至る）

【社会活動】

平成 19 年 上越災害医療コーディネーターチーム員（現在に至る）
平成 19 年 上越災害医療訓練実行委員会委員（現在に至る）
平成 20・21・22 年度 上越市教育総合プラン 点検・評価員
平成 20 年度 上越地域新型インフルエンザ発生対応実行委員会委員
平成 20～22 年度 看護系大学タスクフォース担当者

関谷 伸一

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

①関谷伸一，南部久男，西岡 満，栗原 望，田島木綿子，山田 格（平成 20 年 3 月）：カマイルカの腕神経叢について、日本解剖学会、大分

②関谷伸一（平成 21 年 3 月）：ローランドゴリラ足背の皮神経、日本解剖学会、岡山

③関谷伸一、荒川孝光（平成 22 年 3 月）：チンパンジー足背の皮神経、日本解剖学会、盛岡

④Sekiya, S.（平成 23 年 3 月）：Cutaneous nerves of the dorsum of the foot of the orangutan. 日本解剖学会、横浜

【所属学会】

日本魚類学会

日本動物学会

日本解剖学会

日本海セトロジー研究会

日本霊長類学会

人類形態科学研究会

コ・メディカル形態機能学研究会

American Association of Anatomists

【社会活動】

なし

【外的資金獲得】

なし

【研究活動】

1. 原著論文

- Nobuo Yamaguchi, Takashi Takahashi, Masahiro Sakuma, Toshiroh Sugita, Kumiko Uchikawa, Mitsuo Sakaihara, Tsugiyasu Kanda, Matsuo Arai and Kenji Kawakita(2007):
Acupuncture Regulates Leukocyte Subpopulations in Human Peripheral Blood.
Evidence-based Complementary and Alternative Medicine, 4(4), 447-453.
- Mitsuo Sakaihara(2007):
Claims made by children in Japan for injuries caused before birth.
Medicine Science and Law, 47(1), 61-63.
- 境原三津夫(2007): 看護師の業務範囲について—看護師の産婦に対する内診—
学校法人昌賢学園論集, 6, 103-114.
- 境原三津夫(2009): 医療事故とインフォームド・コンセント - 患者と家族が納得するために
学校法人昌賢学園論, 7, 71-83.
- 河内和直, 境原三津夫(2010): 免疫システムとパーソナリティ特性の関係 —パーソナリティ
の免疫学への挑戦—, 学校法人昌賢学園論集, 8, 157-164.
- 境原三津夫, 片桐幸司(2010): 介護福祉士養成における医学教育のあり方,
群馬社会福祉論叢第, 2, 35-50.

2. その他の論文

- 境原三津夫(2008): インフォームド・コンセント法理の発展—医師と患者による治療法決定
過程に関する考察—
平成 18 年度～平成 19 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書, 4-11.
- 境原三津夫(2008): 先進的胎児治療におけるインフォームド・コンセント
平成 18 年度～平成 19 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))
研究成果報告書, 12-17.

3. 著書

- 久々湊晴夫, 旗手俊彦編著 著者 境原三津夫, 他 9 名(2009): はじめての医事法, 成文堂,
東京.

4. 学会発表

- 境原三津夫(2007年11月25日): 看護師の内診問題と産婦人科医療の今後,
第37回日本医事法学会総会, 東京都.
- 生井恵理, 大嶋寛, 境原三津夫(2010年11月5-6日): 無輸血希望妊婦に対する子宮動脈塞
栓術の有用性, 第51回日本母性衛生学会, 金沢市.

【学会等における活動】

日本産科婦人科学会
日本周産期・新生児医学会
日本補完代替医療学会
日本児童青年精神医学会

【社会活動】

1. 平成 18 年 4 月～ 金沢医科大学非常勤講師
2. 平成 21 年 4 月～ 教員免許状更新時講習講師(群馬医療福祉大学)
3. 平成 23 年 1 月 27 日 群馬県高等学校教育研究会教育相談部会中部前橋地区研修会講師

【外的資金獲得】

1. 研究種目 科学研究費補助金 基盤研究 (C)
期間 (年度) 平成 18-19 年度
研究課題 先進的胎児治療におけるインフォームド・コンセント
研究者 境原三津夫(研究代表者)、牧野田知、須田晟雄
研究経費 180 万円
2. 研究種目 科学研究費補助金 基盤研究 (C)
期間 (年度) 平成 22-24 年度
研究課題 助産事故を経験した助産契約当事者間の信頼関係形成過程に関する質的研究
研究者 高島葉子 (研究代表者)、境原三津夫(研究分担者)、中島通子
研究経費 30 万円

Ⅲ 基礎看護学領域

坪倉 繁美

【研究活動】

1. 原著論文

・坪倉繁美、川井八重、角野文彦、畑下博世(2007)：障害者自立支援法と精神保健福祉活動への取り組み実態調査、平成19年度厚生労働科学研究(障害保健福祉総合研究事業)、10-46.

2. その他の論文

- ・坪倉繁美(2010)：日々の看護体験を体系的知識に結びつける帰納的学習、看護教育、51(5)、390-392.
- ・坪倉繁美、藤木猛(2010)：「市民の生活を守る・支援する政治・行政」-滋賀県守山市の健康生活、街づくり政策の事例から-社会科学ジャーナル(国際基督教大学社会科学研究所編)、70、89-91.
- ・坪倉繁美(2008)：新しい活動を目指した取り組みのために、公衆衛生情報、34-35.
- ・中谷順子、佐々木久美子、坪倉繁美、永池京子(2010)：心電図モニタを安全に使用するための取り組み、看護、62(12)、095-099.
- ・常田裕子、佐々木久美子、坪倉繁美(2010)：看護補助体制の充実を図る適切な役割分担と効果的な配置、看護、62(11)、70-71.

3. 著書

・坪倉繁美(編集)、大田容子、長尾厚子、中村しをり、能川ケイ、石田しげ子、稲光禮子、中澤明美、平良孝美、山崎千枝美、梶田初美、佐藤治代、加藤奈保美、杉村登志子、菅谷しづ子、芦澤トモ子、武田淳一、海上英美子、小林由紀子(2010)：ペーパー・ペイシェントで学ぶ教える(第2版)、183頁、医学書院、東京.

4. 学会発表

- ・坪倉繁美、角野文彦、川井八重、畑下博世(2008.11.7)：障害者自立支援法に関する精神保健活動の取り組みの実態調査(第1報)、日本公衆衛生学会総会(日本公衆衛生学会総会抄録集338頁)、福岡.
- ・川井八重、坪倉繁美、角野文彦、畑下博世(2008.11.7)：障害者自立支援法に関する精神保健活動の取り組みの実態調査(第2報)、日本公衆衛生学会総会(日本公衆衛生学会総会抄録集339頁)、福岡.
- ・中谷順子、佐々木久美子、坪倉繁美、福井トシ子(2010.11.27)一般病棟における心電図モニタの安全使用のための環境づくりを考える 第2報-「一般病棟における心電図モニタ安全使用確認ガイド」普及にむけて-、医療の質・安全学会(医療の質・安全学会誌113頁)、千葉.

5. その他の研究活動

- ・検討委員：岡本玲子、奥山則子、西内千代子、森田正子、森永裕美子、櫻澤正浩、日本看護協会：井伊久美子、坪倉繁美、服部めぐみ、下野由香、亀ヶ谷律子(2011.3)：実践に活用できる！保健指導ミーティングの手引-保健指導のスキルアップを目指して-、平成22年度厚生労働省保健指導支援事業報告書、全70頁.
- ・検討委員：中板育美、大場エミ、佐久間清美、標美奈子、畑中純子、堀井とよみ、森岡幸子、日本看護協会：井伊久美子、坪倉繁美、塚尾晶子、亀ヶ谷律子(2011.3)：保健師活動強化コンサルテーション事業 報告書-中堅保健師の力量形成のためのコンサルテーションプログラム-、平成22年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業報告書、全129頁.
- ・検討委員：曾根智史、五十嵐千代、臺有桂、土屋厚子、波川京子、東史人、堀井とよみ、日本看護協会：井伊久美子、坪倉繁美、藤井広美、橋本結花、津村京子(2010.3)：保健師の活動基盤に関する

る基礎調査、平成 21 年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業報告書、全 166 頁。

・検討委員：曾根智史、五十嵐千代、伊藤悦子、臺有桂、土屋厚子、東史人、本田あゆみ、日本看護協会：井伊久美子、坪倉繁美、橋本結花、下野由香（2011.3）：保健師の活動基盤に関する基礎調査、平成 22 年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業報告書、全 196 頁。

【学会等における活動】

平成 8 年 4 月 日本看護研究学会員（平成 19 年より評議員、現在に至る）

平成 11 年 8 月 日本看護学教育学会員（現在に至る）

平成 12 年 4 月 日本看護科学学会員（現在に至る）

平成 15 年 10 月 日本公共政策学会員（現在に至る）

平成 17 年 12 月 日本公衆衛生学会員（現在に至る）

【社会活動】

・平成 19 年 4 月 滋賀医科大学大学院修士課程の修士論文外部評価委員（平成 21 年 3 月まで）

・平成 19 年 12 月 滋賀県 公衆衛生情報解析体制構築検討会委員（平成 22 年 3 月まで）

・平成 20 年 4 月 守山市民病院改革プラン策定委員会委員（平成 21 年 7 月まで）

・平成 20 年 5 月 滋賀県看護教員養成講習会開催準備委員会委員（平成 21 年 3 月まで）

・平成 19 年 6 月 九州管内各県看護行政担当者会議講師（テーマ：看護行政）

・平成 19 年 6 月 東京都看護系学校連絡協議会研修講師（テーマ：看護倫理と教育）

・平成 19 年 7 月 京都府看護教員養成講習会講師（テーマ：看護教育方法）

・平成 19 年 8 月 愛媛県公営企業管理局県立病院研修講師（テーマ：看護倫理）

・平成 19 年 10 月 富山県看護教育機関連絡協議会研修講師（テーマ：看護倫理と教育）

・平成 19 年 10 月 日本看護協会認定看護管理者サードレベル研修講師（テーマ：トップマネジャーの意思決定と倫理）

・平成 19 年 10 月 兵庫県看護師等養成所専任教員研修会研修講師（テーマ：看護政策）

・平成 19 年 10 月 滋賀県実習指導者講習会講師（テーマ：看護倫理）

・平成 19 年 11 月 近江守山ライオンズクラブ講演会講師（テーマ：街づくり）

・平成 19 年 12 月 日本看護協会神戸研修センター研修講師（テーマ：看護倫理）

・平成 20 年 2 月 大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会講師（テーマ：看護倫理）

・平成 20 年 5 月 兵庫県看護教員養成講習会講師（テーマ：看護教育課程論）

・平成 20 年 8 月 大阪府看護教員養成講習会講師（テーマ：看護倫理）

・平成 20 年 9 月 大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会講師（テーマ：看護倫理）

・平成 20 年 10 月 滋賀県実習指導者講習会講師（テーマ：看護倫理）

・平成 22 年 5 月 千葉県中堅前期保健師研修会講師（テーマ：中堅保健師の役割）

・平成 22 年 7 月 京都府看護教員養成講習会講師（テーマ：看護教育方法）

・平成 22 年 9 月 滋賀県実習指導者講習会講師（テーマ：看護倫理）

・平成 22 年 9 月 日本看護協会医療安全管理者養成研修講師（テーマ：医療安全）

・平成 23 年 2 月 長野県保健師専門研修会講師（テーマ：専門性の発揮）

・平成 23 年 3 月 札幌フットケア研究会講師（テーマ：爪ケアの刑事事件）

【外的資金獲得】

平成 19 年度厚生労働科学研究（障害保健福祉総合研究事業）、畑下博世主任研究、障害者自立支援法を踏まえた精神保健福祉センター、保健所の役割と機能強化についての精神保健福祉施策研究の分担主任

堀 良子

【研究活動】

1. 原著論文

堀良子,高野尚子,葭原明弘,宮崎秀夫 (2010) : 一般病棟入院患者における口腔清掃と発熱との関連, 日本環境感染学会誌, 25 (3) , 85-90.

2. その他の論文

岡村典子,藤井徹也,堀良子 (2009) : 看護系大学における基礎看護技術修得に向けた教育に関する検討, 日本看護教育学会誌, 19 (1) , 13-27.

水澤久恵,堀良子,水口陽子,岡村典子 (2009) : 身体侵襲を伴う静脈血採血技術CAI教材の開発と評価, 日本看護学会論文集－看護教育－, 39 : 424-426.

霜垣美由紀,堀良子,山崎美幸,坂井洋子,松山睦子 (2009) : 術後閉鎖式ドレーン挿入部を被覆しないで実施するシャワー浴の試み, 日本感染看護学会誌, 5 (1) , 36-40.

吉田朋巳,嶋田美恵子,堀良子 (2008) : 変形性膝関節症患者の運動継続と膝痛軽減に対する外来指導介入の効果, 日本看護学会論文集－成人看護Ⅱ－, 38 : 356-358.

清水亜姫,渡邊晴子,巻口寛美,木暮祐佳,村山綾子,小林奈麻美,堀良子 (2008) : 経鼻栄養法における半固形化栄養剤注入を実施しての効果, 日本看護学会論文集－成人看護Ⅱ－, 38 : 118-120.

3. 著書

なし

4. 学会発表

那須美奈子,堀良子 (2010.9) : 臨地実習で学習困難を経験した時の看護学生のPAC分析, 日本応用心理学会第77回大会, 2010, 京都. (発表論文集, 北斗プリント社, 京都, 2010, 82.)

堀良子,水口陽子,岡村典子,水澤久恵 (2009.11) : 基礎看護技術のためのe-Learning教材作成の試みと評価. 平成21年度情報教育研究集会, 仙台.

堀良子,水口陽子,岡村典子,水澤久恵,渡部江里子,中川恵子 (2009.9) : 長期臥床在宅高齢者と健常者の皮膚表面の健康状態－保清、スキンケアによる検討－, 第8回日本看護技術学会学術集会, 2009, 旭川. (講演抄録集, あいわプリント, 旭川, 2010, 118)

堀良子,水口陽子,岡村典子,水澤久恵,平澤則子,橋本明浩,渡部江里子 (2009.3) : ネットワークで結ぶ訪問看護師の Collaborative Learning の構築(2)－県内訪問看護ステーションのコンピュータ環境と意向調査－, 第13回日本在宅ケア学会学術集会, 大阪. (講演集, 大阪, 121.)

岡村典子,堀良子,水口陽子,水澤久恵,平澤則子,橋本明浩,渡部江里子 (2009.3) : ネットワークで結ぶ訪問看護師の Collaborative Learning の構築(1)－ネットワークシステムを活用したコミュニティ形成への試み－, 第13回日本在宅ケア学会学術集会, 大阪. (講演集, 大阪, 120.)

堀良子 (2009.1) : 連続したオムツ交換における1回毎の手袋交換の必要性に関する検討, 第9回日本感染看護学会学術集会, 大阪. (講演集, 大阪, 48-49.)

水澤久恵,堀良子,水口陽子,岡村典子 (2008.8) : 身体侵襲を伴う静脈血採血技術CAI教材の開発と評価, 第39回日本看護学会－看護教育－, 岐阜.

堀良子,高野尚子,葭原明弘,宮崎秀夫 (2008.7) : 一般病棟入院患者における口腔清掃と発熱との関連, 平成20年度新潟歯学会, 新潟.

堀良子 (2008.3) : 臨地実習指導者養成講習会におけるプロジェクト学習の試み, 第18回日本医学看護教育学会, 出雲.

5. その他の研究活動

堀良子, 深澤佳代子, 栗生田友子, 橋本明浩, 原等子, 水口陽子, 大久保明子, 水澤久恵, 岡村典子, 飯田智恵, 藤川あや, 角山裕美子, 永吉雅人 (2010) : 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み, 文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム 平成 21 年度成果報告書, 1-5, 44-48.

吉山直樹, 深澤佳代子, 堀良子, 栗生田友子, 橋本明浩, 原等子, 水澤久恵, 岡村典子, 飯田智恵, 浦山留美, 永吉雅人, 若杉歩 (2009) : 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み, 文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム 平成 20 年度成果報告書, 75-86.

吉山直樹, 深澤佳代子, 堀良子, 栗生田友子, 橋本明浩, 原等子, 水澤久恵, 岡村典子, 飯田智恵, 浦山留美, 永吉雅人, 若杉歩 (2008) : 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み, 文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム 平成 19 年度成果報告書, 17-22.

【学会等における活動】

日本看護研究学会、日本保健医療行動科学学会 (2009.3 まで)、日本看護科学学会、日本環境感染学会、日本感染看護学会、日本看護技術学会、日本在宅ケア学会、日本看護学教育学会、日本医学看護学教育学会 (2008.10～)、日本口腔衛生学会 (2009.10～2011.3)

【社会活動】

日本看護協会専門看護師認定実行委員会委員長<感染看護> (2010.3 まで)

日本看護協会専門看護師認定委員会委員 (2010.3 まで)

上越市休日急患診療所運営委員 (2010.3 まで)

新潟県立加茂病院看護研究指導者 (2010.3 まで)

新潟県立十日町病院看護研究指導者 (2011.3 まで)

【外部資金獲得】

文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」: 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み, 平成 19 年度～平成 21 年度.

水口 陽子

【研究活動】

2. その他の論文

- ・水澤久恵, 堀良子, 岡村典子, 水口陽子(2009): 身体侵襲を伴う静脈血採血技術CAI教材の開発と評価, 日本看護学会論文集(看護教育), 39号, 424-426.
- ・堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵(2009): 基礎看護技術のためのe-Learning教材作成の試みと評価, 平成21年度情報教育研究集会講演論文集, 69-70.

4. 学会発表

- ・岡村典子, 堀良子, 水口陽子他(2008年3月): ネットワークで結ぶ訪問看護師のCollaborative Learningの構築(1)ーネットワークシステムを活用した学習コミュニティ形成への試みー, 第13回日本在宅ケア学会学術集会, 堺市.
- ・堀良子, 水口陽子, 岡村典子他(2008年3月): ネットワークで結ぶ訪問看護師のCollaborative Learningの構築(2)ー県内訪問看護ステーションのコンピューター環境と意向調査ー, 第13回日本在宅ケア学会学術集会, 堺市.
- ・水口陽子(2008年9月): 基礎看護技術修得のための自己・相互技術チェックの検討ーVTRチェック活用の試みー, 第10回日本看護医療学会学術集会, 浜松市.
- ・水口陽子(2008年10月): 「住居の健康」に関する今日的問題ーF. ナイチンゲールの示した五つの要点からー, ナイチンゲール研究学会, 東京.
- ・堀良子, 水口陽子, 岡村典子他(2009年9月): 長期臥床在宅高齢者と健常者の皮膚表面の健康状態ー保清、スキンケアによる検討ー, 日本看護技術学会第8回学術集会, 旭川市.
- ・水口陽子(2010年9月): 四群点数法による食生活チェックシートの開発の試みー生活調整能力育成のツールとしてー, 第12回日本看護医療学会学術集会, 名古屋市.
- ・水口陽子, 和住淑子, 斉藤しのぶ他(2010年12月): 看護婦養成におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究, 第30回日本看護科学学会学術集会, 札幌市.
- ・山本利江, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 丸茂美智子, 永田亜希子, 水口陽子他(2010年12月): 「大英帝国支配下のインドの衛生改革」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究, 第30回日本看護科学学会学術集会, 札幌市.
- ・和住淑子, 山本利江, 斉藤しのぶ, 丸茂美智子, 永田亜希子, 水口陽子他(2010年12月): 「英国陸軍の衛生改革」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究, 第30回日本看護科学学会学術集会, 札幌市.
- ・斉藤しのぶ, 和住淑子, 山本利江, 丸茂美智子, 永田亜希子, 水口陽子他(2010年12月): 「ハーレイ街病院再建」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究, 第30回日本看護科学学会学術集会, 札幌市.
- ・永田亜希子, 斉藤しのぶ, 和住淑子, 山本利江, 丸茂美智子, 水口陽子他(2010年12月): 「地域看護運動」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究, 第30回日本看護科学学会学術集会, 札幌市.
- ・丸茂美智子, 斉藤しのぶ, 和住淑子, 山本利江, 永田亜希子, 水口陽子他(2010年12月): 「救貧院の看護改革」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究, 第30回日本看護科学学会学術集会, 札幌市.
- ・Wazumi, Y, S. Saito, T, Yamamoto, M. Marumo, A. Nagata, Y. Mizuguchi, etc(2010年8月): Development of the framework for extracting the positive findings for nurses in modern day from F. Nightingale's work about social reform, 北京.

【その他の研究活動】

- ・堀良子, 水口陽子, 岡村典子他(2007): 上越地域における訪問看護師のコミュニティを中心としたeラーニングシステムの基盤整備, 平成18年度看護研究交流センター年報, 9-10.
- ・水口陽子(2008): 基礎看護技術修得のための自己・相互技術チェックの検討ーVTRチェック活用の試みー, 平成19年度新潟県立看護大学年報・学長特別研究費研究報告書, 35-38.
- ・関谷伸一, 橋本明浩, 吉原貴子, 中野正春, 水口陽子(2010): 新潟県立看護大学の機関リポジトリ構築の試み, 平成22年度看護研究交流センター活動報告書, 45-48.

【外的資金獲得】

- ・研究代表者: 和住淑子, 研究分担者: 山本利江他, 連携研究者: 水口陽子(2009-2011): 科学研究費補助金, 基盤研究(C), 社会変革期におけるF.Nightingaleの業績の今日的意義に関する系統的研究.

岡村 典子

【研究活動】

1. 原著論文

- ・岡村典子, 藤井徹也, 堀良子 (2009) : 看護系大学における基礎看護技術修得に向けた教育に関する検討, 日本看護学教育学会誌, 19 (1) , p13-27.

2. その他の論文

- ・野地有子, 柿川房子, 粟生田友子, 直成洋子, 岡村典子他 (2007) : CNS看護教育の課題と展望 CNS10年にあたって, 聖路加看護学会誌, 11 (1) , p146-148.
- ・野地有子, 柿川房子, 粟生田友子, 直成洋子, 岡村典子他 (2007) : CNS看護教育の日米比較 高度看護実践教育の探索, 聖路加看護学会誌, 11 (2) , p45.
- ・野地有子, 柿川房子, 粟生田友子, 直成洋子, 岡村典子他 (2007) : 専門看護師の教育に関する研究ー日本および米国のCNS・NPの教育と実践からー, 新潟県立看護大学平成18年度学長特別研究費 研究報告書, p25-32.
- ・堀良子, 橋本明浩, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 水澤久恵他 (2007) : 上越地域における訪問看護師のコミュニティを中心としたe-ラーニングシステムの基盤整備, 新潟県立看護大学平成18年度看護研究交流センター 年報, p9-10.
- ・関谷伸一, 吉山直樹, 渡辺弘之, 杉田収, 中野正春, 橋本明浩, 山本淳子, 岡村典子他 (2008) : 「生活者の理解」を促進する地域参加を通じた学生の学び, 新潟県立看護大学平成19年度看護研究交流センター 年報, p13-14.
- ・堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵他 (2008) : 県内訪問看護師のコラボレーティブ・ラーニングの可能性に関する研究, 新潟県立看護大学平成19年度看護研究交流センター 年報, p15-16.
- ・吉山直樹, 深澤佳代子, 堀良子, 粟生田友子, 橋本明浩, 原等子, 水澤久恵, 岡村典子他 (2008) : 文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業委託事業 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャルカレッジの試み, 新潟県立看護大学看護研究交流センター 平成19年度成果報告書.
- ・水澤久恵, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子 (2009) : 身体侵襲を伴う静脈血採血技術CAI教材の開発と評価, 第39回日本看護学会論文集 看護教育, p424-426.
- ・吉山直樹, 深澤佳代子, 堀良子, 粟生田友子, 橋本明浩, 原等子, 水澤久恵, 岡村典子他 (2009) : 文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業委託事業 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャルカレッジの試み, 新潟県立看護大学看護研究交流センター 平成20年度成果報告書.
- ・堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵他 (2009) : 長期臥床在宅高齢者と健常者の皮膚表面の健康度比較ー清潔行為・スキンケアとの関連による比較ー, 新潟県立看護大学平成20年度看護研究交流センター年報, p5-6.
- ・堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵他 (2010) : 訪問看護師が行うスキンケアの評価ー長期臥床患者と健常者の皮膚バリア機能による検討ー, 新潟県立看護大学平成22年度看護研究交流センター年報, p9-10.

3. 著書

1) 翻訳書

- ・ゲイル・W・スチュアート, ミシェル・T・ラライア著 (1979) / 安保寛明, 宮本有紀監訳, 金子亜矢子監修 (2007) : 精神科看護 原理と実践 原著第8版, エルゼビア・ジャパン, 東京.

担当箇所；p899-918,

2) 単行本

- ・藤井徹也・工藤美子編集(2010)：ナースが臨床で出会う 困った!ときの対応, メヂカルフレンド社, 東京. 担当箇所；インスリンの前の血糖測定を忘れた (p8-9), 時間で決まっている点滴をし忘れた (p16-17), 血圧測定時, 健側に点滴刺入やシャント造設がされていた (p66-67), 血管音がおかしい(収縮期血圧が聴こえない, 0mmHgまで聴こえる, 測定途中で音が消える) (p68-71), 処置中の患者さんの血液が眼に入った (p94-95), 検査室への移動中に酸素ボンベの残量がなくなってしまった (p146-147), 患者さんが転倒した! (p148-149), 高齢の患者さんがベッドから転落していた (p154-155), 認知症の患者さんが見当たらない (p174-175) .

3) 雑誌掲載

- ・岡村典子 (2007)：基礎看護技術 コミュニケーションは看護の基本, 看護学生, 55 (2), p40-41.
- ・岡村典子 (2009)：看護技術臨時増刊号, 55 (5)；時間で決まっている点滴をし忘れた (p8-9), インスリンの前の血糖測定を忘れた (p38-39), 患者さんが転倒した! (p50-51), バイタルサイン, 検査 血圧測定時, 健側に点滴刺入やシャント造設がされていた (p110-111), バイタルサイン, 検査 血管音がおかしい(収縮期血圧が聴こえない, 0mmHgまで聴こえる, 測定途中で音が消える) (p112-115), 感染管理 処置中の患者さんの血液が眼に入った (p82-83).

4. 学会発表

- ・Ariko Noji, Mayo M.M, Fusako Kakikawa, Tomoko Aohda, Youko Sugunari, Noriko Okamura, et. Al (2007年5月31日)：Advanced Practice Educational Challenges & Innovative Strategies: The Clinical Nurse Specialist Role in the US and Japan, ICN Conference and CNR, Yokohama.
- ・野地有子, 柿川房子, 粟生田友子, 直成洋子, 岡村典子他 (2007年9月22日)：CNS看護教育の日米比較 高度看護実践教育の探索, 第12回聖路加看護学会, 東京.
- ・岡村典子, 宮本真巳 (2007年12月7日)：臨床看護師の「Emotional Intelligence」能力の育成に関する研究, 第27回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- ・高濱圭子, 美濃由紀子, 米山奈奈子, 岡村典子他 (2007年12月8日)：事例検討会参加者の継続学習に関する研究 レビューの機能に焦点をあてて, 第27回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- ・岡村典子, 宮本真巳 (2008年8月3日)：中堅看護師の「Emotional Intelligence」育成に向けた研修プログラムの検討, 第18回日本看護学教育学会学術集会, つくば市.
- ・岡村典子, 宮本真巳 (2008年11月24日)：看護基礎教育課程における学生の感情活用能力養成に関する研究, 日本カウンセリング学会第41回大会, 東京.
- ・角田みすず, 岡村典子, 宮本真巳他 (2008年11月24日)：自主シンポジウム 対人援助職における人材育成について -医療, 福祉, 教育現場の実際-, 日本カウンセリング学会第41回大会, 東京.
- ・岡村典子, 宮本真巳 (2008年12月14日)：臨床看護師の感情活用能力育成に向けた教育方法の検討, 第28回日本看護科学学会学術集会, 福岡.
- ・美濃由紀子, 高濱圭子, 岡村典子他 (2008年12月14日)：事例検討会における事例提供者の気付きに関する研究 集団力動の中での視野の転換・拡大に焦点を当てて, 第28回日本看護科学学会学術集会, 福岡.
- ・岡村典子, 堀良子, 水口陽子, 水澤久恵他 (2009年3月15日)：ネットワークで結ぶ訪問看護師のCollaborative Learningの構築 (1) -ネットワークシステムを活用した学習コミュニティ形成への試み-, 第13回日本在宅ケア学会学術集会, 大阪.
- ・堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵他 (2009年3月15日)：ネットワークで結ぶ訪問看護

師のCollaborative Learningの構築 (2) —県内訪問看護ステーションのコンピュータ環境と意向調査—, 第 13 回日本在宅ケア学会学術集会, 大阪.

- Noriko Okamura, Masami Miyamoto (2009 年 07 月 19 日); Examination of Discussion Work to Develop Emotional Literacy of Mid-level Experienced Nurse, The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Kobe.
- 岡村典子, 宮本真巳 (2009 年 8 月 19 日): 看護学生のコミュニケーション場面からみた感情活用の様相, 日本カウンセリング学会第 42 回大会, 長崎.
- 角田みすず, 大崎千恵子, 岡村典子 (2009 年 8 月 19 日): 自主シンポジウム 対人援助職における人材育成について② —医療, 福祉, 教育現場の実際—, 日本カウンセリング学会第 42 回大会, 長崎.
- 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵 (2009 年 9 月 27 日): 長期臥床在宅高齢者と健常者の皮膚表面の健康状態 保清, スキンケアによる検討, 第 8 回日本看護技術学会学術集会, 北海道.
- 原等子, 飯田智恵, 深澤佳代子, 栗生田友子, 藤川あや, 大久保明子, 角山裕美子, 橋本明浩, 永吉雅人, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵 (2009 年 11 月 15 日): ニーズに基づく潜在看護師の学び直しシステムの構築の試み, 平成 21 年度情報教育研究集会, 宮城.
- 橋本明浩, 吉山直樹, 永吉雅人, 深山真司, 堀良子, 深澤佳代子, 栗生田友子, 原等子, 水口陽子, 岡村典子他 (2009 年 11 月 15 日): 看護師の学び直しに必要なユビキタス教育環境の作成の試みと評価, 平成 21 年度情報教育研究集会, 宮城.
- 山田正実, 深澤佳代子, 岡村典子他 (2009 年 11 月 15 日): ネット上の保健指導システムの構築と評価, 平成 21 年度情報教育研究集会, 宮城.
- 堀良子, 水口陽子, 岡村典子他 (2009 年 11 月 15 日): 基礎看護技術のためのe-Learning教材作成の試みと評価, 平成 21 年度情報教育研究集会, 宮城.
- 岡村典子, 宮本真巳 (2009 年 11 月 27 日): 臨床看護師の感情活用能力育成に向けた研修内容の検討, 第 29 回日本看護科学学会学術集会, 千葉.
- 米山奈奈子, 岡村典子, 美濃由紀子他 (2009 年 11 月 28 日): 事例検討会における参加者の気づきを促進させる要因 集団力動の中での視野の転換・拡大に焦点を当てて, 第 29 回日本看護科学学会学術集会, 千葉.
- 岡村典子, 米山奈奈子, 美濃由紀子他 (2009 年 11 月 28 日): 事例検討会への参加動機の持続に影響を及ぼす要因 継続参加者に焦点を当てて, 第 29 回日本看護科学学会学術集会, 千葉.
- 藤井徹也, 新實夕香理, 永谷幸子, 佐藤好恵, 佐藤美紀, 岡村典子他 (2010 年 8 月 22 日): 上肢静脈注射の知識および実施方法と実施経験年数の関連, 第 1 回日本看護研究学会, 岡山.
- 岡村典子, 渡辺礼子, 青木洋子 (2010 年 10 月 27 日): 看護管理職の役割認識に関する研究—副看護師長の研修プログラムにおける役割認識過程に焦点をあてて—, 第 41 回日本看護学会看護管理, 新潟.
- 岡村典子, 津田右子, 三井督子他 (2010 年 12 月 4 日): 事例検討会参加者の参加動機に影響を及ぼす要因, 第 30 回日本看護科学学会, 札幌.
- 米山奈奈子, 熊地美枝, 津田右子, 廣川美知子, 美濃由紀子, 岡村典子他 (2010 年 12 月 4 日): 事例検討会における事例提供者と参加者間のダイナミクス—視野の拡大および転換が起こる要因—, 第 30 回日本看護科学学会, 札幌.
- 藤井徹也, 篠崎恵美子, 新實夕香理, 永谷幸子, 岡村典子他 (2010 年 12 月 4 日): 看護基礎教育課程における静脈内注射の教育内容, 第 30 回日本看護科学学会, 札幌.
- Chie Iida, Hisae Mizusawa, Naoko Hara, Youko Sudo, Ryoko Hori, Akihiro Hashimoto, Noriko Okamura, et al. (2011 年 2 月 11 日): Participants' perspectives on the function of a professional development learning system for nurses on a career break and their evaluation of the learning system,

14th East Asian Forum of Nursing Scholars, Korea.

- Naoko Hara, Ryoko Hori, Kayoko Fukazawa, Aya Fujikawa, Chie Iida, Noriko Okamura, et al. (2011年2月11日): A Trial project providing practical skill-training to career breaks nurses. 14th East Asian Forum of Nursing Scholars, Korea.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

1. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会, 日本看護技術学会, 日本カウンセリング学会, 日本心身医学会, 日本在宅ケア学会, 東京医科歯科大学医学部お茶の水医学会, 聖路加看護学会, 仏教看護・ビハーラ学会

2. 認定取得

日本カウンセリング学会認定カウンセラー (2001年～現在に至る)

【社会活動】

- 社団法人日本精神科看護技術協会主催: 「実践事例検討会」講師, 2007年8月.
- 新潟県立中央病院看護部主催: 「プリセプター研修」講師, 2007年～2010年.
- 新潟県立中央病院看護部主催: 「リーダーシップ研修」講師, 2007年～現在に至る.
- 新潟県病院局業務課主催: 「副看護師長研修」講師, 2007年～現在に至る.
- 新潟県上越市主催: 難病ボランティア講座「相手の気持ちを引き出す言葉がけについて」講師, 2009年10月.
- 新潟県立十日町病院, 松代病院看護部主催: 「自己再発見研修」講師, 2010年.

【外的資金獲得】

- 吉山直樹, 深澤佳代子, 堀良子, 粟生田友子, 橋本明浩, 原等子, 水澤久恵, 岡村典子他: 文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン／バーチャルカレッジの試み, 平成19年度～平成21年度.
- 岡村典子: 中堅看護師のエモーショナル・インテリジェンス能力育成と組織の活性化に関する研究, 若手研究(B), 平成19年度～平成20年度, 文部科学省科学研究費研究助成課題(課題番号19791659).
- 主任研究者: 藤井徹也, 連携研究者: 岡村典子他: 静脈弁を損傷しない安全な静脈注射方法の検証, 萌芽研究, 平成20年度～平成22年度, 文部科学省科学研究費研究助成課題(課題番号20659333).
- 岡村典子: 中堅看護師の就業継続に向け管理者に必要とされる支援に関する研究, 若手研究(B), 平成21年度～平成24年度, 文部科学省科学研究費研究助成課題(課題番号21792183).

【研究活動】

1. 学術論文

- (1) 牧岡朋美,村山恵美子,樋口浩美,清水真理,水澤久恵 (2008) : 中越地震下における経産婦の出産・育児体験～経産婦の経験世界の現象学的解釈を通して～,第39回日本看護学会論文集看護総合,146-148.
- (2) 水澤久恵 (2008) : 病棟看護師が看護実践の中で経験する倫理的問題と対応方法の実態,第39回日本看護学会論文集看護総合,383-385.
- (3) 水澤久恵,堀良子,水口陽子,岡村典子 (2009) : 身体侵襲を伴う静脈血採血技術CAI教材の開発と評価,第39回日本看護学会論文集看護教育,424-426.
- (4) 水澤久恵 (2009) : 病棟看護師が経験する倫理的問題の特徴と経験や対処の実態及びそれらに関連する要因,生命倫理,19 (1) , 87-97.
- (5) 原 等子,飯田 智恵,深澤 佳代子,栗生田 友子,藤川 あや,大久保 明子,角山 裕美子,橋本明浩,永吉雅人,堀良子,水口陽子,岡村典子,水澤久恵 (2009) : ニーズに基づく潜在看護師の学び直しシステムの構築の試み,平成21年度情報教育研究集会講演論文集,494.
- (6) 堀 良子,水口陽子,岡村典子,水澤久恵,深澤佳代子,栗生田友子,橋本明浩,原等子,大久保明子,飯田智恵,永吉雅人,藤川あや,角山裕美子 (2009) : 基礎看護技術のためのe-Learning教材作成の試みと評価,平成21年度情報教育研究集会講演論文集,69-70.
- (7) 橋本 明浩,吉山 直樹,永吉 雅人,深山真司,堀良子,深澤佳代子,栗生田友子,原等子,水口陽子,岡村典子,大久保明子,飯田智恵,水澤久恵,藤川あや,角山裕美子 (2009) : 看護師の学び直しに必要なユビキタス教育環境の作成の試みと評価,平成21年度情報教育研究集会講演論文集,70-71.
- (8) 水澤久恵 (2010) : 看護職者に対する倫理教育と倫理的判断や行動に関わる能力評価における課題—倫理教育の現状と道徳的感性に関連する定量的調査研究を踏まえて— . 生命倫理, 20(1), 29-139.
- (9) 堀良子,飯田智恵,水澤久恵,須藤陽子,橋本明浩 (2010) : 「看護師の学び直しを支援する地域指向型 オープン/バッチャル・カレッジの試み」現状と展望,平成22年度情報教育研究集会講演論文集,554-555.
- (10) 水澤久恵,堀良子,飯田智恵,須藤陽子,橋本明浩 (2010) : 身体侵襲を伴う看護技術教育のためのWBT教育システムの効果とその評価,平成22年度情報教育研究集会講演論文集,556-557.
- (11) 飯田智恵,堀良子,水澤久恵,須藤陽子,橋本明浩 (2010) : 受講生からみた看護師学び直しシステムの機能とその評価,平成22年度情報教育研究集会講演論文集,558-559.
- (12) 水澤久恵 (2011) : 看護師の倫理に関する知識と倫理教育機会の有無についての実態調査,第41回日本看護学会論文集看護教育,87-89.

2. その他の論文

- (1) 堀良子,橋本明浩,水口陽子,松下由美子,岡村典子,水澤久恵,渡部江里子 (2007) : 上越地域における訪問看護師のコミュニティを中心としたeラーニングシステムの基盤整備,平成18年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報,9-10.
- (2) 水澤久恵 (2008) : お任せしない医療,新潟日報NICかわらばんNO313,看護大通信 41.
- (3) 吉山直樹,深澤佳代子,堀良子,栗生田友子,橋本明浩,原等子,水澤久恵,岡村典子,飯田智恵,浦山留美,永吉雅人,若杉歩 (2008) : 文部科学省,社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業委託事業「看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャルカレッジの試み」,新潟県立看護大学 看護研究交流センター平成19年度成果報告書.
- (4) 関谷伸一,吉山直樹,渡辺弘之,杉田収,中野正春,橋本明浩,山本淳子,岡村典子,水澤久恵,徐淑子,丸田健一郎 (2008) : 「生活者の理解」を推進する地域参加を通じた学生の学び,平成19年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報,13-14.
- (5) 堀良子,水口陽子,岡村典子,水澤久恵,平澤則子,橋本明浩,渡部江里子 (2008) : 県内訪問看護師のコラボレーティブ・ラーニングの可能性に関する研究,平成19年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報,15-16.
- (6) 水澤久恵 (2008) : 病棟看護師が看護実践の中で経験する倫理的問題と対応の実態及び関連要

- 因の検討,平成19年度新潟県立看護大学学長特別研究費研究報告書,39-46.
- (7) 吉山直樹,深澤佳代子,堀良子,栗生田友子,橋本明浩,原等子,水澤久恵,岡村典子,飯田智恵,浦山留美,永吉雅人,若杉歩(2009):文部科学省,社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業委託事業「看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャルカレッジの試み」,新潟県立看護大学看護研究交流センター平成20年度成果報告書.
- (8) 柿川房子,中村博生,水澤久恵,丸山美香,北島昌樹,星野めぐみ,鈴木真理子,三浦一二美(2009):がん看護CNS教育と臨地実務普及へ向けての実践研究-社会人修士課程及び課程終了後のフォローアップ-,平成20年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報,3-4.
- (9) 堀良子,水口陽子,岡村典子,水澤久恵,渡部江里子,中川恵子(2009):長期臥床在宅高齢者と健常者の皮膚表面の健康度比較-清潔行為・スキンケアとの関連による比較-,平成20年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報,5-6.
- (10) 水澤久恵,小林綾子,古澤弘美,柳崎晴美,和田恵美子,渡邊繁子,高橋玲子,竹原則子(2009):看護師を対象とした倫理教育プログラムの開発と評価に関する研究-上越地域看護師の倫理的問題解決能力の向上を目指して-,平成20年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報,9-10.
- (11) 水澤久恵,長尾式子,福田紀子,川野佐代子(2010):「医療従事者の再教育及び医療事故に関わった医療従事者への支援に関する研究」,厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学研究費補助金平成21年度総括研究報告書,31-37.
- (12) 堀良子,水口陽子,岡村典子,水澤久恵,斉木正美,中川恵子(2010):訪問看護師が行うスキンケアの評価-長期臥床患者と健常者の皮膚バリア機能による検討-,平成22年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報,9-10.
- (13) 水澤久恵(2010):病棟で遭遇する倫理的問題解決に向けた組織的体制整備~病棟から始める,倫理的サポート体制構築の具体策~ ナースマネージャー12月号,7-11.
- (14) 水澤久恵(2011):ご存じですか?改訂臓器移植法について,新潟日報NICかわらばんNO465,看護大通信79.
- (15) Miho Naito, Hisae Mizusawa, Akihiro Hashimoto(2012):An actual condition survey of nursing workers' recognition and prevention for infection in long-term care insurance facilities - Based on the results of a questionnaire survey conducted in western Japan -, Journal of Nursing Interventions, 2012, 73.

3. 学会発表

- (1) 水澤久恵, 出貝裕子(2007):高齢者の自己決定に関する文献の動向,第27回日本看護科学学会学術集会講演集, p.415,東京.
- (2) 牧岡朋美,村山恵美子,樋口浩美,清水真理,水澤久恵(2008):中越地震下における経産婦の出産・育児体験~経産婦の経験世界の現象学的解釈を通して~,第39回日本看護学会抄録集(看護総合), p.77,石川.
- (3) 水澤久恵(2008):病棟看護師が看護実践の中で経験する倫理的問題と対応方法の実態,第39回日本看護抄録集(看護総合), p.225,石川.
- (4) 水澤久恵,堀良子,水口陽子,岡村典子(2008):身体侵襲を伴う静脈血採血技術CAI教材の開発と評価,第39回日本看護学会抄録集(看護教育) p.250,岐阜.
- (5) 水澤久恵(2008):病棟看護師の倫理的問題の経験とその解決に関連する要因,第28回日本看護科学学会学術集会講演集, p.218,福岡.
- (6) 堀良子,水口陽子,岡村典子,水澤久恵,平澤則子,橋本明浩,渡部江里子(2009):ネットワークで結ぶ訪問看護師のCollaborative Learningの構築(1)-ネットワークシステムを活用した学習コミュニティ形成への試み-,第13回日本在宅ケア学会学術集会講演集, p.121,大阪.
- (7) 堀良子,水口陽子,岡村典子,水澤久恵,平澤則子,橋本明浩,渡部江里子(2009):ネットワークで結ぶ訪問看護師のCollaborative Learningの構築(2)-県内訪問看護ステーションのコンピュータ環境と意向調査-,第13回日本在宅ケア学会学術集会講演集, p.121,大阪.
- (8) 柳埼春美,和田恵美子,水澤久恵,山本文子,高橋玲子,古澤弘美,渡邊繁子,大塚綾子(2009):看護師が捉える倫理的問題と倫理教育ニーズ,日本看護倫理学会第2回年次大会予稿集, p.84,長野.
- (9) 水澤久恵(2009):臨床看護師の道徳性感性と関連要因,日本看護倫理学会第2回年次大会予稿集, p.77,長野.
- (10) 水澤久恵(2009):倫理的問題の検討の場に関する実態と倫理的問題解決との関連,日本看護

- 倫理学会第2回年次大会予稿集,p.76,長野.
- (11) Hisae Mizusawa (2009) : Ethical problems experienced by ward nurses in nursing practice, their responses to these problems, and to investigate associated factors, ICN Congress CD, Session: Ethics/human rights, Abs NO:p.4.104, South Africa.
- (12) 水澤久恵 (2009) : 看護師の倫理教育機会と看護師が認識する倫理に関する一般的知識の程度, 第40回日本看護学会抄録集(看護総合) p.169, 京都.
- (13) 水澤久恵, 堀良子 (2009) : 感染予防における手指衛生の効果的教育方法の検討～紫外線ボックス・手形培地簡易細菌検査を用いて～, 第40回日本看護学会抄録集(看護教育) p.140, 岡山.
- (14) 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵 (2009) : 長期臥床在宅高齢者と健常者の皮膚表面の健康状態—補清, スキンケアによる検討—, 日本看護技術学会第8回学術集会講演抄録集, p.118, 北海道.
- (15) Hisae Mizusawa (2009) : Relationship between ethical problems and job satisfaction of nurses, The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Program & Abstracts B30, p.1, Kobe.
- (16) Hisae Mizusawa (2009) : Decision Situations encountered by patients with cerebrovascular disorder, The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Program & Abstracts F6, p.216, Kobe.
- (17) 水澤久恵, 田中純子, 出貝裕子 (2009) : 医療および介護現場における認知症高齢者の意思決定の現状と今後の課題, 日本老年看護学会第14回学術集会抄録集, p.234, 北海道.
- (18) 水澤久恵, 小林綾子, 古澤弘美, 高橋玲子, 和田恵美子 (2009) : 看護師を対象とした倫理教育プログラムの開発と評価に関する研究 第1報: プログラムの開発とプログラム評価, 第29回日本看護科学学会学術集会講演集, p.306, 千葉.
- (19) 小林綾子, 水澤久恵, 高橋玲子, 和田恵美子, 古澤弘美 (2009) : 看護師を対象とした倫理教育プログラムの開発と評価に関する研究 第2報: 倫理的問題への認識や態度の変化, 第29回日本看護科学学会学術集会講演集, p.307, 千葉.
- (20) 水澤久恵, 小林綾子, 和田恵美子, 古澤弘美, 高橋玲子 (2009) : 看護師を対象とした倫理教育プログラムの開発と評価に関する研究 第3報: MSTによる道徳的感性の変化, 第29回日本看護科学学会学術集会講演集, p.307, 千葉.
- (21) 水澤久恵, 岡村典子 (2009) : 生活者の理解を推進する地域参加を通じた「ふれあい実習」における学生の学び—自己評価表の分析から—, 第29回日本看護科学学会学術集会講演集, p.393, 千葉.
- (22) 原 等子, 飯田 智恵, 深澤 佳代子, 粟生田 友子, 藤川 あや, 大久保 明子, 角山 裕美子, 橋本明浩, 永吉雅人, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵 (2009) : ニーズに基づく潜在看護師の学び直しシステムの構築の試み, 平成21年度情報教育研究集会講演論文集, p.494, DVD 091026_130, 仙台.
- (23) 堀 良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵, 深澤佳代子, 粟生田友子, 橋本明浩, 原等子, 大久保明子, 飯田智恵, 永吉雅人, 藤川あや, 角山裕美子 (2009) : 基礎看護技術のためのe-Learning教材作成の試みと評価, 平成21年度情報教育研究集会講演論文集, p.69-70, DVD 091026_130, 仙台.
- (24) 橋本 明浩, 吉山 直樹, 永吉 雅人, 深山真司, 堀良子, 深澤佳代子, 粟生田友子, 原等子, 水口陽子, 岡村典子, 大久保明子, 飯田智恵, 水澤久恵, 藤川あや, 角山裕美子 (2009) : 平成21年度情報教育研究集会講演論文集, p.71-72, DVD 091026_130, 仙台.
- (25) 水澤久恵 (2010) : 看護師の倫理に関する知識と倫理教育機会の有無についての実態調査. 第41回日本看護学会抄録集(看護教育), p.78, 長崎.
- (26) 田中純子, 伊藤美香, 杉村亨之, 服部一紀, 水澤久恵 (2010) : 80歳以上の高齢者に対する間欠的導尿法による排尿管理の実態とサポートの検討, 日本老年看護学会第15回学術集会抄録集, p.117, 群馬.
- (27) 水澤久恵, 田中純子, 出貝裕子, 小坂裕佳子 (2010) : 「認知症高齢者の意思決定」に関する海外文献の動向—1998年から10年間の海外文献について—, 日本老年看護学会第15回学術集会抄録集, p.150, 群馬.
- (28) 小林登喜代, 込山恵子, 松崎千賀子, 石田美佐, 江澤綾, 田中純子, 水澤久恵 (2010) : 経膈分娩後の排尿に関するフィジカルアセスメントの有用性と項目の検討, 母性衛生第51回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集, p.178, 金沢.
- (29) 水澤久恵, 深堀浩樹 (2010) : 病棟看護師の職務満足度と倫理的事項の関連, 第30回日本看護

科学学会学術集会講演集, p.209,札幌.

- (30) 堀良子, 飯田智恵, 水澤久恵, 須藤陽子, 橋本明浩 (2010) : 「看護師の学び直しを支援する地域指向型 オープン/バッチル・カレッジの試み」 現状と展望,平成 22 年度情報教育研究集会講演論文集, p.554-555,京都.
- (31) 水澤久恵, 堀良子, 飯田智恵, 須藤陽子, 橋本明浩 (2010) : 身体侵襲を伴う看護技術教育のためのWBT教育システムの効果とその評価,平成 22 年度情報教育研究集会講演論文集,p.556-557,京都.
- (32) 飯田智恵, 堀良子, 水澤久恵, 須藤陽子, 橋本明浩 (2010) : 受講生からみた看護師学び直しシステムの機能とその評価,平成 22 年度情報教育研究集会講演論文集, p.558-559,京都.
- (33) 大滝沙智, 五十嵐杏奈, 高橋恵子, 水澤久恵 (2011) : 腎移植を受けた精神発達遅滞患者のキーパーソンの退院後の困難感,日本臨床腎移植学会第 44 回学術集会抄録集, p.280, 兵庫.
- (34) Hisae Mizusawa, Junko Tanaka, Yuko Degai, Shinji Irie (2011) : The Current Circumstances of and Future Problems with Decision-making in Elderly People with Dementia in Medical and Nursing Care Settings in Japan – Ten-year overview of the literature –,14th East Asian Forum of Nursing Scholars,Program&Abstracts p.237,Korea.
- (35) Hisae Mizusawa, Ryouko Hori, Chie Iida, Youko Sudo, Akihiro Hashimoto (2011) : A Trail Study on WBT Education System for Basic Nursing Skill Training,14th East Asian Forum of Nursing Scholars, Program&Abstracts p.380,Korea.
- (36) Chie Iida, Hisae Mizusawa, Naoko Hara, Youko Sudo, Ryoko Hori, Akihiro Hashimoto, Noriko Okamura, Aya Fukazawa, Yumiko Tsunoyama, Yoko Mizuguchi, Masato Nagayoshi (2011) : Participants ‘ Perspectives on The Function of A Professional Development Learning System for Nurses on a Career Break and Their Evaluation Of The Learning System,14th East Asian Forum of Nursing Scholars, Program&Abstracts ,p.381,Korea.
- (37) Naoko Hara, Ryoko Hori, Kayoko Fukazawa, Aya Fujikawa, Chie Iida, Noriko Okamura, Youko Mizuguchi, Hisae Mizusawa, Yumiko Tsunoyama, Akihiro Hashimoto (2011) : A Trial project providing practical skill-training to career breaks nurses. 14th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2011, Program&Abstracts ,p.366,Korea.

【学会等における活動】

日本保健科学学会 (会員)
日本看護科学学会 (会員)
日本生命倫理学会 (会員)
生命・医療倫理研究会
日本看護管理学会 (会員)
日本看護倫理学会 (会員)
日本老年看護学会 (会員)
日本医学哲学・倫理学会 (会員)
日本看護技術学会 (会員)
THE GERONTOLOGICAL SOCIETY OF AMERICA (会員)
日本母性衛生学会 (会員)
新潟医学会 (会員)
日本リハビリテーション看護学会 (会員)
日本公衆衛生学会 (会員)

【社会活動】

(1) 県・市の政策関連委員

- 1)平成 18 年 4 月 1 日～現在 新潟県動物愛護協会上越支部動物ふれあい訪問活動員
- 2)平成 20 年 8 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日まで 新潟県上越市男女共同参画推進センター事業運営委員
- 3)平成 21 年 4 月 1 日～現在 新潟県上越市男女共同参画審議会委員
- 4)平成 21 年 9 月 1 日～平成 22 年 9 月 新潟県上越市男女共同参画フェスタ実行委員
- 5)平成 22 年 9 月 1 日～現在 新潟県上越市情報公開・個人情報保護制度等審議会委員

(2) 市民活動・研修会

- 1)平成 19 年 8 月,新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会「看護技術の検証とその実践的計画」(12 時間) 講師
- 2) 平成 20 年 2 月～現在,訪問看護勉強会の開催・Web 掲示板の運用
- 3) 平成 20 年 8 月 5 日,新潟県立中央病院「倫理教育研修会第 1 回」(90 分) 講師
- 4) 平成 20 年 9 月 2 日,新潟県立中央病院「倫理教育研修会第 2 回」(90 分) 講師
- 5) 平成 20 年 9 月 17 日,新潟県立中央病院「倫理教育研修会第 3 回」(90 分) 講師
- 6) 平成 20 年 10 月 15 日,新潟県立中央病院「倫理教育研修会第 4 回」(90 分) 講師
- 7) 平成 20 年 10 月 22 日, 新潟県立中央病院「倫理教育研修会第 5 回」(90 分) 講師
- 8) 平成 21 年 2 月 7 日,独立行政法人国立病院機構埼玉病院「医療倫理研修会」(4 時間) 講師
- 9) 平成 21 年 11 月 7 日,八戸市立市民病院「看護倫理研修会」(5 時間) 講師
- 10) 平成 22 年 8 月 5 日,八戸市立市民病院看護部主催「倫理講演会」(90 分)
- 11) 平成 22 年 8 月 6 日,八戸市立市民病院新人看護師「看護倫理研修会」(5 時間) 講師
- 12) 平成 22 年 10 月 2 日,新潟県立看護大学「どこでもカレッジ」公開講座 経管栄養・胃ろう患者のケア(講義と演習) 演習指導担当者(3 時間)
- 13) 平成 22 年 11 月 30 日,新潟労災病院 クリニカルラダーⅢ・Ⅳ及びマネジメントラダーⅠ～Ⅳ(看護師長補佐、看護師長) 倫理教育研修プログラム「倫理的問題解決に向けた取り組み」第 1 回 講師(90 分)
- 14) 平成 22 年 12 月 9 日,新潟労災病院 クリニカルラダーⅢ・Ⅳ及びマネジメントラダーⅠ～Ⅳ(看護師長補佐、看護師長) 倫理教育研修プログラム「倫理的問題解決に向けた取り組み」第 2 回 講師(90 分)
- 15) 平成 23 年 1 月 14 日,都立神経病院,神経難病研修 (7 時間) 講師

(3)研究プロジェクト班

- 1)平成 19 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 文部科学省,社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業委託事業「看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャルカレッジの試み」プロジェクト班メンバーとしての活動
- 2)平成 20 年 4 月 1 日～現在 臨床倫理キャラバン隊としての活動
- 3)平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日 医療事故の当事者支援のための研究(厚生労働省指定研究 2009 年) 事故当事者支援プロトコール・倫理・評価委員

【外的資金獲得】

- 1)社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業委託事業「看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャルカレッジの試み」,研究分担者(代表:吉山直樹),文部科学省,2007 年～2010 年
- 2)「生活者の理解」を促進する地域参加を通じた学生の学び,研究分担者(代表:関谷伸一),新潟県立看護大学看護研究交流センター研究費助成,2007 年～2008 年
- 3)県内訪問看護師のコラボレーティブ・ラーニングの可能性に関する研究,研究分担者(代表:堀良)

- 子),新潟県立看護大学看護研究交流センター研究費助成,2007年～2008年
- 4)病棟看護師が看護実践の中で遭遇する倫理的問題と対応方法の実態及び関連要因の検討,研究代表者,新潟県立看護大学学長特別研究費助成,2007年～2008年
 - 5)がん看護 CNS 教育と臨地実務普及へ向けての実践研究—社会人修士課程及び課程終了後のフォローアップ—,研究分担者(代表:柿川房子),新潟県立看護大学看護研究交流センター研究費助成,2008年～2009年
 - 6)長期臥床高齢者と健常者の皮膚表面の健康度比較—清潔行為・スキンケアとの関連による検討—,研究分担者(代表:堀良子),新潟県立看護大学看護研究交流センター研究費助成,2008年～2009年
 - 7)看護師を対象とした倫理教育プログラムの開発と評価に関する研究—上越地域看護師の倫理的問題解決能力の向上を目指して—,研究代表者,新潟県立看護大学看護研究交流センター研究費助成,2008年～2009年
 - 8)訪問看護師が行うスキンケアの評価—長期臥床患者と健常者の皮膚のバリア機能による検討—,研究分担者(代表:堀良子),新潟県立看護大学看護研究交流センター研究費助成,2009年～2010年
 - 9)認知症高齢者の意思決定の構造と意思決定支援ガイドラインの作成に関する研究,研究代表者,科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究),2008年～2010年
 - 10)生体肝移植レシピエントのQOLの推移についての研究,研究協力者(代表:入江慎治)科学研究費補助金、若手研究(B),2008年～2010年
 - 11)医療従事者の再教育及び医療事故に関わった医療従事者への支援に関する研究,研究協力者(代表:前沢政次),厚生労働省科学研究費補助金,地域医療基盤開発推進研究事業,2009年～2010年
 - 12)特定疾患患者における生活の質(Quality of life,QOL)の向上に関する研究,研究協力者(代表:稲葉一人),厚生労働省科学研究費補助金,難治性疾患克服研究事業,2010年～2011年
 - 13)日本における清潔間歇導尿法(Clean Intermittent Catheterization:CIC)による排尿管理方法の実態調査研究,研究分担者(代表:田中純子),聖ルカ・ライフサイエンス研究助成金,2010年～2011年

内藤 みほ

【研究活動】

4. 学会発表

(1) 大池綾子, 久山幸恵, 内藤みほ (2009) : 自分らしさを保てない事に苦悩を抱く終末期乳がん患者への援助, 第33回日本死の臨床研究会年次大会, 名古屋.

【学会等における活動】

日本看護科学学会 (会員)

日本公衆衛生学会 (会員)

日本死の臨床研究会 (会員)

仏教看護ビハーラ学会 (会員)

IV 臨床看護学領域

加城 貴美子

【研究活動】

1. 原著論文

- ・加城貴美子，釜中明（2007）：直立両足立ちと最前掲両足立ちの足趾接地状態の比較研究，靴の医学，Vol.20(2)，123-127
- ・加城貴美子（2007）：父親，母親と子どもの接地足蹠面に関する基礎的研究，学長特別研究費研究報告書，49-53

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

- ・加城貴美子（平成 19 年 8 月 日）：，第 10 回日本ロールレタリング学会学術集会，.
- ・加城貴美子，釜中明（平成 19 年 9 月 18 日）：幼稚園児の足趾の状態と靴との関係，第 23 回日本靴医学学会学術集会，東京都.
- ・加城貴美子，釜中明（平成 19 年 9 月 20 日）：接地足蹠画像からみた幼児の土踏まず形成，第 64 回日本体力医学学会学術集会，新潟市.
- ・加城貴美子（平成 21 年 10 月 3 日）：透過性調整力と自我状態との関連，第 34 回日本交流分析学会，横浜市.
- ・加城貴美子（平成 19 年 10 月 11 日）：母子の接地足蹠面に関する基礎的研究，第 48 回日本母性衛生学会，つくば市.
- ・加城貴美子（平成 21 年 11 月 14 日）：接地足蹠画像写真からみた幼稚園児の足の発達，第 20 回日本成長学会，鳥取市.
- ・加城貴美子（平成 19 年 10 月 23 日）：接地足蹠画像からみた幼児の足の発育状態，第 68 回日本公衆衛生学術集会，奈良市.
- ・加城貴美子（平成 22 年 6 月 12 日）：絵画描写の父親と母親のモチーフと PC エゴグラムとの関係，名古屋市.
- ・加城貴美子（平成 23 年 3 月 11 日）：接地足蹠画像写真からみた幼児の足の発育，第 9 回日本発育発達学会，東京.

5. その他の研究活動

- ・幼稚園児と保育園児の足の測定・調査：平成 19 年より追跡調査を実施（長野県，静岡県，愛媛県，新潟県）
- ・筆跡に関する基礎的研究
- ・下駄と靴の相違に関する基礎的研究
- ・足揉みと足とに関する研究
- ・母性看護学に関する研究

【学会等における活動】

- ・日本交流分析学会 評議員（～現在）
- ・日本交流分析協会 査読委員（平成19年～）
- ・日本交流分析協会 北陸支部運営委員（平成14年～）

【社会活動】

- ・日本交流分析協会（准教授） 交流分析士養成講師
- ・日本筆跡診断士協会認定筆跡診断士養成セミナー講師
- ・上越市生涯学習支援講師
- ・プロ若石健康法マスター講師（足の測定・調査結果からの講演で足揉み健康の普及活動）

- ・講師 2008年度 性と健康を考える女性専門家の会主催（平成20年2月7日）：対人援助に必要なコミュニケーション術—教育・臨床現場での対象理解を深め、サービス向上を目指す—、講演テーマ「看護や学生指導に生かす筆跡診断，近畿支部講演会，大阪府。
- ・講師 交流分析自主勉強会，新潟県立看護大学，平成21年4月～12月，218研究室。
- ・講師 学校法人 福島学園（平成21年7月8日）：正しい靴の履き方について，みすず幼稚園講堂。
- ・講師 新潟電気工事工業組合 上越支部（平成21年7月25日）：体験活動 筆跡診断「気持ちが文字に現れる？ 筆跡診断でリフレッシュ ♪♪」
- ・講師 平成21年度上越市在宅介護者リフレッシュ事業（平成21年7月29日）：体験活動 筆跡診断「気持ちが文字に表れる？ 筆跡診断でリフレッシュ ♪♪」，山荘 京ヶ岳。
- ・講師 平成21年度上越市在宅介護者リフレッシュ事業（平成21年8月5日）：筆跡診断「気持ちが文字に表れる？ 筆跡診断でリフレッシュ ♪♪」，ゑしんの里・やすらぎ荘。
- ・講師 平成21年度上越市在宅介護者リフレッシュ事業（平成21年9月29日）：体験活動 筆跡診断「気持ちが文字に表れる？ 筆跡診断でリフレッシュ ♪♪」，長峰温泉ゆつたりの郷。
- ・講師 上越市戸野目小学校保健協議会（平成22年11月19日）：入学前の子育てについて，新潟県上越市戸野目小学校。

足の測定・調査の結果報告会・正しい靴の履き方・足に合った靴の選定，など

- ・学校法人 福島学園 みすず幼稚園（平成20年7月14日～16日）：足の測定・調査，小諸市。
- ・学校法人 福島学園 みすず幼稚園（平成20年12月18日）：足の測定結果報告会，小諸市。
- ・学校法人堀之内学園 堀之内幼稚園・愛育保育園（平成20年3月11日）：足の測定・調査，静岡市。
- ・学校法人 福島学園 みすず幼稚園（平成21年7月12日～14日）：足の測定・調査，小諸市。
- ・学校法人堀之内学園 堀之内幼稚園・愛育保育園（平成21年3月18日）：足の測定結果報告会，静岡市。
- ・学校法人 アイ・アイ学園 有度幼稚園（平成21年4月20日～22日，5月7日～9日）：足の測定・調査，静岡市。
- ・学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園（平成21年9月4日）：足の測定結果報告会，静岡市。
- ・若石健康普及会 岡谷支部（平成21年9月21日）：足の測定会，岡谷市。
- ・社会福祉法人 立正福祉会 立正保育園（平成22年1月25日）：足の測定・調査，宇和島市。
- ・学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園（平成22年2月22日）：足の測定・調査，静岡市。
- ・若石健康普及会 岡谷支部（平成22年2月12日）：足の測定結果報告会，岡谷市。
- ・社会福祉法人 立正福祉会 立正保育園（平成22年3月8日）：足の測定結果報告会，宇和島市。

- ・社会福祉法人 新田保育園（平成 22 年 3 月 9 日）：足の測定・調査，新居浜市.
- ・学校法人 賤機保育園（平成 22 年 3 月 17 日）：足の測定・調査，静岡市.
- ・学校法人 賤機保育園（平成 22 年 3 月 21 日）：足の測定結果報告会，静岡市.
- ・学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園（平成 22 年 5 月 24 日～26 日）：足の測定・調査，静岡市.
- ・社会福祉法人 新田保育園（平成 22 年 5 月 30 日）：足の測定結果報告会，新居浜市.
- ・西予総合福祉会 中川保育園，田之筋保育園，うわまち東保育園，うまわち南保育園，うまわち保育園，明間保育園，宇和保育園（平成 22 年 5 月 31 日～6 月 4 日）：足の測定・調査，西予市.
- ・西予総合福祉会 中川保育園，田之筋保育園，うわまち東保育園，うまわち南保育園，うまわち保育園，明間保育園，宇和保育園（平成 22 年 6 月 30 日～7 月 3 日）：足の測定結果報告会，西予市.
- ・学校法人 福島学泉 みすず幼稚園（平成 22 年 7 月 6 日～7 日）：足の測定・調査，小諸市.
- ・財団法人船橋市文化・スポーツ公社 船橋アリーナ（平成 22 年 11 月 3 日）：足の測定・調査と足揉み，船橋市.
- ・財団法人船橋文化・スポーツ公社 船橋アリーナ（平成 23 年 1 月 22 日）：船橋文化・スポーツ公社での足の測定結果報告会，船橋市.
- ・学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園（平成 23 年 2 月 22 日）：足の測定・調査，静岡市.
- ・学校法人 賤機保育園（平成 23 年 2 月 23 日）：足の測定・調査，静岡市.
- ・学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園（平成 22 年 3 月 11 日）：足の測定結果報告会，静岡市.
- ・学校法人 賤機保育園（平成 23 年 3 月 28 日）：足の測定結果報告会，静岡市.

【報道】

- ・長野県小諸市 CTK NEWS「ふるさとの窓から」～幼児期の足の状態 みすず幼稚園で学術調査～（平成 20 年 7 月 17 日）：放映.
- ・長野県小諸市 CTK NEWS「ふるさとの窓から」～幼児期の足の状態の結果報告会 みすず幼稚園（平成 20 年 12 月 18 日）：放映.
- ・信濃毎日新聞掲載（平成 21 年 7 月 8 日）：学校法人 福島学園 みすず幼稚園での足の測定・調査状況.
- ・出演（平成 21 年 7 月 19 日）：子どもの足が危ない，NHK総合テレビ 首都圏特報で放映.
- ・静岡新聞掲載（平成 22 年 3 月 18 日）：藁草履の園児の足の測定・調査状況.
- ・社会福祉法人 新田保育園（平成 22 年 3 月 9 日）：NHK松山放送局ニュース 3 回放映.
- ・静岡新聞掲載（平成 22 年 3 月 18 日）：学校法人 賤機保育園での足の測定・調査状況.
- ・静岡新聞掲載（平成 22 年 3 月 23 日）：草履生活が生踏まず作る，園児実証 静岡で教授報告.
- ・愛媛新聞掲載（平成 22 年 6 月 8 日）：. 西予総合福祉協議会 田之筋保育園での足の測定・調査状況.

【外的資金獲得】

- ・平成 19 年度～平成 21 年度 文部科学研究費（基盤 C）獲得 テーマ「0 歳から 1 2 歳までの足の発育に関する基礎的研究」，総総額：4160 千円，平成 19 年度：1820 千円，平成 20 年度：910 千円，平成 21 年度：1430 千円.

【研究業績】

1. 原著論文

- 1) 松本邦子、石田和子 (2011. 3) : 口腔がん手術患者に対する周手術期口腔ケアの有用性に関する検討、がん看護、16巻3号、P433-438.
- 2) 吉田久美子、石田和子、瀬山留加、中島陽子、角田明美、前田三枝子、神田清子 (2009. 9) : 大学病院に勤務する医師と看護師の死生観の比較、The Journal of Nursing Investigation第7巻、P1-9.
- 3) 中村恵、青山景子、高田幸子、石田和子、神田清子 (2009. 3) : ステトラモデルを活用した準無菌室における感染対策のイノベーション、群馬保健学紀要、29巻、P79-86.
- 4) 瀬山留加、石田和子、中島洋子、吉田久美子、角田明美、神田清子 (2009. 3) : 大学病院における終末期がん患者が抱える日常生活動作の障害と看護支援の検討、群馬保健紀要、29巻、P31-38.
- 5) 神田清子、武居明美、狩野太郎、石田和子、平井和恵、二渡和恵 (2008) : がん化学療法を受けている療養者のセルフマネジメントに関する研究の動向と課題、The Kitakanto Medical Journal、58巻2号、P197-207.
- 6) 平井和恵、高階淳子、石田和子、細川舞、田村遵一、神田清子 (2008) : がん患者と非がん患者初診患者の倦怠感の比較 多次元倦怠感尺度を用いて、The Kitakanto Medical Journal、58巻2号、P189-195.
- 7) 平井和恵、狩野太郎、高階淳子、細川舞、石田和子、神田清子 (2008) : 量的評価にみるがん患者の倦怠感の特徴 臨床における倦怠感アセスメントへの示唆、横浜看護学雑誌、1巻1号、P18-25.
- 8) 瀬山留加、石田和子、中島陽子、吉田久美子、角田明美、神田清子 (2008) : 終末期がん患者のせん妄発症に関連したニーズの検討、群馬保健学紀要、28巻、P51-59.
- 9) 小暮麻弓、細川舞、高階淳子、石田和子、狩野太郎、神田清子 (2008) : 外来通院がん患者の倦怠感とその影響要因、The Kitakanto Medical Journal、58巻1号、P63-69.
- 10) 角田明美、石田和子、狩野太郎、茂木寿江、石田順子、吉田久美子、瀬山留加、赤石美佐子、細川舞、伊藤民代、二渡玉江、神田清子 (2008) : 真実を知らずに突然死した大腸がん患者の看護における看護師の倫理・道徳的ジレンマの検討、The Kitakanto Medical Journal、58巻1号、P27-33.
- 11) 石田順子、石田和子、神田清子 (2007. 12) : 看護学生の死生観に関する研究、桐生短期大学紀要、18号、P109-115.
- 12) 神田清子、石田順子、石田和子、堀越真奈美、伊藤民代、狩野太郎 (2007) : 化学療法を受けているがん患者の気がかり評定尺度の開発と信頼性と妥当性の検討、日本がん看護学会誌 21巻1号、P3-13.

2. その他論文

- 1) 石田 和子 (2010) : 【抗がん剤の安全な取り組みと曝露対策 個人・組織に求められる取組】抗がん剤曝露時の対処方法、がん看護、15巻6号、P597-601.
- 2) 平井和恵、神田清子、矢永洋子、石田和子、中田千恵子 (2009) : 【がん化学療法を取り巻く現在の課題】抗がん剤曝露予防、がん看護、14巻5号、P570-573.
- 3) 石田和子 (2009) : 見てみたいあの記録 (第2回) 外来化学療法患者について情報収集とその記録、看護きろくと看護過程、P56-60.
- 4) 石田和子 (2009) : がん患者の集学的治療と看護 ケアの連携を目指してがん患者に対する集学的治療におけるネットワークづくりと看護師の役割、The Kitakanto Medical Journal、59巻3号、P32.
- 5) 石田和子、小林美幸、飯塚洋子、佐藤早美、岩田幸枝、大谷忠弘、見代裕子、前田三枝子 (2008) : 群馬大学 NANDA看護診断ラベルベスト5、看護きろくと看護過程、臨時増刊号、P5-16.
- 6) 石田和子 (2008) : よく使われる看護診断ラベル特別追加編、看護きろくと看護過程、18巻2号

- 7) 石田和子、神田清子 (2008) : 【新しい外来看護をデザインする】がん看護相談、看護技術、54巻5号

著書

- 1) 石田和子、監修桑野博行 (2011) : 食道がん標準化学療法の実際 病院から地域に広がるチーム医療の展開と実際、金原出版、東京。
- 2) 石田和子、編著国立がん研究センター、がん対策情報センター (2011) : がんになったら手にとるガイド、学研、東京。
- 3) 石田和子、編著神田清子、大西和子 (2008) : 検查看護技術 (第2版)、ヌゥベルヒロカワ、東京。

3. 学会発表

- 1) 三浦一二美、石田和子 (2011. 2. 11) : 外来化学療法を受けている患者の有害事象に対するセルフマネジメント、日本がん看護学会、神戸。
- 2) 松本邦子、石田和子 (2010. 2. 10) : 口腔がん手術患者に対する周手術期口腔ケアの有用性に関する検討、日本がん看護学会、静岡。
- 3) 石田和子 (2009. 12. 4) : 臨床と大学との連携によるがん看護専門外来への取り組み、国際がん看護セミナー、東京。
- 4) 武居明美、神田清子、二渡玉江、狩野太郎、石田和子、清水裕子、瀬山留加、池澤けい、根生とき子、鹿沼達哉 (2009. 2. 10) : がん療養者・看護師のがん診療連携拠点病院の認知状況に関する調査、日本がん看護学会、那覇。
- 5) 二渡玉江、石田和子、廣瀬規代美、堀越政孝、瀬山留加、武居明美、金子れい子、伊藤久代、神田清子 (2009. 2. 10) : がん診療拠点病院看護師のがん看護に関する知識獲得状況と学習ニーズ調査 (第2報) がん看護従事者と非がん看護従事者の比較、日本がん看護学会、那覇。
- 6) 狩野太郎、堀越政孝、二渡玉江、須川美枝子、石田和子、石田順子、丸山公子、前田三枝子、鹿沼達哉、神田清子 (2009. 2. 10) : 地域で生活するがん療養者・家族にニーズに関する調査 (第1報) がん療養者の悩みと主な支援ニーズ、日本がん看護学会、那覇。
- 7) 石田和子、中村恵、伊藤民代、石田順子、神田清子 (2009. 2. 10) : 婦人科がん患者が集う患者会『ティタイム』へのニーズとその効果、日本がん看護学会、那覇。
- 8) 新井香、吉田雅子、石田和子、瀬山留加、神田清子 (2009. 2. 10) : 造血器腫瘍患者の長期闘病生活における新たな役割の獲得プロセス、日本がん看護学会、那覇。
- 9) 新井敦美、山崎あすか、中村恵、上田礼子、石田和子、神田清子 (2010. 2. 10) : 複雑な問題を抱えた終末期卵巣がん患者と関わった看護師のストレス体験の分析、日本がん看護学会、那覇。
- 10) 金谷泉、細野章子、中山知香、中村恵、上田礼子、石田和子、神田清子 (2009. 2. 10) : 終末期若年子宮頸がん患者のスピリチュアルペインの看護チーム支援、日本がん看護学会、那覇。
- 11) 剣持久美華、菊池裕美、小出光子、高田幸子、石田和子 (2009. 2. 9) : 外科系混合病棟での造血幹細胞移植患者へのケアにおける看護師の体験している困難とその影響要因、日本造血移植学会、札幌。
- 12) Kazuko I, Kiyoko K (2008. 9) : Change Occurred in Recurrent Breast Cancer Patient by Implementing “IKIGAI RENKETSU-HOU” (Method of Tying up Reasons for Living and Action Coals) Based on Cancer Nursing Advisory Outpatient Clinic., 15Th International Conference on Cancer Nursing, Singapore.
- 13) Junko I, Mai H, Kazuko I, Kazue H, Junko T, Kiyoko K (2008. 9) : The comparison of fatigue between breast cancer patients and non-breast cancer patients, 15Th International Conference on Cancer Nursing, Singapore.
- 14) 平井和恵、高階淳子、細川舞、石田和子、神田清子 (2008. 2. 11) : 量的評価にみるがん患者の倦怠感の特徴 非がん初診患者との比較から、日本がん看護学会、福岡。
- 15) 石田和子、神田清子 (2007. 8) : 化学療法を受けた女性生殖器がん患者の脱毛に関するコーピング、日本看護研究学会、札幌。
- 16) 石田順子、石田和子、神田清子 (2008. 8) : 大学病院に勤務する看護師と専門学校に通学

する看護学生の死生観の比較、日本看護研究学会、札幌.

- 17) 石田和子、小林美幸、飯塚洋子、岩田幸枝、佐藤早美、阿部清子、長谷川正志、前田三枝子 (2008. 6) : 頭頸部がん患者の看護診断ラベルの特徴、日本看護診断学会、横浜.
- 18) 岩田幸枝、石田和子、飯塚洋子、佐藤早美、小林美幸、阿部清子、尾上悦子、前田三枝子 (2007. 6) : 看護診断立案におけるカンファレンスの現状と課題、日本看護診断学会、大阪.
- 19) 佐藤早美、石田和子、小林美幸、飯塚洋子、岩田幸枝、阿部清子、尾上悦子、前田三枝子 (2007. 6) : 看護診断『転倒のリスク状態』におけるアセスメントの分析、日本看護診断学会、大阪.

4. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

日本看護協会会員

日本看護研究学会会員

日本がん学会会員 日本がん学会SIG特別関心グループがん化学療法グループ委員長

日本看護科学学会会員

日本看護診断学会会員

日本造血幹細胞移植学会会員

北関東医学会会員

【社会活動】

日本専門看護師協議会会員

群馬専門看護師協議会会員

群馬がん看護研究会 理事

【外的資金獲得】

- 1) 群馬大学教育研究改革・改善経費 (2007-2008) : がん看護に特化した高度な専門看護師の育成およびがん患者の在宅療養を支える訪問看護システム構築プロジェクト (研究費約500万)
- 2) 群馬大学教育研究改革・改善経費 (2009) : がん看護ラダーに基づき、がん看護を系統的に高度な専門知識・技術を担保した看護師の育成構築プロジェクト (研究費約250万)

酒井禎子

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

- ・ 酒井禎子 (2008) : 連載「ケアの根拠を確かめよう?最新・看護研究レビューの要点」がん治療を行う患者の倦怠感に効果的な看護援助とは?, ナーシングトゥデイ, 23 (14), 47.
- ・ 弓納持咲江, 酒井禎子, 墨岡悦子, 新潟県立中央病院緩和ケア委員会 (2009) : 院内緩和ケア勉強会の取り組みと今後の課題, 新潟県立中央病院医誌, 17(1), 20-21.
- ・ 酒井禎子, 加藤光寶, 直成洋子, 飯田智恵, 樺沢三奈子, 内藤知佐子, 中島紀恵子 (2009) : 豪雪地域の在宅療養者とその家族の療養生活の特徴, 日本在宅ケア学会誌, 13(1), 63-70.
- ・ 酒井禎子, 大久保明子, 岡村典子, 阿部正子, 戸田幸子 (2011) : 看護師がスピリチュアリティを考える体験をした臨床場面とその内容—X県の看護師への調査から, 日本緩和医療学会誌, 6(1), 216-221.

3. 著書

なし

4. 学会発表

- ・ 酒井禎子, 加藤光寶, 直成洋子, 飯田智恵, 内藤知佐子 (2008. 3. 16) : 豪雪地域の医療・福祉専門職から見た在宅療養の困難とそれらへの取り組み, 第12回日本在宅ケア学会学術集会, 東京都.
- ・ 酒井禎子, 飯田智恵, 小林綾子, 深澤佳代子 (2010. 6. 18) : 模擬患者とのロールプレイングを取り入れたターミナルケア演習の試み—がん性疼痛のアセスメントに焦点をあてて—, 第15回日本緩和医療学会学術大会, 東京都.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

日本死の臨床研究会会員、日本看護科学学会会員、日本がん看護学会会員、日本在宅ケア学会員、日本緩和医療学会会員

- ・ 日本死の臨床研究会第14回関東支部大会 シンポジウム「がん難民の救済—受け入れと受け容れ—」において司会を務める (平成19年6月)
- ・ 第15回日本死の臨床研究会関東支部大会 緩和ケア特別シンポジウム (前夜祭)「日本的な生死観と看取り・徹底トーク」において進行役を務める (平成21年6月)
- ・ 第15回日本死の臨床研究会関東支部大会 シンポジウム「在宅を基点とした中で緩和ケアをどうとらえ実践するのか」において司会を務める (平成21年6月)
- ・ 日本緩和医療学会「ELNEC-J 指導者養成プログラム」修了 (平成21年7月)
- ・ 日本緩和医療学会「ELNEC-J コアカリキュラム講師用ガイド」改訂への参加 (平成22年2月から12月)

【社会活動】

- ・ 新潟県立中央病院緩和ケア委員会 委員 (平成19年9月より現在に至る)
- ・ 平成19年度県立病院中越ブロック看護管理研修会 基調講演「学校教育と臨床への期待」同シンポジウム「看護学校と連携した新人看護師の臨床実践能力向上に向けた取り組み」において座

長を務める。(平成 19 年 10 月)

- ・ 新潟県立中央病院緩和ケア勉強会講師「緩和ケアとがん性疼痛の基本的理解」(平成 20 年 6 月)
- ・ 新潟県立中央病院緩和ケア勉強会講師「症状マネジメント」(平成 20 年 10 月)
- ・ 新潟県看護協会看護学会口演「看護管理・地域看護」において座長を務める(平成 20 年 11 月)
- ・ 新潟県立中央病院緩和ケア勉強会講師「家族ケア」(平成 20 年 12 月)
- ・ 新潟県立中央病院緩和ケア勉強会講師「症状マネジメント」(平成 21 年 9 月)
- ・ 上越総合病院がん看護研修会「がん患者とのコミュニケーション」(平成 21 年 10 月)
- ・ 医療の心を考える会パート 2 世話人(平成 22 年 6 月より現在に至る)
- ・ 新潟労災病院看護部教育研修講師「看護実践における看護研究」(平成 22 年 7 月)
- ・ 新潟県理学療法士会平成 22 年度吸引技術研修会講師「吸引に必要な解剖生理の知識と手技の実際」(平成 22 年 8 月)
- ・ 新潟労災病院看護部教育研修講師「研究計画書の作成にあたっての基礎知識」(平成 22 年 9 月)

【外的資金獲得】

- ・ 酒井禎子：緩和ケアに移行するがん患者・家族の意思決定支援モデル構築，平成 20～22 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)

高柳 智子

【研究活動】

1. 原著論文

- ・高柳智子, 吉川日和子, 橋本裕香 他 5 名(2008): ベッドと車椅子間の移乗介助における介助者・被介助者の身体負担, 看護人間工学研究誌, 8, 27-33.
- ・高柳智子(2010): 医療用粘着テープの貼付方法による皮膚への影響の検討, 第 40 回日本看護学会論文集 看護総合, 90-92.
- ・高柳智子(2011): 回復期脳卒中患者の移乗時見守り解除に関するアセスメント指標の洗練化, 第 41 回日本看護学会論文集 看護総合, 356-359.
- ・Tomoko Takayanagi(2011): Development of assessment indicators to decide when to stop observing stroke patients during transfer based on clinical judgments made by nurses, 金沢大学つるま保健学会誌, 34(2), 25-35.

2. その他の論文

- ・丸山サチ子, 相馬裕美, 江部千春, 小見美菜, 関原理恵, 高柳智子(2010): ナーシングプロセスクモ膜下出血, クリニカルスタディ, 31(10), 13-31.

3. 著書

- ・高柳智子, 泉キヨ子 (2009): 脳卒中患者・家族の理解と支援 保健医療福祉制度と法律に基づく支援, 菊池晴彦, 脳卒中看護実践マニュアル, 154-157, メディカ出版, 大阪.
- ・高柳智子, 泉キヨ子 (2009): 脳卒中患者・家族の理解と支援 社会資源の活用, 菊池晴彦, 脳卒中看護実践マニュアル, 158-159, メディカ出版, 大阪.

4. 学会発表

- ・高柳智子, 高山成子, 半田陽子 他 2 名(2008 年 7 月): 在宅高齢者の通所サービス利用開始 2 年間ににおける主観的幸福感の経時的変化と関連要因, 第 33 回日本看護研究学会学術集会, 盛岡.
- ・高柳智子(2009 年 7 月): 医療用粘着テープの貼付方法による皮膚への影響の検討, 第 40 回日本看護学会 看護総合, 京都.
- ・高柳智子(2010 年 7 月): 回復期脳卒中患者の移乗時見守り解除に関するアセスメント指標の洗練化, 第 41 回日本看護学会 看護総合, 山口.
- ・高柳智子, 泉キヨ子(2009 年 11 月): 回復期脳卒中患者のベッド・車椅子間の移乗自立における看護師の判断の視点, 第 29 回日本看護科学学会学術集会, 千葉.

【学会活動】

日本看護科学学会会員、日本看護研究学会会員、日本老年看護学会会員、看護人間工学部会会員(査読者)

【社会活動】

- ・平成 19 年～22 年 新潟県看護協会看護学会論文指導者
- ・平成 20 年～21 年 新潟県新人看護職員研修体系整備事業第 2 部研修体系整備検討委員会プロジェクトメンバー

山田 正実

【研究活動】

1. その他の論文

- 山田正実 (平成 19 年 9 月) : 家族ケアに関する新人看護師の学びのプロセスと教育支援に関する研究－卒後 2 年目看護師の 1 年間の縦断的調査から－、平成 18 年度学長特別研究費 研究報告書、P. 33-40
- 深澤佳代子、山田正実、高柳智子、酒井禎子、飯田智恵、直成洋子、石岡幸恵、小林綾子、丸山正則 (平成 22 年 9 月) : 上越地域における災害医療支援連携システム構築のための基盤的研究、平成 21 年度看護研究交流センター年報、P. 11-12

2. 学会発表

- 山田正実 (平成 20 年 9 月) : 卒後 2 年目看護師の家族ケアに関する学習プロセス－1 年間の縦断的調査から－、日本家族看護学会第 15 回学術集会、神奈川県藤沢市
- 山田正実、竹原則子、秋山京美 (平成 20 年 12 月) : 多専門職種が関与する呼吸教教室の実施に向けて－呼吸療法士がコーディネーターとなって－、第 21 回新潟在宅呼吸療法研究会、新潟県新潟市
- 山田正実、深澤佳代子、岡村典子、中野正春、橋本明浩 (平成 21 年 11 月) : ネット上の保健指導システムの構築と評価、平成 21 年度情報教育研究集会、宮城県仙台市
- 山田正実、竹原則子、秋山京美、佐藤理加、赤澤待子、高村 誠、早津正博、藤澤明彦、今井弘子、小林 理 (平成 21 年 12 月) : 今年度の呼吸教室活動を振り返る －評価と課題－、第 22 回新潟在宅呼吸療法研究会、新潟県新潟市
- 高村 誠、山田正実、小海菊江、藤澤明彦、秋山京美、呼吸らくらく教室スタッフ、息生き教室スタッフ (平成 21 年 12 月) : 禁煙キャンペーン「肺を守ろう！まず禁煙から」活動報告、第 22 回新潟在宅呼吸療法研究会、新潟県新潟市
- 藤巻ゆかり、山田正実、早津正博、藤澤明彦、木原圭美、小柴聡子、佐藤圭、清水みどり、大黒屋佐和子、竹原則子、中村明子、奈須野由梨、吉澤清美、今井弘子、小林理 (平成 22 年 12 月) : 呼吸教室参加者の健康関連QOLの変化に関する研究－在宅酸素療法患者の活動および心理面への支援に焦点をあてて－、第 23 回新潟在宅呼吸療法研究会、新潟県新潟市
- 山田正実、小海菊江、平澤則子、飯吉令枝、古澤弘美、後藤佳子、竹原則子、吉澤清美、小林理 (平成 23 年 3 月) : A地域におけるCOPD患者のヘルスケアニーズ調査、第 15 回日本在宅ケア学会学術集会、広島県三原市

【学会活動】

日本家族看護学会、看護質的統合法 (KJ 法) 研究会 (監査)、日本在宅ケア学会、日本家政学会 家族関係学部会、呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本禁煙科学会

【社会活動】

- 新潟県大学災害支援連携協議会委員 (平成 20 年度～)
- 上越市災害医療訓練実行委員会委員 (平成 20 年度～)
- 新潟県看護職員臨地実習指導者構成講習会実習指導方法論Ⅱ講師 (平成 21 年度～)

大久保 明子

【研究活動】

1. 学術論文

- 1) 大久保明子 (2008) : 化学療法中の小児がん患者の嗜好変化と栄養評価に関する研究, 小児がん看護 (3) ,37-44.
- 2) 大久保明子 (2010) : 子どもを亡くした母親にとってのSHGという「場」の意味. 家族看護学研究 15 (3) ,40-46.

2. その他の論文・報告書

- 1) 粟生田友子・西方真弓・浦山留美・大久保明子・横田陽子 (2008) : 新人看護師の職場認知と適応に関する質的研究, 平成 19 年度学長特別研究費研究報告書 (新潟県立看護大学) ,51-59.
- 2) 大久保明子 (2008) : 子どもを亡くした母親にとってのセルフヘルプグループという「場」の意味, 平成 19 年度学長特別研究費研究報告書 (新潟県立看護大学) ,27-34.
- 3) 粟生田友子・西方真弓・浦山留美・大久保明子・横田陽子 (2008) : 新人看護師の職場認知と適応に関する質的研究, 平成 19 年度学長特別研究費研究報告書,1-81.
- 4) 大久保明子 (2009) : 新人看護師の離職の徴候と離職希望者へのサポートに関する研究 - プリセプターのとまどいに焦点をあてて -, 平成 21 年度看護研究交流センター 年報,3-4.

3. 著書

- 1) 大久保明子 (2007) : 特集 ターミナルケア再考 文化としての「看取り」を取り戻そう, 月刊 ケアマネジメント 18(9),34-35,環境新聞社.
- 2) 桑野タイ子・本間昭子編集、大久保明子 (共著) (2011) : 新看護観察のキーポイントシリーズ小児 I, 8 章 水分出納の観察,261-275,中央法規,東京.
- 2) 桑野タイ子・本間昭子編集、大久保明子 (共著) (2011) : 新看護観察のキーポイントシリーズ小児 II, 18 章 循環器疾患をもつ子どもの観,211-243,中央法規,東京.
- 3) 桑野タイ子監修、大久保明子 (共著) (2011) : シリーズ ナーシング・ロードマップ疾患別小児看護 基礎知識・関連図と実践事例,6 章 血液・腫瘍疾患 6-1,6-2,6-3,172-189,中央法規,東京.

4. 学会発表

- 1) Masako Kako ・ Akiko Okubo (2007) : Pediatric Telephone Triage and Nurses' Perception, ICN学術集会, 横浜.
- 2) 大久保明子 (2007) : がん化学療法を受けている子どもの食事ケアに関する実態調査, 日本小児看護学会 第 17 回学術集会,長野.
- 3) 加固正子・大久保明子 (2007) : 米国における看護師による小児救急トリアージ, 日本小児看護学会 第 17 回学術集会,長野.
- 4) 加固正子・大久保明子 (2007) : 小児救急電話トリアージ・マニュアルの使用状況と看護師の意識, 第 54 回日本小児保健学会,群馬.
- 5) 大久保明子 (2008) : 幼い子どもを亡くした親にとってのセルフヘルプグループの「場」の意味, 日本小児看護学会 第 18 回学術集会,名古屋.
- 6) 加固正子・大久保明子 (2008) : 小児救急電話トリアージ・マニュアル (試作) 使用後の意見の内容分析, 日本小児看護学会 第 18 回学術集会,名古屋.
- 7) 大久保明子・西方真弓・浦山留美・横田陽子・粟生田友子 (2008) : 新人看護師の職場認知と適応に関する質的研究, 日本看護教育学会 第 18 回学術集会,つくば.
- 8) 加固正子・本間昭子・大久保明子・深澤恵理・川上みゆき (2008) : A 県内の小児看護実践状況

に関する調査（その1）－家族の付き添いと入院環境について－，第39回日本看護学会－小児看護－，新潟。

- 9) 本間昭子・加固正子・大久保明子・深澤恵理・川上みゆき（2008）：A県内の小児看護実践状況に関する調査（その2）－プリパレーションと新任・現任教育について－，第39回日本看護学会－小児看護－，新潟。
- 10) 海津美穂・大久保明子（2008）：ソケイヘルニア根治術を受ける子どもの反応と母親の思い，第39回日本看護学会－小児看護－，新潟。
- 11) 大久保明子（2008）：子どもを亡くした親にとってのセルフヘルプグループの「場」の意味，第32回日本死の臨床研究会年次大会，札幌。
- 12) 浦山留美・栗生田友子・大久保明子・西方真弓・横田陽子（2008）：新人看護師の職場認知と適応に関する研究（その1）－自己の成長の自覚を中心に－，第28回日本看護科学学会学術集会，福岡。
- 13) 西方真弓・横田陽子・大久保明子・栗生田友子・浦山留美（2008）：新人看護師の職場認知と適応に関する研究（その2）－乗り越えのパワーを中心に－，第28回日本看護科学学会学術集会，福岡。
- 14) 横田陽子・栗生田友子・西方真弓・浦山留美・大久保明子（2008）：新人看護師の職場認知と適応に関する研究（その3）－指導の要素を中心に－，第28回日本看護科学学会学術集会，福岡。
- 15) 大久保明子・郷更織（2010）：子どもを亡くした遺族に対して行われるケアに関する実態調査，日本小児看護学会 第20回学術集会，神戸。
- 16) 大久保明子・郷更織（2010）：看護師が捉えた子どもを亡くした遺族へのケアにおける課題，日本小児看護学会 第20回学術集会，神戸。
- 17) 大久保明子・横田葉子・栗生田友子・西方真弓・郷更織（2010）：プリセプティを指導するプリセプターのとまどいの要因，日本看護学教育学会第20回学術集会，大阪。
- 18) 郷更織・西方真弓・栗生田友子・大久保明子・横田陽子（2010）：プリセプターが捉えたプリセプティの指導のしやすさに関わる要因，日本看護学教育学会第20回学術集会，大阪。

【学会等における活動】

1. 参加学会（平成23年度現在）

日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本小児保健学会、日本小児がん看護学会、日本がん看護学会、日本看護教育学会、日本死の臨床研究会、仏教看護・ビハーラ学会、日本家族看護学会、新潟小児看護研究会（役員）

【社会活動】

1. 講義/講演

- 1) 大久保明子（2007）：みんなで話そう－，看護体験といのちの大切さについて－，上越市立頸城中学校，看護の出前授業，5月。
- 2) 大久保明子（2008）：上越教育大学大学院 非常勤講師「いのち教育論」，5～6月。
- 3) 大久保明子（2008）：みんなで話そう－，看護体験といのちの大切さについて－，上越市立頸城中学校，看護の出前授業，10月。
- 4) 大久保明子（2009）：上越教育大学大学院 非常勤講師「いのち教育論」，6月。
- 5) 大久保明子（2009）：上越ケーブルビジョン 一般市民向け公開講座「いのちを生きる、守る、送る」－いのちを看取る－，10月。
- 6) 大久保明子（2009）：上越ケーブルビジョン 一般市民向け公開講座「いのちを生きる、守る、送る」－遺された人へのグリーフケア－，10月。

- 7) 大久保明子 (2010) : みんなで話そうー, 看護体験といのちの大切さについてー, 上越市立頸城中学校, 看護の出前授業,1月.
- 8) 大久保明子 (2010) : 新潟県立中央病院 教育講演「遺族のための悲嘆ケア～医療現場でできること～」,3月.
- 9) 大久保明子 (2010) : 上越教育大学大学院 非常勤講師「いのち教育論」,6月.
- 10) 大久保明子 (2010) : みんなで話そうー, 看護体験といのちの大切さについてー, 上越市立名立中学校, 看護の出前授業,7月.
- 11) 大久保明子 (2010) : みんなで話そうー, 看護体験といのちの大切さについてー, 上越市立頸城中学校, 看護の出前授業,10月.

【外的資金獲得】

- 1) 大久保明子: 子どもを亡くした母親にとってのセルフヘルプグループという「場」の意味, 平成 19 年度学長特別研究費.
- 2) 栗生田友子,西方真弓,浦山留美,大久保明子,横田陽子: 新卒看護師の職場認知と適応に関する質的研究, 平成 19 年度学長特別研究費.
- 3) 大久保明子,栗生田友子, 横田陽子,西方真弓,郷更織: 新卒看護師の離職の徴候と離職希望者へのサポートに関する研究ープリセプターのとまどいに焦点を当ててー,平成 21 年度看護研究交流センター 地域課題研究.
- 4) 郷更織, 西方真弓, 横田陽子, 大久保明子, 栗生田友子: 新卒看護師の離職の徴候と離職希望者へのサポートに関する研究ープリセプターシップが機能するための看護師長の状況判断と介入, 平成 22 年度看護研究交流センター 地域課題研究.
- 5) 大久保明子: 子どもを亡くした遺族のグリーフワークを支える社会的ネットワークに関する研究,科学研究費助成金 基盤 (C) ,平成 21～23 年.

高島 葉子

【研究活動】

1. 原著論文

- ・高島葉子, 中島通子, 菊地美帆 (2011): 統合カリキュラムにおける分娩介助技術法の視聴覚教材開発の意義と教育効果, 医学と生物学, 155(2), 65-71.
- ・菊池美帆, 高島葉子, 中島通子 (2011): 母性看護学実習における学生の技術経験状況と今後の課題—母性看護学実習技術経験録より—, 医学と生物学, 155(3), 142-148.

2. その他の論文

なし

3. 著書

<共編著>

- ・中島通子, 高島葉子, 菊地美帆他 (2009): 分娩介助テキスト第1版, 新潟県立看護大学.
- ・中島通子, 高島葉子, 菊地美帆他 (2009): 分娩介助DVD, 新潟県立看護大学.
- ・高島葉子他 (2011): 開業助産師, 新潟県看護のあゆみⅡ平成元年～平成20年, 社団法人新潟県看護協会, 398-419.
- ・高島葉子他 (2011): 社団法人日本助産師会新潟県支部, 新潟県看護のあゆみⅡ平成元年～平成20年, 社団法人新潟県看護協会, 670-710.

4. 学会発表

- ・高島葉子, 小柳恭子, 佐山光子 (平成19年12月): 災害時における日本助産師会新潟県支部の支援活動—中越沖地震後の母子のニーズに応えて—, 第34回新潟母性衛生学会, 新潟市 (新潟大学医学部有壬会館).
- ・高島葉子, 小柳恭子, 佐山光子 (平成19年12月): 災害時における日本助産師会新潟県支部の支援活動—助産師の特徴を生かした支援の展開, 第34回新潟母性衛生学会 新潟市 (新潟大学医学部有壬会館).
- ・高島葉子 (平成21年7月18日): 勤務助産師と開業助産師が連携して行う母乳育児支援の効果～開業助産師としてかかわった2事例を通して, 第2回新潟母乳をすすめる会研究会, 新潟市 (済生会新潟第二病院).
- ・高島葉子 (平成21年9月28日): 災害時の母子ニーズ, 第50回日本母性衛生学会, 横浜・パシィフィコ横浜.
- ・Yoko Takashima, Michiko Nakashima, Miho Kikuchi, Hiroko Yuminamoti, Mayumi Nishikata, Yoko Yokota: (October29-30, 2009): Examination Media of Birth Assistance Techniques, The 7th International Nursing Conference, KOFST, Seoul, Korea.
- ・高島葉子, 中島通子, 菊地美帆, 弓納持浩子, 高塚麻由, 横田陽子, 西方真弓 (平成22年11月6日): 学部における分娩介助技術法の視覚教材開発の意義と教育効果, 第51回日本母性衛生学会, 金沢市 (金沢市アートホール).
- ・弓納持浩子, 菊地美帆, 高塚麻由, 高島葉子, 中島通子 (平成22年11月6日): 母性看護学演習からみる今後の課題 第1報 —新生児の全身清拭—, 第51回日本母性衛生学会, 金沢市 (金沢市アートホール).
- ・高塚麻由, 中島通子, 高島葉子, 菊地美帆, 弓納持浩子 (平成22年11月6日): 母性看護学演習からみる今後の課題 第2報 —新生児の観察と計測—, 第51回日本母性衛生学会, 金沢市アートホール.
- ・高島葉子, 中島通子, 菊地美帆, 弓納持浩子, 高塚麻由 (平成22年11月13日): 統合カリキュラムによる分娩介助技術法の視聴覚教材開発の意義と教育効果, 第37回 新潟母性衛生学会, 新潟市 (新潟大学医学部).

- ・高塚麻由，高島葉子，菊地美帆，弓納持浩子，中島通子（平成 22 年 12 月 12 日）：男女共同参加の子育てを視野に入れた教育システムの作成と評価，平成 22 年度情報教育研究集会，京都府民総合交流プラザ。

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

- ・ 日本助産学会会員
- ・ 日本母性衛生学会会員
- ・ 日本思春期学会会員
- ・ 日本災害看護学会会員
- ・ 【社会活動】
- ・ 新潟市西蒲区地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会委員平成 20 年度
- ・ 東京都助産師会研修会講師（平成 20 年 7 月 20 日）：災害時における助産師活動－中越沖地震での体験を通して－
- ・ 上越総合技術高校思春期教育講師（平成 21 年 10 月 26 日）：「誰でも誰かを好きになる～もっと知ろう 自分のこと 相手のこと～」
- ・ 上越総合技術高校思春期教育講師（平成 22 年 12 月 13 日）：「誰でも誰かを好きになる～もっと知ろう 自分のこと 相手のこと～」
- ・ 日本助産師会新潟県支部監事 平成 22 年 4 月～現在に至る
- ・ 社団法人新潟県受胎調節実地指導員協会監事平成 22 年 4 月～現在に至る
- ・ 日本助産師会埼玉県支部研修会講師（平成 22 年 10 月 3 日）：災害時における母子・家族支援と助産師の役割－三条豪雨・中越地震・中越沖地震での体験をとおして－
- ・ 日本看護協会会員

【外的資金獲得】

科学研究費補助金（基盤研究C）

- ・ 高島葉子（研究代表者）：助産事故を経験した助産契約当事者間の信頼関係形成過程に関する質的研究，課題番号 22592497，（平成 22 年度－平成 24 年度）

内宮 律代

【研究活動】

1. 原著論文

- Uchimiya R., Tamaki A. (2008): A Study of the National Medical System in Japan-The relation between the National Medical Care Expenditure and the Number of Medical Workers - , International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences, 13(1), 103-108.
- Uchimiya R., Mochida S., Takaue A. (2008): Research of a Nursing Accident Prevention System : Consideration of analytical methods for systematically registering nursing accidents. International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences, 13(1), 109-114.
- 宮岡久子, 内宮律代, 中村千穂子(2007):市町村の母子保健事業における助産師活用の実態—地域の異なる2県の比較からみた特徴—, 母性衛生, 48(2), 246-252.

2. その他の論文

- 柴田眞理子, 内宮律代, 大野友子, 小野寺幸子, 青木康子(2010):帝京大学学士課程における助産師教育の現状 第1報 —ミニマム・リクワイアメンツからみて—, 帝京大学医療技術学部看護学科紀要, 1, 57-65.
- 富田素子, 小堀由祈子, 渡部たづ子, 阿部正, 宮里和子, 齋藤泰子, 工藤恵子, 小松崎愛美, 内宮律代, 青山廣子, 萩原玲子, 丹波恵津子, 福島富士子, 福永一郎(2010):産後ケア事業の評価、利用後のアンケート調査から, 平成21年度東京都福祉保健医療学会誌, 56-68.
- 宮里和子, 鈴木幹子, 内宮律代 (2008):Close Up武蔵野大学附属施設産後ケアセンター桜新町, 助産雑, 62(5), 432-436.

3. 著書

- 内宮律代(2009):看護に活かすソフトサイエンス, バイオメディカル・ファジィ・システム学会編集委員会編者, ソフトなサイエンスで学ぶ先端科学—基礎と楽しい応用, 124-128, 日本理工出版会, 東京.

4. 学会発表

- 内宮律代, 柴田眞理子, 大野友子, 小野寺幸子, 高橋慶子, 青木康子 (2010年12月4日): 学士課程助産学と母性看護学の教育目標の比較, 第30回日本看護科学学会学術集会, 札幌.

- 大野友子, 内宮律代, 高橋慶子, 小野寺幸子(2010年11月6日): 男子学生の分娩立会い実習における学習内容と指導の在り方, 第51回日本母性衛生学会総会, 金沢.

- 富田素子, 小堀由祈子, 渡部たづ子, 阿部正, 宮里和子, 齋藤泰子, 工藤恵子, 小松崎愛美, 内宮律代, 青山廣子, 萩原玲子, 丹波恵津子, 福島富士子, 福永一郎(2009年12月18日):産後ケア事業の評価、利用後のアンケート調査から, 平成21年度東京都福祉保健医療学会, 東京.

- 齋藤泰子, 宮里和子, 工藤恵子, 小松崎愛美, 内宮律代, 青山廣子, 小堀由祈子, 富田素子, 福島富士子, 福永一郎(2009年12月18日): 地域母子保健活動の拠点をめざす「武蔵野大学附属産後ケアセンター桜新町」, 第68回日本公衆衛生学会総会, 奈良.

- 内宮律代, 宮里和子, 齋藤泰子, 工藤恵子, 小松崎愛美, 青山廣子, 小堀由祈子, 富田素子, 福島富士子, 福永一郎(2009年10月21日): 「武蔵野大学附属産後ケアセンター桜新町」の利用実態,

第 68 回日本公衆衛生学会総会，奈良.

宮里和子，内宮律代，齊藤早苗，末原紀美代(2008年6月21日)：看護学を学ぶ大学生の喫煙実態，第10回日本母性看護学会学術集会，大阪.

5. その他の研究活動

主任研究者：福島富士子，分担研究者：宮里和子，研究協力者：小堀由祈子，富田素子，渡辺たづ子，青山廣子，萩原玲子，丹波恵津子，齋藤泰子，工藤恵子，鈴木幹子，内宮律代，小松崎愛美(2009)：世田谷区における先駆的事業「産後ケアセンター」における介入研究，厚生労働省科学研究費補助金政策科学総合研究事業 次世代育成支援政策における産後育児支援体制の評価に関する研究 平成20年度総括研究報告書，43-52.

主任研究者：福島富士子，分担研究者：宮里和子，研究協力者：渋谷景子，齋藤泰子，工藤恵子，鈴木幹子，内宮律代，丹羽祐輔(2008)：世田谷区における先駆的事業「産後ケアセンター」における介入研究，厚生労働省科学研究費補助金政策科学総合研究事業 次世代育成支援政策における産後育児支援体制の評価に関する研究 平成19年度総括研究報告書，78-95.

【学会等における活動】

日本母性衛生学会、日本助産学会、バイオメディカル・ファジィ・システム学会、日本看護学教育学会、日本母性看護学会、日本看護科学学会 各学会員

【社会活動】

東京都アマチュアボクシング連盟 理事

【外的資金獲得】

なし

飯田 智恵

【研究活動】

1. 学術論文

- ・ 酒井禎子、加藤光實、直成洋子、飯田智恵、他 3 名 (2008) : 豪雪地域の在宅療養を支援する継続看護に関する研究-豪雪地域で在宅療養を行う療養者とその家族の療養生活の特徴-、日本在宅ケア学会誌 13(1)、63-70

2. その他の論文

- ・ 酒井禎子、加藤光實、直成洋子、飯田智恵、内藤知佐子 (2007) : 豪雪地域の在宅療養を支援する継続看護に関する研究-豪雪地域の医療・福祉専門職者から見た在宅療養の困難とそれらへの取り組み-、平成18年度看護研究交流センター年報 (新潟県立看護大学) p11~12
- ・ 飯田智恵、水澤久恵 (2009) : 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャルカレッジの試み~メイトの状況 (アンケート結果) ~、看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャルカレッジの試み 平成 20 年度成果報告書、9-32
- ・ 原等子、飯田智恵、深澤佳代子、他 10 名 (2009) : ニーズに基づく潜在看護師の学び直しシステムの構築の試み、平成21年度情報教育研究集会講演論文集、p494
- ・ 堀良子、水口陽子、岡村典子、水澤久恵、どこでもカレッジプロジェクト (飯田智恵、他 8 名) : 基礎看護技術のための e-Learning教材作成の試みと評価、平成21年度情報教育研究集会講演論文集、p69-71
- ・ 橋本明浩、吉山直樹、永吉雅人、深山真司、どこでもカレッジプロジェクト (飯田智恵、他 10 名) (2009) : 看護師の学び直しに必要なユビキタス教育環境の作成の試みと評価、平成21年度情報教育研究集会講演論文集、p72-73
- ・ 原等子、飯田智恵、深澤佳代子、他 10 名 (2009) : ニーズに基づく潜在看護師の学び直しシステムの構築の試み、平成21年度情報教育研究集会論文集DVD
- ・ 飯田智恵、堀良子、水澤久恵、須藤陽子、橋本明浩 (2010) : 受講生からみた看護職学び直しシステムの機能とその評価、平成22年度情報教育研究集会講演論文集、p558-561
- ・ 堀良子、飯田智恵、水澤久恵、須藤陽子、橋本明浩 (2010) : 「看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み」の現状と展望、平成22年度情報教育研究集会講演論文集、p554-555
- ・ 水澤久恵、堀良子、飯田智恵、須藤陽子、橋本明浩 (2010) : 身体侵襲を伴う看護技術教育のためのWBT教育システムの効果とその評価、平成22年度情報教育研究集会講演論文集、p556-557
- ・ 飯田智恵、堀良子、水澤久恵、須藤陽子、橋本明浩 (2010) : 受講生からみた看護職学び直しシステムの機能とその評価、平成22年度情報教育研究集会論文集、DVD
- ・ 深澤佳代子、山田正実、高柳智子、酒井禎子、飯田智恵、他 3 名 (2010) : 上越地域における災害医療支援連携システム構築のための基盤研究-地域と教育機関の連携の確立に向けて-、平成21年度看護研究交流センター年報 (新潟県立看護大学) p11~12

3. 著書

なし

4. 学会発表

- ・ 酒井禎子、加藤光實、直成洋子、飯田智恵、内藤知佐子 (2008. 3) : 豪雪地域の医療・福祉専門職者から見た在宅療養の困難とそれらへの取り組み、第12回日本在宅ケア学会学術集会、東京
- ・ 飯田智恵 (2008. 3) : 高齢者の日常生活活動量の実態-豪雪地域における季節変動-、第12回日

本在宅ケア学会学術集会、東京

- ・ 原等子、飯田智恵、深澤佳代子、他10名 (2009.11) : ニーズに基づく潜在看護師の学び直しシステムの構築の試み、平成21年度情報教育研究集会、宮城
- ・ 堀良子、水口陽子、岡村典子、水澤久恵、どこでもカレッジプロジェクト (飯田智恵、他8名) (2009.11) : 基礎看護技術のための e-Learning教材作成の試みと評価、平成21年度情報教育研究集会、宮城
- ・ 橋本明浩、吉山直樹、永吉雅人、深山真司、どこでもカレッジプロジェクト (飯田智恵、他10名) (2009.11) : 看護師の学び直しに必要なユビキタス教育環境の作成の試みと評価、平成21年度情報教育研究集会、宮城
- ・ 酒井禎子、飯田智恵、小林綾子、深澤佳代子 (2010.6) : 模擬患者とのロールプレイングを取り入れたターミナルケア演習の試みーがん性疼痛のアセスメントに焦点をあててー、第15回日本緩和医療学会学術大会、東京
- ・ 飯田智恵、堀良子、水澤久恵、須藤陽子、橋本明浩 (2010.12) : 受講生からみた看護職学び直しシステムの機能とその評価、平成22年度情報教育研究集会、京都
- ・ 堀良子、飯田智恵、水澤久恵、須藤陽子、橋本明浩 (2010.12) : 「看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み」の現状と展望、平成22年度情報教育研究集会、京都
- ・ 水澤久恵、堀良子、飯田智恵、須藤陽子、橋本明浩 (2010.12) : 身体侵襲を伴う看護技術教育のためのWBT教育システムの効果とその評価、平成22年度情報教育研究集会、京都
- ・ Chie IIDA, Hisae MIZUSAWA, Naoko HARA, et. al. (2011.2) : Participants' perspectives on the function of a professional development learning system for nurses on a career break and their evaluation of the learning system, 14th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul
- ・ Hisae MIZUSAWA, Ryoko HORI, Chie IIDA, et. al. (2011.2) : A trial study on WBT education system for basic nursing skill training, 14th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul
- ・ Naoko HARA, Ryoko HORI, Kayoko FUKAZAWA, Aya FUJIKAWA, Chie IIDA, et. al. (2011.2) : A Trial project providing practical skill-training to career breaks nurses, 14th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul
- ・ 飯田智恵 (2011.3) : 豪雪地域における高齢者の日常生活活動の実態ーメモリ加速度計測装置付歩数計を用いた身体活動量の検討ー、第15回在宅ケア学会学術集会、広島

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

所属学会：日本看護研究学会、日本がん看護学会、日本在宅ケア学会、新潟看護ケア研究学会、北関東医学会

【社会活動】

- ・ 高齢者の呼吸器系フィジカルアセスメント (2009年12月24日) : 平成20年度高齢福祉施設看護職員研修会 講師 (120分)
- ・ 実習指導方法論Ⅱ～実習指導案の作成 (2010年8月～9月) : 平成22年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 講師
- ・ 慢性疾患患者の看護 (2011年3月14日) : 新潟県立新井高等学校、平成22年度出張講義 (90分)

【外的資金獲得】

- ・ 飯田智恵：豪雪地域における前期高齢者の日常生活活動の実態、平成 20～22 年度文部科学省科学研究費（若手B）
- ・ 吉山直樹、橋本明浩、永吉雅人、堀 良子、深澤佳代子、栗生田友子、原 等子、岡村典子、飯田智恵、他：平成 19 年度～平成 21 年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン／バーチャル・カレッジの試み

小林 綾子

【研究活動】

1. 原著論文

末梢皮膚温からみる血液透析患者の足浴効果
(査読付き) . 平成 19 年 9 月

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

佐藤栄子, 風間美幸, 目黒悦子, 大塚綾子: 頭頸部及び食道へ放射線治療を受けた患者のQOL
に影響する要因, 第 38 回日本看護学会—成人看護Ⅱ—, 2007 年 8 月 (福井市)

大塚綾子, 渡辺春華, 直成洋子: 2 型糖尿病で初回教育入院された壮年期にある男性患者の入
院前から退院後の経験を明らかにする, 第 2 回 日本慢性看護学会, 2008 年 6 月 (東京都)

直成洋子, 大塚綾子, 渡辺春華: 初回教育入院した 2 型糖尿病患者の入院生活における思い,
日本糖尿病教育看護学会, 2008 年 9 月 (金澤市) 共同研究者: 直成洋子, 大塚綾子, 渡辺
春華

柳崎春美, 和田恵美子, 水澤久恵, 山本文子, 高橋玲子, 古沢弘美, 渡邊繁子, 小林綾子:
看護師がとらえる倫理的問題と倫理教育ニーズ, 日本看護倫理学会第 2 回年次大会, 2009
年 6 月 (長野市)

小林綾子, 水澤久恵, 柳崎春美, 和田恵美子, 山本文子, 高橋玲子, 古沢弘美, 渡邊繁子:
現任看護師を対象とした倫理教育プログラムの開発と評価に関する研究—第 3 報: 倫理的
問題に対する認識や態度の変化—, 第 29 回 日本看護科学学会学術集会, 2009 年 11 月 (千
葉市)

5. その他の研究活動

看護研究の指導

- ・新潟県立中央病院内科外来での看護研究の計画書～発表への指導 (H20 年度新潟県立看護研究
発表会での発表)
- ・新潟県立中央病院内科外来での看護研究の計画書～発表への指導 (H21 年度新潟県看護協会看
護学会での発表)
- ・新潟県立中央病院透析室での看護研究の計画書～発表への指導 (H21 上越透析療法研究会での
発表)

【学会等における活動】

日本糖尿病教育看護学会員、日本慢性看護学会員、日本看護研究学会員、日本看護科学学会員、
日本看護倫理学会員、新潟慢性疾患看護研究会会員、
日本糖尿病教育看護学会査読委員

【社会活動】

①講演

- ・上越地区糖尿病療養指導士研究会の活動支援 H20年12月6日（上越市市民プラザ）

②研修会

- ・新潟県立中央病院での倫理教育研修の実践「やさしい（看護）倫理」研修会 H20年
8月5日、9月2日、9月17日、10月1日、10月22日（新潟県立中央病院講堂）企画
- ・運営：水澤久恵，柳崎春美，和田恵美子，山本文子，高橋玲子，古沢弘美，渡邊繁子，大塚綾子
- どこでもカレッジプロジェクト 公開講座 テーマ：最新の糖尿病ケア
H21年 5月23日（新潟県立看護大学 第2ホール） 13：30～15：30

③その他

新潟県立中央病院内科外来 看護相談にて糖尿病患者の看護相談の実施（平成22年7月～11月，平成23年2月～）

【外部資金獲得】

なし

菊地 美帆

【研究活動】

1. 原著論文

- ・ 菊地美帆、高島葉子、中島通子（平成 23 年 3 月）：母性看護学実習における学生の技術経験状況と今後の課題—母性看護学実習技術経験録より—，医学と生物学，155（3），142-148.
- ・ 高島葉子、中島通子、菊地美帆（平成 23 年 2 月）：総合カリキュラムにおける分娩介助技術法の視聴覚教材開発の意義と教育効果，医学と生物学，155（2），65-71.

2. その他の論文

- ・
- ・ 菊地美帆（平成 21 年 3 月）：カンボジア農村部における完全母乳育児に関する研究—母親の意識と実行の関連要因の検討—，新潟大学大学院保健学研究科修士論文.
- ・ 菊地美帆、丹野かほる（平成 20 年）：カンボジアにおける地域保健活動とその課題，新潟大学医学部保健学科紀要，9（1），235-244

3. 著書

<共編著>

- ・ 中島通子、高島葉子、菊地美帆、他（2009）：分娩介助テキスト第 1 版，新潟県立看護大学
- ・ 中島通子、高島葉子、菊地美帆、他（2009）：分娩介助DVD，新潟県立看護大学

4. 学会発表

- ・ 菊地美帆、中島通子、高島葉子、弓納持浩子（平成 22 年 11 月 6 日）：母性看護学実習における学生の技術経験状況と今後の課題—母性看護学実習経験録より—，第 51 回日本母性衛生学会，金沢市アートホール
- ・ 高島葉子、中島通子、菊地美帆、弓納持浩子、高塚麻由、横田陽子、西方真弓（平成 22 年 11 月 6 日）：学部における分娩介助技術法の視覚教材開発の意義と教育効果，第 51 回日本母性衛生学会，金沢市アートホール
- ・ 弓納持浩子、菊地美帆、高塚麻由、高島葉子、中島通子（平成 22 年 11 月 6 日）：母性看護学演習からみる今後の課題 第 1 報 —新生児の全身清拭—，第 51 回日本母性衛生学会，金沢市アートホール
- ・ 高塚麻由、中島通子、高島葉子、菊地美帆、弓納持浩子（平成 22 年 11 月 6 日）：母性看護学演習からみる今後の課題 第 2 報 —新生児の観察と計測—，第 51 回日本母性衛生学会，金沢市アートホール
- ・ 高島葉子、中島通子、菊地美帆、弓納持浩子、高塚麻由（平成 22 年 11 月 13 日）：統合カリキュラムによる分娩介助技術法の視聴覚教材開発の意義と教育効果，第 37 回 新潟県母性衛生学会，新潟大学（新潟市）
- ・ 高塚麻由、高島葉子、菊地美帆、弓納持浩子、中島通子（平成 22 年 12 月 12 日）：男女共同参加の子育てを視野に入れた教育システムの作成と評価，平成 22 年度情報教育研究集会，京都府民総合交流プラザ
- ・ 菊地美帆、丹野かほる（平成 21 年 8 月 6 日）：カンボジア農村部における完全母乳育児に関する研究—母親の意識と実行の関連要因の検討—，第 24 回日本国際保健医療学会，東北大学星陵キャンパス
- ・ Yoko Takashima, Michiko Nakashima, Miho Kikuchi, Hiroko Yuminamoti, Mayumi Nishikata, Yoko Yokota (平成 21 年) : Examination Media of Birth Assistance Techniques, The 7th International Nursing Conference , Seoul

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

- ・ 日本助産学会会員
- ・ 日本母性衛生学会会員
- ・ 日本国際保健医療学会会員

【社会活動】

- ・ 日本看護協会会員
- ・ 上越国際交流協会会員
- ・ 高校生への性教育
上越総合技術高校思春期教育講師（平成 21 年 10 月 26 日）：「誰でも誰かを好きになる～もっと知ろう 自分のこと 相手のこと～」
上越総合技術高校思春期教育講師（平成 22 年 12 月 13 日）：「誰でも誰かを好きになる～もっと知ろう 自分のこと 相手のこと～」
- ・ Quy Hoa National Leprosy Dermatology Hospital(Vietnam)（2010 年 8 月）：スタッフ向けセミナー

【外的資金獲得】

なし

郷 更織

【研究活動】

<論文>

- ・小畑ゆみ・五十嵐伸子・石澤美和・梅田君子・加藤由美子・上村幸子・郷更織・櫻井照美・浅川淳子（2007）：看護師が学生に期待する小児看護技術の到達レベル，第33回日本看護学会（小児看護）論文集，167-169.
- ・五十嵐伸子・梅田君子・石澤美和・大矢千鶴・小畑ゆみ・加藤由美子・上村幸子・郷更織・櫻井照美・鈴木里子・布施展子（2008）：小児看護実習における小児看護技術の体験状況，第39回日本看護学会（小児看護）論文集，71-73.
- ・郷更織（2009）：混合病棟の看護師が体験する小児看護に対する困難さの意味とその関連要因に関する質的研究，新潟大学大学院保健学研究科看護学分野 修士論文.
- ・田辺生子・佐野幸子・西片一臣・郷更織（2011）：看護師が褥瘡ケアに取り組む現状における困難，第3回新潟青陵学会誌，3(2)，17-23.

<学会発表>

- ・小畑ゆみ・五十嵐伸子・石澤美和・梅田君子・加藤由美子・上村幸子・郷更織・櫻井照美・浅川淳子（2007.9.5）：看護師が学生に期待する小児看護技術の到達レベル，第33回日本看護学会 - 小児看護，つくば.
- ・五十嵐伸子・梅田君子・石澤美和・大矢千鶴・小畑ゆみ・加藤由美子・上村幸子・郷更織・櫻井照美・鈴木里子・布施展子（2008.9.25）：小児看護実習における小児看護技術の体験状況，第39回日本看護学会 - 小児看護，新潟.
- ・郷更織・渡邊タミ子（2009.7.19）：混合病棟の看護師が体験する小児看護に対する困難さの意味とその関連要因に関する質的研究，日本小児看護学会第19回学術集会，札幌.
- ・大久保明子・郷更織（2010.6.26）：子どもを亡くした遺族に対して行われるケアに関する実態調査，日本小児看護学会第20回学術集会，神戸.
- ・大久保明子・郷更織（2010.6.26）：看護師が捉えた子どもを亡くした遺族へのケアにおける課題，日本小児看護学会第20回学術集会，神戸.
- ・大久保明子・横田陽子・栗生田友子・西方真弓・郷更織（2010.8.1）：プリセプティを指導するプリセプターのとまどいの要因，日本看護学教育学会第20回学術集会，大阪.
- ・郷更織・西方真弓・栗生田友子・大久保明子・横田陽子（2010.8.1）：プリセプターが捉えたプリセプティの指導のしやすさに関わる要因，日本看護学教育学会第20回学術集会，大阪.
- ・山田真衣・郷更織（2011.6.26）：在宅で生活している障害児（者）の家族への看護に関する研究の動向，日本家族看護学会第18回学術集会，京都.

【学会等における活動】

- ・第39回日本看護学会（小児看護）2008年9月 学会スタッフ

【社会活動】

- ・新潟小児看護研究会 役員
- ・新潟小児糖尿病キャンプ スタッフ
- ・子どもを亡くした遺族の会（わかばの会） 役員

山田 真衣

【研究活動】

原著論文

- ・山田真衣、渡邊タミ子、赤坂紀幸、遠山潤、小西徹（2011）：てんかん児に対する母親の服薬援助に関する実態，新潟大学医学部保健学科紀要，第10巻（1），p9 - 15.

その他の論文

- ・山田真衣（2009）：てんかん児の母親の服薬援助の実態および服薬コンプライアンスとその関連要因について新潟大学大学院保健学研究科看護学分野 修士論文.

学会発表

- ・山田真衣，渡邊タミ子（20010.6.26）：てんかん児の母親の服薬援助に実態および服薬コンプライアンスとその関連要因について，日本小児看護学会 第20回学術集会，神戸.
- ・山田真衣，郷更織（2011.6.26）：在宅で生活している障害児(者)の家族への看護に関する研究動向，日本家族看護学会 第18回学術集会，京都.

【学会等における活動】

- ・第39回日本看護学会（小児看護）2008年9月 学会スタッフ

【社会活動】

- ・新潟小児看護研究会 役員
- ・新潟小児糖尿病キャンプ スタッブ
- ・子どもを亡くした遺族の会（わかばの会9 役員

渡邊 千春

【研究活動】

その他の論文

- 1) 渡邊千春：終末期実習に対する看護学生の構えに関する研究，新潟県立看護大学看護学研究科修士論文，2008
- 2) 袖山悦子,福澤恭子,坂井さゆり,黒田久美子,渡邊千春 (2007)：臨地実習指導体制づくりアンケート調査を中心に,看護実践の科学 32 (12) ,76 - 80

学会発表

- 1) 渡邊千春,柿川房子 (2010)：終末期実習に対する看護学生の構えに関する研究,日本看護研究学会雑誌 (岡山) 33 (3) 185.

【学会活動】

- 日本看護研究学会 会員
- 日本看護学教育学会 会員

石岡 幸恵

【研究活動】

＜その他の論文＞

- ・石岡幸恵（2007）：新潟県の上越地域における若年層の乳がんに対する認識の調査，学長特別研究費研究報告書，18，41-48.
- ・深澤佳代子，山田正実，高柳智子，酒井禎子，飯田智恵，直成洋子，石岡幸恵，小林綾子，丸山正則（2010）：上越地域における災害医療支援連携システム構築のための基盤研究 地域と教育機関の連携の確立に向けて，看護研究交流センター年報，21，11-12.

弓納持 浩子

【研究活動】

1. 原著論文
2. その他の論文
3. 著書
4. 学会発表
5. その他の研究活動

【学会等における活動】

【社会活動】

【外的資金獲得】

須藤 陽子

(その他の論文)

原等子,永吉雅人,角山裕美子,須藤陽子 (2010) : 最新看護技術周知のためのWEBネットワーク構築の
試み—高齢者ケアにかかわるネットワークづくり—,新潟県立看護大学看護研究交流センター年
報,9-10

(学会発表)

堀良子,飯田智恵,水澤久恵,須藤陽子,橋本明浩 (2010年12月11日) : 「看護の学び直しを支援する
地域指向型オープン/バーチャルカレッジの試み」の現状と展望,情報教育研究集会,京都

水澤久恵,堀良子,飯田智恵,須藤陽子,橋本明浩 (2010年12月11日) : 身体侵襲を伴う看護技術教育
のためのWBT教育システムの効果とその評価, 情報教育研究集会,京都

飯田智恵,堀良子,水澤久恵,須藤陽子,橋本明浩 (2010年12月11日) : 受講生からみた看護学び直し
システムの機能とその評価, 情報教育研究集会,京都

高塚 麻由

【研究活動】

1. 原著論文
2. その他の論文
3. 著書
4. 学会発表
 - ・ 高島葉子、中島通子、菊地美帆、弓納持浩子、高塚麻由、横田陽子、西方真弓（平成 22 年 11 月 6 日）：学部における分娩介助技術法の視覚教材開発の意義と教育効果，第 51 回日本母性衛生学会，金沢市アートホール
 - ・ 弓納持浩子、菊地美帆、高塚麻由、高島葉子、中島通子（平成 22 年 11 月 6 日）：母性看護学演習からみる今後の課題 第 1 報 ―新生児の全身清拭―，第 51 回日本母性衛生学会，金沢市アートホール
 - ・ 高塚麻由、中島通子、高島葉子、菊地美帆、弓納持浩子（平成 22 年 11 月 6 日）：母性看護学演習からみる今後の課題 第 2 報 ―新生児の観察と計測―，第 51 回日本母性衛生学会，金沢市アートホール
 - ・ 高島葉子、中島通子、菊地美帆、弓納持浩子、高塚麻由（平成 22 年 11 月 13 日）：統合カリキュラムによる分娩介助技術法の視聴覚教材開発の意義と教育効果，第 37 回 新潟県母性衛生学会，新潟大学（新潟市）
 - ・ 高塚麻由、高島葉子、菊地美帆、弓納持浩子、中島通子（平成 22 年 12 月 12 日）：男女共同参加の子育てを視野に入れた教育システムの作成と評価，平成 22 年度情報教育研究集会，京都府民総合交流プラザ
5. その他の研究活動

【学会等における活動】

- ・ 日本助産学会会員
- ・ 日本母性衛生学会会員

【社会活動】

- ・ 日本看護協会会員

【外的資金獲得】

西山 佳良

【研究活動】 なし

【学会等における活動】 新潟小児看護研究会

【社会活動】 なし

【外的資金獲得】 なし

星 揚子

【研究活動】

2. その他の論文

- ・星揚子,廣野梓,行方寛幸,森川妙子,五十嵐実花子,白砂由美子(2010): ストーマ看護チェックリストの改善と今後の課題,日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌,26(2),25.

5. その他の研究活動

- ・星揚子,廣野梓,行方寛幸,森川妙子,五十嵐実花子,白砂由美子(2009年11月14日): ストーマ看護チェックリストの改善と今後の課題,新潟県ストーマ研究会,新潟

【学会等における活動】

- ・日本死の臨床研究会会員
- ・日本がん看護学会会員

V 地域生活看護学領域

粟生田 友子

【研究業績】

著書

1. 粟生田友子ほか：第2章リハビリテーション看護におけるメンタルアセスメント；石鍋圭子，野々村典子，泉キヨ子，奥宮暁子，濱川育子，室伏悦子編集：専門性を高める継続看護—リハビリテーション看護実践テキスト，医歯薬出版，2009（平成20年7月）

2. 粟生田友子ほか：第1章 高齢者看護のための基本技術、2 高齢者へのコミュニケーション技術；泉キヨ子、天津栄子編集：根拠が分かる老年看護技術，メヂカルフレンド社，2009（平成20年11月）

3. 粟生田友子ほか：第2章こころのサポート—患者さんのこころのサポート，第2章こころのサポート—病や障害のある人に向けたコミュニケーション，第2章こころのサポート—患者さんのこころのサポート，第2章こころのサポート：医療者自身のこころのケア，リハビリナース編集部編集：THEリハビリテーション看護，P71-85，MCメディカ出版，2009（平成21年10月）

4. 粟生田友子ほか：第6章生活の再構築への援助 4節肯定的自己概念， 5節家族， 6節社会の態度；奥宮暁子，金城利雄，石川ふみよ編集：ナーシンググラフィカ EX—リハビリテーション看護，MCメディカ出版，2010（平成22年3月）

研究論文：原著，報告，その他

1. 粟生田友子，沼本教子：急性期における高齢者ケアの専門性，日本老年看護学会誌，11(2)，P19-20，2007（平成19年3月）

2. 粟生田友子：認知症の人の日常生活の理解とケア—認知症のある人に対する身体拘束(抑制)—ケアをめぐる現状と課題，看護技術，53(12)，P107-113，2007（平成19年6月）

3. 野地有子，柿川房子，粟生田友子，直成洋子，岡村典子，長瀬亜岐，中村めぐみ，宇佐美しおり：CNS看護教育の課題と展望，聖路加看護学会誌，11(1)，P146-148，2007（平成19年6月）

4. 添田しげみ，新保幸子，志賀利江，高木光恵，中村輝旗，粟生田友子，根元茂代子，鈴木初子，鈴木春美，清塚理江：A県の医療機関における病棟責任者からみた身体拘束の現状と課題，寿泉堂病院年報，13巻，P49-54，2007（平成19年11月）

5. 粟生田友子，長谷川真澄，南川雅子，太田喜久子，橋爪淳子，山田恵子：一般病院に入院する高齢患者のせん妄発症と環境およびケア因子との関連，日本老年看護学会誌，12(1)，21-31，2007，（平成19年11月）(老年看護学会研究奨励賞受賞論文)

6. 粟生田友子：リハビリテーション看護を必要とする人の心理的特徴，国際リハビリテーション看

護研究会誌, 1(18), 2008, 平成 20 年 3 月

7. 栗生田友子: 特集障害は“受容”できるか: 看護師の立場から—看護ケアの中で見える対象の障害受容とケアのありよう, リハビリナース, 1(6), P590-594, 2008 (平成 20 年 11 月)

8. 村上麻弥、加藤麻衣子、渡邊明子、栗生田友子: がん患者を在宅緩和ケアへ移行するための家族の要因, 日本看護学会論文集: 成人看護Ⅱ, 39 号, P173-175, 2008 (平成 21 年 2 月)

9. 村上麻弥、加藤麻衣子、渡邊明子、栗生田友子: がん患者を在宅緩和ケアへ移行するための家族の要因, 看護技術, 10 月臨時増刊号, 55(12), P21-25, 2008 (平成 21 年 10 月)

10. 栗生田友子: 脳卒中患者の生きる力とリハビリテーション看護—障害受容と看護のかかわり, 看護技術, 55(12), 21-25, 2009 (平成 22 年 10 月臨時増刊号)

11. 栗生田友子: 脳卒中発作後早期にある人が自己の身体を了解していく体験, 聖路加看護大学大学院, 博士論文, 2010 (平成 22 年 3 月)

12. 栗生田友子: せん妄と認知症の違いとケアのポイント, 認知症介護, 11(1), P2-8, 2010 (平成 22 年 3 月)

13. 栗生田友子: 患者さんに「言ってはいけない言葉」と「上手な使い方」—言ってはいけない言葉④「がんばれない人・がんばれないときの「がんばって!」, リハビリナース, 3(6), P28-30, MCメディカ出版, 2010 (平成 22 年 10 月)

14. 栗生田友子: 患者さんに「言ってはいけない言葉」と「上手な使い方」—上手な使い方⑤「少しずつ退院の準備をしましょう」, リハビリナース, 3(6), P43-45, MCメディカ出版, 2010 (平成 22 年 10 月)

報告書

1. 栗生田友子, 長谷川真澄, 南川雅子, 太田喜久子, 橋爪淳子, 山田恵子: 一般病院に入院する高齢患者のせん妄発生に関連する環境とケア因子の探索, 日本看護協会研究費補助金成果報告, 2006 (平成 18 年)

2. 栗生田友子, 西方真弓, 大久保明子, 横田陽子, 浦山留美: 新卒看護師における職場認知と適応, 平成 19 年度新潟県立看護大学学長特別研究報告書, 2009 (平成 21 年 3 月)

学会発表

1. Noji, A., Mayo, M. M., Kakikawa, F., Aohda, T., Sugunari, Y., Okamura, N., Nagase, A.: Advanced Practice Educational Challenges & Innovative Strategies: The Clinical Nurse Specialist Role in the US and Japan, ICN Conference and CNR 2007 (横浜), 平成 19 年 5 月 31 日

2. 浦山留美、栗生田友子、櫻井信人：精神科における隔離・拘束に対する看護師の臨床判断，日本精神保健看護学会（東京・北里），平成19年6月，
3. 櫻井信人、栗生田友子、浦山留美、小林創：自殺者遺族の看護ケアのニーズ，日本精神保健看護学会（東京・北里），平成19年6月，
4. 栗生田友子、三宅謙作、高山友子、大音静香：眼科領域において看護師はどう専門性を発揮できるか，第61回日本臨床眼科学会，P250-251，平成19年10月
5. 戸田真理子、栗生田友子：日本における動物介在療法(AAT：Animal-Assisted Therapy)に関する研究の動向と老年看護領域における導入の可能性，日本老年看護学会第12回学術集会，（神戸），抄録集P96，平成19年11月
6. 大久保明子、西方真弓、浦山留美、横田陽子、栗生田友子：新卒看護師の職場認知と適応に関する質的研究，日本看護学教育学会第18回学術集会講演集，P233，平成20年8月
7. 栗生田友子、稲垣吉彦、安藤伸朗、木賀沢一輝：視覚障害と心のケア—障害者看護学の立場から，第62回日本眼科学会，学会誌P228-229，平成20年10月
8. 小川沙織、栗生田友子：認知症患者に対して熟練看護師が用いているコミュニケーションスキル，日本老年看護学会第13回学術集会，（金沢）抄録集p225，平成20年11月
9. 浦山留美、栗生田友子、大久保明子、西方真弓、横田陽子：新卒看護師の職場認知と適応に関する研究(その1)—自己の成長の自覚を中心に—，第28回日本看護科学学会学術集会講演集，P368，平成20年12月
10. 西方真弓、横田陽子、大久保明子、栗生田友子、浦山留美：新卒看護師の職場認知と適応に関する研究(その2)—乗り越えのパワーを中心に—，第28回日本看護科学学会学術集会講演集，P369，平成20年12月
11. 横田陽子、栗生田友子、西方真弓、浦山留美、大久保明子：新卒看護師の職場認知と適応に関する研究(その3)—指導の要素を中心に—，第28回日本看護科学学会学術集会講演集，P369，平成20年12月
12. 菅原縁、栗生田友子、横田陽子：緊急帝王切開を受けることになった母親の体験，第28回日本看護科学学会学術集会講演集，P479+，平成20年12月
13. 櫻井信人、栗生田友子、浦山留美、小林創：身内の自殺後の体験を通して生じた思い，日本精神保健看護学会第19回総会・学術集会（東京），平成21年6月
14. 長谷川真澄，栗生田友子，菅原峰子，北村愛子，白取絹恵，太田喜久子，瀧断子，鳥谷めぐみ：
せん妄ケアのシステム化における課題と展望，日本老年看護学会第14回学術集会（札幌），抄録集，P70，平成21年9月26日～27日

15. 大久保明子, 横田陽子, 栗生田友子, 西方真弓, 郷更織: プリセプティを指導するプリセプターのとまどいの要因, 第20回日本看護教育学会(大阪), 2010(平成22年8月1日), P265

16. 郷更織, 西方真弓, 栗生田友子, 大久保明子, 横田陽子: プリセプターが捉えたプリセプティの指導しやすさにかかわる要因, 第20回日本看護教育学会(大阪), 2010(平成22年8月1日), P266

17. 栗生田友子, 長谷川真澄, 菅原峰子, 鳥谷めぐみ, 瀧断子, 白鳥絹恵: 入院中の高齢者のせん妄発症にかかわる病床環境及び対人環境に関する認知一発症リスクコントロールに向けた質問紙の開発のための基礎研究一, 日本老年看護学会第15回学術集会(宇都宮), 抄録集P214, 2010(平成22年6月)

18. 鳥谷めぐみ, 長谷川真澄, 栗生田友子, 菅原峰子, 瀧断子: 一般病院入院患者のせん妄ケアシステムの現状と課題(第1報)ー看護師への調査からー, 第30回日本看護科学学会学術集会(札幌), 講演集, P493, 2010(平成22年12月)

19. 長谷川真澄, 栗生田友子, 菅原峰子, 鳥谷めぐみ, 瀧断子: 一般病院入院患者のせん妄ケアシステムの現状と課題(第2報)ー看護管理者への調査からー, 第30回日本看護科学学会学術集会(札幌), 講演集, P494, 2010(平成22年12月)

20. 栗生田友子: 脳卒中発作後早期にある人が変化した自己の身体を了解していく体験, 日本老年看護学会第16回学術集会(東京), 抄録集, P160, 2011(平成23年6月15日~17日)

21. 栗生田友子, 大久保明子, 浦山留美, 櫻井信人, 川里庸子: 自死遺族を支援する看護者が認知するグループに参加する初期の家族の苦悩, 日本家族看護学会第18回学術集会(京都), プログラム・抄録集, P141, 2011(平成23年6月25日~26日)

22. 郷更織, 大久保明子, 栗生田友子, 西方真弓, 横田陽子: プリセプターシップが機能するために看護師長の状況判断と介入, 日本看護教育学会(大宮), 2011年8月.30日~31日

23. 栗生田友子: 眼科領域における倫理的課題, 日本臨床眼科学会(東京), 2011年(平成23年10月)

24. 栗生田友子, 大久保明子, 郷更織, 西方真弓, 横田陽子: 新人看護師の居場所感, 日本看護科学学会(高知), 2011(平成23年12月)

講演・シンポジスト

○特別講演

栗生田友子: 看護の場の気づきを活かす看護研究(特別講演), 平成14年10月, 平成14年度福島県看護学会, 郡山, 平成14年度福島県看護学会集録, p.73

栗生田友子: 技能を通してかかわるこころのケア, 平成15年10月, 第29回日本東洋医学系物理療

法学会. 郡山. 第 29 回日本東洋医学系物理療法学会講演集

栗生田友子: 認知症の看護と介護, 日本脳ドッグ学会, 講演,
2008 年 (平成 19 年 5 月 18 日) (郡山)

○シンポジウム

栗生田友子, 南雲直二, 大田仁史ほか: 障害受容とはなにか, 平成 14 年 10 月, 日本リハビリテーション心理研究会, 東京

綿貫成明, 酒井郁子, 太田喜久子, 栗生田友子, 長谷川真澄ほか: せん妄交流集会, 日本看護科学学会学術集会, 平成 14 年

栗生田友子, 南雲直二: リハビリテーションにおける障害受容の課題, 平成 15 年 10 月, 日本リハビリテーション心理研究会. 東京

栗生田友子: ロービジョン者の語る体験世界—孤独, 苦悩, 希望と医療者への期待を中心に—, 平成 17 年 7 月, 第 42 回北日本眼科学会. 福島

栗生田友子: 看護職としての関わりを通して見える糖尿病による視覚障害者へのコメディカルの連携, 平成 18 年 3 月 12 日, 第 12 回糖尿病眼学会, シンポジスト

栗生田友子: 頭蓋内疾患のロービジョンケア—脳卒中発作後に視覚障害を体験する患者の「とまどい」と適応, 平成 18 年 9 月 12 日, 第 7 回ロービジョン学会総会, 第 15 回視覚障害リハビリテーション研究発表大会合同会議, シンポジト: 栗生田友子

野地有子, 柿川房子, 栗生田友子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐: CNS 交流集会, 平成 18 年 9 月 19 日, 聖路加看護学会, 交流集会企画, 実施(司会を担当)

沼本教子, 栗生田友子: シンポジウム—急性期医療における高齢者ケアの専門性, 平成 18 年 11 月, 第 11 回老年看護学会, 座長 沼本教子, 栗生田友子: , シンポジスト: 綿貫成明, ほか

栗生田友子, 三宅謙作, 高山友子, 大音静香: シンポジウム—眼科領域において看護師はどう専門性を発揮できるか, 第 61 回日本臨床眼科学会, P250-251, 平成 19 年 10 月,

栗生田友子, 稲垣吉彦, 安藤伸朗, 木賀沢一輝: シンポジウム—視覚障害と心のケア—障害者看護学の立場から, 第 62 回日本眼科学会, 学会誌P228-229, 平成 20 年 10 月

【研究費の獲得状況】

栗生田友子(主任研究員): 平成 14~16 年 文部科学省科学研究費助成金 (萌芽研究)を受ける
「中途障害者における障害を受け入れる意味と生活の再構築に向けたケアリングモデルの開発」

栗生田友子(主任研究員), 太田喜久子, 長谷川真澄, 南川雅子, 小井川悦子, 矢吹スミ子, 畑中伸子,

橋爪淳子、山田恵子、野々村ゆかり：平成 16 年度日本看護協会研究助成金を受ける（20 万円）
「一般病院における高齢患者のせん妄発生にかかわる環境及びケア因子への介入研究のための基礎調査」 研究成果は日本老年看護学会に発表した。

栗生田友子(主任研究員)：平成 17 年～19 年 文部科学省科学研究費助成金（萌芽研究）を受ける
「高次機能障害者の症状に対する家族の認知と理解を促進するための介入研究」。

栗生田友子(主任研究員)、太田操、清塚理江、小平廣子、根元茂代子、鈴木初子、鈴木春美、添田しげみ、新保幸子、高木光恵、中村輝旗、志賀利江：平成 17 年福島県立医科大学看護学部共同研究費の研究助成を受ける（109 万円）。

「福島県内の医療機関における身体拘束の実態と課題」

日本看護学会急性期看護 1 題、日本看護学会看護管理 2 題、及び日本老年看護学会 1 題に発表した。

野地有子(主任研究員)、柿川房子、栗生田友子、直成洋子、岡村典子、長瀬亜岐：平成 18 年度新潟県立看護大学看護学部学長特別研究の研究助成を受ける

「CNS の現状と課題に関する研究」

研究成果は、①聖路加看護学会交流集会上に演題として発表、②ICN 国際大会（横浜 2007 年）に発表した。

栗生田友子(主任研究員)、浦山留美、櫻井信人：平成 18 年度新潟県立看護大学看護学部学長特別研究の研究助成を受ける

「精神看護領域における隔離拘束に関する看護師の臨床判断に関する研究」

研究成果は、日本精神保健看護学会（北里大学 2007 年 6 月）に発表した。

櫻井信人(主任研究員)、栗生田友子、浦山留美：平成 18 年度新潟県立看護大学看護交流センターより、地域課題研究として研究助成を受ける

「自殺者遺族が必要とする看護ケアのニーズ」

研究成果は、日本精神保健看護学会（北里大学 2007 年 6 月）および日本精神保健看護学会（東京 2009 年 6 月）に 2 題発表した。

浦山留美（主任研究員）、栗生田友子、櫻井信人：平成 19 年度学長特別研究・共同研究の研究助成を受ける 333,000 円

「統合失調症患者が体験している身体接触に関する研究」

栗生田友子（主任研究員）、西方真弓、大久保明子、浦山留美、横田陽子：平成 19 年度学長特別研究・共同研究の研究助成を受ける 397,000 円

「新卒看護師の職場認知と適応に関する研究」

研究成果は、下記の通り、2 つの学会に 4 題発表した

大久保明子ほか：新卒看護師の職場認知と適応に関する質的研究，日本看護学教育学会第 18 回学術集会，平成 20 年 8 月

浦山留美ほか：新卒看護師の職場認知と適応に関する研究(その 1)―自己の成長の自覚を中心に―，第 28 回日本看護科学学会学術集会，平成 20 年 12 月

西方真弓ほか：新卒看護師の職場認知と適応に関する研究(その 2)―乗り越えのパワーを中心に―，第 28 回日本看護科学学会学術集会，平成 20 年 12 月

横田陽子ほか：新卒看護師の職場認知と適応に関する研究(その 3)―指導の要素を中心に―，第 28

回日本看護科学学会学術集会，平成 20 年 12 月

大久保明子（主任研究員），栗生田友子、横田陽子、西方真弓、郷更織：平成 21 年看護研究交流センターより地域課題研究として研究助成を受ける

「新卒看護師の離職の兆候と就職希望者のサポートに関する研究—プリセプターのとまどいに焦点を当てて—」

研究成果は、平成 22 年 8 月 第 20 回日本看護教育学会（大阪）に 2 題発表した。

栗生田友子（主任研究員）：平成 21 年～23 年 文部科学省科学研究費助成金（基盤研究 C）を受ける

「入院中の高齢者のせん妄発症にかかわる環境因子のリスクコントロール」

研究分担者：菅原峰子（平成 21 年）、櫻井信人（平成 22 年）、川里庸子（平成 23 年）、

共同研究者：太田喜久子、長谷川真澄、瀧断子、鳥谷めぐみ、小日向真衣

研究成果は、老年看護学会（平成 22 年）他に発表した。現在進行中

長谷川真澄（主任研究員）：平成 22 年～24 年、文部科学省科学研究費助成金（基盤研究 C）を受ける

「一般病院入院患者のせん妄に関する予防ケアシステムの実態調査」

研究分担者：瀧断子、鳥谷めぐみ、小日向真衣

共同研究者：栗生田友子、菅原峰子、

櫻井信人、栗生田友子、浦山留美、小林創：平成 21 年度～22 年度 新潟県立看護大学看護研究交流センターより研究助成を受ける

「自死遺族のピアグループネットワーク構築に関する研究—グループ形成に向けたアクションリサーチ」

研究成果は、平成 23 年 6 月 日本家族看護学会（京都）に発表した。

また、実績として平成 22 年 3 月に自死遺族支援グループ「はじめの会」を立ち上げた。

郷更織（主任研究員）、西方真弓、横田陽子、大久保明子、栗生田友子：平成 22 年度看護研究交流センターより地域課題研究として研究助成を受ける

「プリセプターシップが機能するために看護師長の状況判断と介入」

研究成果は、平成 23 年 8 月 30 日～31 日（大宮） 日本看護学教育学会で発表した。

小林創（主任研究員）：地域課題研究に継続する

新潟県より、活動助成金を平成 23 年より需給

【職務上の実績】

学内の運営

栗生田友子

平成 18 年 教務委員、図書委員、看護研究交流センター地域貢献部会委員、

平成 19 年 FD 委員長、教務委員、教学小委員、看護研究交流センター地域貢献部会委員（副部会長）

- 平成 20 年 F D 委員長、教務委員、教学小委員、看護研究交流センター地域貢献部会委員（副部会長）特色 GP 新潟県立看護大学看護職学習支援どこでもカレッジプロジェクトに参画。
- 平成 21 年 上半期：F D 委員長、教務委員、教学小委員長、看護研究交流センター地域貢献部会委員（副委員長）特色 GP 新潟県立看護大学看護職学習支援どこでもカレッジプロジェクトに参画。
下半期：看護研究交流センター長、実習委員長、教学小委員、教務委員、特色 GP 新潟県立看護大学看護職学習支援どこでもカレッジプロジェクトに参画。
- 平成 22 年 看護研究交流センター長、実習委員長、教学小委員長、教務委員、
- 平成 23 年 看護研究交流センター長、教学小委員長

学会、研究に関する活動

栗生田友子

1) 関連学会における学術集会の企画・運営への参加

- 日本看護科学学会 平成 14 年 12 月 日本看護科学学会 学術集会実行委員・東京
聖路加看護学会 平成 14 年 聖路加看護学会平成 14 年度学術大会企画委員、
平成 15 年 聖路加看護学会平成 15 年学術大会企画委員
平成 21 年～22 年 聖路加看護学会評議員

2) 学会演題の査読

日本リハビリテーション看護学会査読委員、日本看護科学学会学術集会査読、
聖路加看護学会査読
日本老年看護学会 平成 22 年より 論文査読委員
日本リハビリテーション看護学会 平成 22 年より 論文査読委員

所属学会

栗生田友子：日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本看護学教育学会、日本看護学会、日本ロービジョン学会、聖路加看護学会、日本家族看護学会、日本病院管理学会

社会貢献

栗生田友子：福島県身体拘束ゼロ推進会議副委員長、(平成 17 年～18 年)

栗生田友子：新潟県上越市上越総合都市計画審議委員、(平成 18 年、平成 22 年)

栗生田友子：新潟県精神保健福祉協会上越支部委員、(平成 18 年～現在)

栗生田友子：埼玉県・福島県・新潟県の病院看護職の研究指導

福島県立病院（8 病院） 研究指導（平成 14～18 年）

福島労災病院 研究指導（平成 14～18 年）

総合南東北病院 研究指導（平成 14 年～19 年）

星総合病院 研究指導（平成 14 年～18 年）

埼玉県立総合リハビリテーション病院 研究指導（平成 13 年～16 年 3 月）

国立身体障害者リハビリテーション病院 研究指導（平成 14 年～18 年 3 月）

新潟労災病院 研究指導（平成 19 年）

国立障害者リハビリテーションセンター 研究指導（平成 20 年～現在）

国立病院機構さいがた病院 研究指導（平成 20 年～現在）

日本精神科看護技術協会新潟県支部 研究発表会講評（平成 21 年度～22 年度）

栗生田友子：平成 18 年度新潟県臨床実習指導者講習会において、精神看護学を担当(平成 18 年)

栗生田友子：平成 19 年 10 月 12 日 新潟県立看護大学 看護研究王流センター 公開講座 講師

「年をとるっていやですか」 約70名
平成 18 年 10 月 新潟工科大学公開講座 講師

「年をとるっていやですか」 約20名

栗生田友子:平成 21 年(2009 年)7 月 25 日 新潟県立看護大学 看護研究交流センター 公開講座 講師
「人とのコミュニケーション」 約40名

栗生田友子:平成 22 年 3 月より、自死遺族支援グループ「はじめの会」を主宰
会代表に助教櫻井を立て、共に支援活動を推進。

栗生田友子:平成 23(2011年)年8月24日 新潟県立看護大学 看護研究交流センター 公開講座
いきいきサロン 「入院するとボケるって本当？－高齢者せん妄の発症予防と混乱への対応－」 約110名

研修会講師

栗生田友子

平成 18～19 年

平成 14 年, 福島, 精神保健介護福祉士研修会支援,

平成 18 年.8 月 28 日 毛呂山町公民館主催 ボランティア研修会 講師

平成 17 年 8 月 26 日 国際リハビリテーション看護研究会 主催 (茨城:茨城県立大学)
「セルフケアと自己決定」

平成 18 年 10 月, 新潟県立精神保健センター主催研修会

「精神科病院における事故に対するリスク管理」

平成 18 年 9 月 21 日 妙高市介護認定者研修会 新井市福祉センター

「国際生活機能分類 (WHO,2001) のケア実践への活用」

平成 18 年 11 月 15 日 妙高市介護認定者研修会 新井市福祉センター

「国際生活機能分類 (WHO,2001) のケア実践への活用」 第 2 回

平成 18 年 10 月, 認知症対策研修会

認知症患者のケア, 国立病院機構認知症研修会, 於 さいがた病院,

平成 19 年 8 月 19 日 国際リハビリテーション研究会主催 研修会 (東京 女子医大)

「リハビリテーションを必要とする人の心理的特徴」

平成 19 年 9 月 (東京) 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会主催研修会講師

回復期リハビリテーション看護師認定コース 「障害を受けた人の心理的反応に関する講演」

平成 19 年 9 月 (埼玉) 埼玉県総合リハビリテーションセンター 研修会講師

「障害者の心理」に関する講義と演習 (演習は 1 月から 3 月に実施)

平成 19 年 10 月 国立障害者リハビリテーションセンター主催 リハビリテーション看護研修会講師

「障害とリハビリテーション看護」

平成 20 年

平成 20 年 9 月 (埼玉) 埼玉県総合リハビリテーションセンター 研修会講師

「障害者の心理」に関する講義と演習 (演習は 1 月から 3 月に実施)

平成 20 年 10 月 28 日～30 日 国立障害者リハビリテーションセンター主催 リハビリテーション看護研
修会講師 「障害とリハビリテーション看護」

平成 20 年 10 月 20 日 (東京) 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会主催研修会講師

回復期リハビリテーション看護師認定コース 「障害を受けた人の心理的反応に関する講演」

平成 21 年度

平成 21 年 8 月 23 日 (日) 新潟県理学療法士協会主催 臨床実習教育研修会講師 (清涼リハビリテ
ーション学院:長岡市)

「実習指導や教育の場におけるコミュニケーション技法」に関すること
平成 21 年 9 月 14 日 (東京) 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会主催研修会講師
回復期リハビリテーション看護師認定コース「障害への反応と回復過程」
平成 21 年 9 月 18 日 (埼玉) 埼玉県総合リハビリテーションセンター 研修会講師
「障害者の心理」に関する講義と演習(演習は 1 月から 3 月に実施)
平成 21 年 9 月 福島県看護協会 主催研修会講師 郡山ビッグパレット 300 名
「障害や病を抱えながら生活する人へのセルフケア支援」
平成 21 年 10 月 28 日 国立障害者リハビリテーションセンター主催 リハビリテーション看護研修会
講師 「障害とリハビリテーション看護」
平成 21 年 11 月 20 日 新潟県立精神医療センター主催研修会
「隔離・拘束における看護師のジャッジメント」
平成 21 年 12 月 15 日 国立病院機構さいがた病院 研修会講師
「研究論文作成の基礎を学ぶ」
平成 22 年 2 月 2 日 厚生労働省委託 新人看護師臨床実践能力向上推進事業
新人看護職員の教育担当者実務研修講師 財団法人星総合病院星が丘病院企画(郡山市)
「精神科における看護研究指導」
平成 22 年 2 月 3 日 社団法人日本精神科看護技術協会 新潟県支部 研修会講師
「看護研究のすすめ方・まとめ方」

平成 22 年度

平成 22 年 9 月 (東京) 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会主催研修会講師
回復期リハビリテーション看護師認定コース「障害を受けた人の心理的反応に関する講演」
平成 22 年 9 月 (埼玉) 埼玉県総合リハビリテーションセンター 研修会講師
「障害者の心理」に関する講義と演習(演習は平成 23 年 2 月 16 日、3 月 16 日に実施)
平成 22 年 9 月 14 日 福島県看護協会主催研修会講師 郡山:看護協会研修センター
「セルフケアを支援するアプローチー脳卒中患者への支援」 40 名
平成 22 年 9 月 28 日 地域医療センター病院 研修会(上越)
「リハビリ看護ー事例を通して学ぶ」
平成 22 年 10 月 28 日 国立障害者リハビリテーションセンター主催 リハビリテーション看護研修会
講師 「障害とリハビリテーション看護」
平成 23 年 1 月 日本看護協会研修会 (神戸看護協会研修センター)
「脳卒中患者の生きる力を支える」

平成 23 年度

平成 23 年 9 月 (大阪) 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会主催研修会講師
回復期リハビリテーション看護師認定コース「障害を受けた人の心理的反応に関する講演」
平成 23 年 9 月 (埼玉) 埼玉県総合リハビリテーションセンター 研修会講師
「障害者の心理」に関する講義

その他省略

福島労災講演

国リハ研究講評時の講演

教育活動

栗生田友子

1) 福島県立医科大学における障害者看護学・精神看護学教育の実践（障害者看護学全般と老年期、メンタルケアを中心とした教育実践）

福島県立医科大学看護学部、心理社会看護学部門、障害者看護学・精神看護学 助教授
平成 11 年 4 月～平成 18 年 3 月

2) 福島県立医科大学における老年期精神発達論、老年期精神障害、障害者の心理アセスメントとメンタルヘルスケア、研究方法論を専門領域とした。

担当科目は、「障害者看護学」3 年次 2 単位 30 時間、「精神看護学Ⅰ」（精神保健看護論）3 年次 2 単位 30 時間、「精神看護学Ⅱ」（精神科看護論）3 年次 2 単位 30 時間、「看護研究方法論」2 年次 2 単位 30 時間、「看護研究と理論の活用」4 年次通年 4 単位 60 時間、「看護学の基本」1 年次 2 単位 30 時間のうち一部、「生涯発達論」2 年次 2 単位 30 時間のうち老年期に関する講義 4 時間～6 時間、「課題別実習」4 年次 2 単位 90 時間、「障害者看護学実習」4 年次 1 単位 45 時間ほかを担当した。

3) 福島県立医科大学における看護研究方法の講義・演習の教育実践 平成 7 年～平成 18 年 3 月

福島県立医科大学看護学部において研究方法の授業を担当し指導に従事した。

担当科目は、「看護研究方法論」学部 2 年次「看護研究・理論の活用」学部 4 年次

神奈川県立看護教育大学校、埼玉県看護教員養成課程、福島県看護協会、等の主催する看護研究方法論の講義を担当した。

4) 看護研究方法に関する非常勤教育及び研究指導

- ① 聖路加看護大学在職中および現職在職中において、臨床看護職、看護学校学生、看護協会現任教育等のなかで、看護研究方法の実践的指導に従事
- ② 福島県立医科大学附属看護学校、ポラリス看護学校の看護研究方法論の講義を担当。
- ③ 埼玉県・福島県の病院看護職の研究指導に従事。（福島県立病院 8 病院、福島労災病院、星総合病院、埼玉県立総合リハビリテーション病院、国立身体障害者リハビリテーション病院ほかの臨床実践家の研究指導に携わる）

5) 新潟県立看護大学において精神看護学の講義および演習、実習に従事
精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱ、精神看護学演習、精神看護学実習を担当
専門実習、専門ゼミ、看護研究を担当
看護研究オムニバスの講義の一部を担当

6) 新潟県立看護大学において大学院修士課程の教育に携わる
看護学研究法（質的・量的）の講義（平成 21 年～現在）の一部
文献講読の講義（平成 18 年～現在）
老年期リハビリテーション看護論（平成 18 年～現在）
老年看護特論演習Ⅲ（平成 18 年より現在）
特別看護演習（修士論文指導）

7) 近大姫路大学非常勤講師 平成 19 年より～現在
「身体知的障害看護論」1 単位 15 時間のうち 12 時間分
「身体知的障害看護学演習」2 単位 30 時間を担当。

8) 浦和医師会看護専門学校講師 平成 17 年～平成 22 年

「リハビリテーションと看護」 1 単位 15 時間のうち 8 時間を担当

平澤 則子

【研究活動】

1.原著論文

藤川あや, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝 (2010) : 在宅での見取りを可能にする訪問看護ステーションの医療連携体制に関する研究, 日本在宅ケア学会誌, 14 (2) , 76-86.

平澤則子, 飯吉令枝, 鳩野洋子, その他 3 名 (2011) : 山間豪雪地域における高齢者のIADLの変化と日常生活行動との関連性, 日本地域看護学会誌, 第 13 巻, 第 2 号, 31-37.

2.その他の論文

小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 他 1 名 (2008) : 農村地域に暮らす高齢者の生活ニーズとソーシャル・サポートの検討—サービス提供者のフォーカス・グループ・インタビューから— 保健師ジャーナル, 64 (3) , 258-263.

藤川あや, 飯吉令枝, 平澤則子, その他 3 名 (2008) : 過疎地域における高齢者の生活の自立において困難なことと地域支えあいの実態, 日本看護学会論文集地域看護 (第 39 回) , 119-121.

平澤則子 (2010) : 筋萎縮性側索硬化症の夫を介護する妻の介護体験とその構造-ライフコースアプローチによる理解 -, 博士学位論文

平澤則子 (2010) : 人生の後半を主体的に生きる難病療養者と家族が選んだことと看護者の役割, 日本難病看護学会誌, 15 (2) , 136-138.

飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや (2011) : 保健師の介護予防マネジメントにおける支援意図と課題, 日本看護学会論文集地域看護 (第 41 回) , 227-230.

飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 野口裕子, 他 3 名 (2008) : 過疎地域における高齢者の健康と生活の自立に関する研究, 平成 19 年度看護研究交流センター年報, p 3-4.

野地有子, 飯吉令枝, 長瀬亜岐, 菅原峰子, 小林恵子, 平澤則子, 他 4 名 (2008) : 越まちの保健室による CBPR アプローチの実践研究, 越まちの保健室による CBPR アプローチの実践研究.

堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵, 平澤則子, 他 2 名 (2009) : 県内訪問看護師のコラボレーティブ・ラーニングの可能性に関する研究, 平成 20 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報 p 15-16.

藤川あや, 飯吉令枝, 小林恵子, 平澤則子 (2009) : 在宅死を可能にする訪問看護ステーションの機能に関する研究, 平成 20 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報 p 11-12.

藤川あや, 小林恵子, 飯吉令枝, 平澤則子 (2010) : 在宅死を可能にする訪問看護ステーションの機能に関する研究, 平成 21 年度老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業) 「訪問看護ステーションの基盤強化に関する調査研究事業」報告書.

飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや他 (2011) : 豪雪過疎地域の高齢者の自立生活継続のための介護予防マネジメント技術の検討, 平成 20 年度-22 年度科学研究費補助金研究費 (基盤 C) 研究報告書.

3.著書

なし

4.学会発表

小林恵子, 齊藤智子, 飯吉令枝, 平澤則子 (2007.7.28) : 災害時における要援護者の健康ニーズと支援上の課題, 日本地域看護学会学術集会 (第 10 回) , 神奈川.

平澤則子, 飯吉令枝, 齊藤智子, 野口裕子, 小林恵子, 鳩野洋子, 佐々木美佐子 (2007.

- 7.28) , 高齢者の活動能力低下に関連する要因の検討, 日本地域看護学会学術集会 (第 10 回) , 神奈川.
- 平澤則子 (2007.8.25) : 人生評価図を用いて難病患者家族の介護体験の相対的評価を促すための試み, 日本難病看護学会学術集会 (第 12 回) , 青森.
- 飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 野口裕子, 斉藤智子 (2007.10.25) : 過疎地域における高齢者の 3 年間での健康・生活の変化, 日本公衆衛生学会 (第 66 回) , 松山.
- 細道奈穂子, 林八重子, 平野真弓, 平澤則子, 他 2 名 (2007.12) : 訪問看護ステーションの管理者が捉える経営の安定を図るための課題, 平成 19 年度新潟県看護学会, 新潟.
- Noriko Hirasawa. Ariko Noji. Keiko Kobayashi. Yoshie Iiyoshi. Yuko Noguchi. (2007.11.23) : Lessons Learned the Emergency Readiness Competencies for Public Health Nurses from a Flood Disaster—Focus on the First Day of the Disaster—. The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing, Seoul.
- Keiko Kobayashi. Ariko Noji. Noriko Hirasawa. Yoshie Iiyoshi. Yuko Noguchi. (2007.11.23) : Disaster Nursing for the Victims of Earthquake in a Village Evacuated as a Whole—A Case of Families Scattered to the Different Shelters—, The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing, Seoul.
- 飯吉令枝, 平澤則子, 野地有子, 小林恵子 (2008.7.6) : 豪雪地域に暮らす後期高齢者の生活と健康の関連 第 1 報 痛みに焦点をあてて, 日本地域看護学会 (第 11 回) , 那覇.
- 平澤則子, 飯吉令枝, 野地有子, 小林恵子 (2008.7.6) : 豪雪地域に暮らす後期高齢者の生活と健康の関連 第 2 報 睡眠習慣に焦点をあてて, 日本地域看護学会 (第 11 回) , 那覇.
- 杉田収, 小林恵子, 飯吉令枝, 平澤則子 (2008.8) : 日本臨床化学学術集会 (第 48 回) , 東京.
- 藤川あや, 飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 野口裕子 (2008.10.10) : 過疎地域における高齢者の自立生活において困難なことと地域支えあいの実態, 日本看護学会 地域看護 (第 30 回) , 静岡.
- 飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや, 野口裕子 (2008.11.6) , 過疎地域における高齢者の自立生活維持のために必要な支援, 日本公衆衛生学会 (第 67 回) , 福岡.
- 小林奈緒子, 野地有子, 平澤則子, 飯吉令枝 (2008.11.6) : 高額医療費の要因分析から見た生活習慣病予防に関する研究, 日本公衆衛生学会 (第 67 回) , 福岡.
- 野地有子, 飯吉令枝, 長瀬亜岐, 菅原峰子, 小林恵子, 平澤則子, 野口裕子 (2008.12.13) , CBPR アプローチによる地域看護実践に関する研究 上越まちの保健室の看護活動を中心として, 日本看護科学学会学術集会 (第 28 回) , 福岡
- 平澤則子, 矢坂陽子, 沖田慶子, 内藤康子, 三宮ユカリ, 大西沙智子, 棚橋ひろみ (2009.3.15) : 全戸訪問において派遣保健師が把握した要支援者の特徴 (第 1 報) -A 村保健師が平常時に把握していた「気になる」こととの比較, 日本在宅ケア学会学術集会 (第 13 回) , 大阪.
- 三宮ユカリ, 内藤康子, 大西沙智子, 平澤則子, 矢坂陽子, 沖田慶子, 棚橋ひろみ (2009.3.) : 全戸訪問において派遣保健師が把握した要支援者の特徴 (第 2 報) -被災 6~8 ヶ月後の健康・生活ニーズと継続支援の必要性-, 日本在宅ケア学会学術集会 (第 13 回) , 大阪.
- 岡村典子, 堀良子, 水口陽子, 水澤久恵, 平澤則子, 橋本明浩, 渡部江里子 (2009.3.15) : ネットワークで結ぶ訪問看護師の Collaborative Learning の構築 (1) , 日本在宅ケア学会学術集会 (第 13 回) , 大阪.
- 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵, 平澤則子, 橋本明浩, 渡部江里子 (2009.3.15) : ネットワークで結ぶ訪問看護師の Collaborative Learning の構築 (2) , 日本在宅ケア学会学術集会 (第 13 回) , 大阪.

藤川あや, 飯吉令枝, 小林恵子, 平澤則子 (2009.8.8) : 訪問看護ステーションと在宅療養支援診療所との連携の実態, 日本地域看護学会学術集会 (第 12 回), 千葉.

Noriko Hirasawa (2009.8.17) : Study of nursing for family caregivers of patients with incurable diseases in the context of optimization model, The 4th international conference on community health nursing research, Adelaide.

Yoshie Iiyoshi, Noriko Hirasawa, Aya Fujikawa, Keiko Kobayashi, Yuko Noguchi, Naoko Hashidate (2009.8.17) : Mutual support within communities for care-preventive programs in depopulated areas. The 4th international conference on community health nursing research, Adelaide.

Aya Fujikawa, Keiko Kobayashi, Yoshie Iiyoshi, Noriko Hirasawa (2009.8.17) : Home Care Nursing Station System Enabling to Die at Home, The 4th international conference on community health nursing research, Adelaide.

平澤則子 (2009.8.24) : 難病療養者の妻が辿ってきたライフコースと介護体験, 日本難病看護学会 (第 14 回), 前橋.

平澤則子, 飯吉令枝, 小林恵子, 藤川あや (2009.11.21) : 山間過疎地域における高齢者の睡眠習慣と健康との関連, 日本公衆衛生学会 (第 68 回), 奈良.

藤川あや, 飯吉令枝, 小林恵子, 平澤則子 (2009.11.21) : 山間過疎地域における高齢者の通院手段, 日本公衆衛生学会 (第 68 回), 奈良.

飯吉令枝, 藤川あや, 平澤則子, 小林恵子 (2009.11.21) : 山間豪雪地域における高齢者の活動能力と生活行動の変化-縦断調査から-, 日本公衆衛生学会 (第 68 回), 奈良.

内藤康子, 三宮ユカリ, 大西沙智子, 平澤則子, 他 2 名 (2010.1.23) : 全戸訪問において派遣保健師が把握した要支援者の特徴-精神的な問題を抱えた要支援者のニーズの変化と継続支援の必要性-, 日本在宅ケア学会学術集会 (第 14 回), 東京.

平澤則子, 矢坂陽子, 内藤康子, 他 3 名 (2010.1.23) : 3 年間で 2 度の大地震を経験した要支援者の被災体験の評価-人生評価図を用いたインタビュー調査を試みて-, 日本在宅ケア学会学術集会 (第 14 回), 東京.

上ノ山すみ, 北川公子, 小林恵子, 平澤則子 (2010.1.24) : 脳卒中後遺症者の療養生活における主体的活動とその意味, 日本在宅ケア学会学術集会 (第 14 回), 東京.

飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや (2010.8.26) : 豪雪過疎地域の高齢者の 7 年間の動態及び健康状態の変化, 日本地域看護学会学術集会 (第 13 回), 札幌.

平澤則子 (2010.8.26) : 在宅神経難病療養者・家族の学習ニーズとソーシャル・サポートの検討-看護職のフォーカス・グループ・インタビューから-, 日本難病看護学会学術集会 (第 15 回), 山形.

平澤則子 (2010.10.15) : パーキンソン病療養者を介護する家族の主観的QOLの推移と関連要因, 日本看護学会 地域看護 (第 32 回), 大津.

飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 他 3 名 (2010.10.15) : 保健師の介護予防マネジメントにおける支援意図と課題, 日本看護学会 地域看護 (第 32 回), 大津.

永吉雅人, 杉田収, 橋本明浩, 小林恵子, 平澤則子, 他 4 名 (2010.12.10) : 化学物質に過敏な児童・生徒に関するアンケート再調査, 平成 22 年度室内環境学会学術大会, 横浜.

山田正実, 小海菊江, 平澤則子, 飯吉令枝 (2011.3.18) : A 地域における COPD 患者のヘルスケアニーズ調査, 日本在宅ケア学会学術集会 (第 15 回), 三原.

5. その他の研究

- ・平成 21 年 8 月～平成 22 年 3 月 平成 21 年度厚生労働省社会福祉推進事業「上越市における持続可能な法人後見設立調査研究事業」

【学会等における活動】

日本地域看護学会会員 日本在宅ケア学会会員 日本公衆衛生学会会員 日本難病看護学会会員
日本看護科学学会会員 日本保健福祉学会会員

平澤則子：平成 10 年 7 月 第 10 回日本地域看護学会示説 13 行政保健⑨の座長

平澤則子：平成 21 年 8 月 第 14 回日本難病看護学会口演H群の座長

平澤則子：平成 22 年 8 月 第 15 回日本難病看護学会口演 5 群の座長

平澤則子：平成 22 年 8 月 第 15 回日本難病看護学会公開シンポジウムのシンポジスト

【社会活動】

平澤則子：新潟県看護協会訪問看護機能強化委員会（委員長、平成 18 年 4 月から平成 20 年 3 月まで）

平澤則子：新潟県訪問看護ステーション協議会企画委員会（アドバイザー、平成 18 年 11 月から現在に至る）

平澤則子：上越市地域包括支援センター運営協議会（副会長、平成 17 年 11 月から現在に至る）

平澤則子：上越市高齢者見守り支援ネットワーク会議（会長、平成 20 年 5 月から現在に至る）

平澤則子：上越市開発審査会（委員、平成 21 年 8 月から平成 23 年 3 月まで）

平澤則子：上越市介護保険運営協議会（副会長、平成 21 年 9 月から現在までに至る）

平澤則子：上越市における持続可能な法人後見設立調査研究委員会（委員、平成 21 年 11 月から平成 22 年 3 月まで）

平澤則子：上越市施設整備等検討委員会（座長、平成 22 年 7 月から現在に至る）

平澤則子：上越市福祉課指定管理者選定委員会（委員長、平成 22 年 10 月から現在に至る）

平澤則子：上越市高齢者支援課指定管理者選定委員会（委員長、平成 22 年 10 月から現在に至る）

平澤則子：平成 19 年 9 月 18 日 新潟県看護職員臨地実習指導者講習会講師「地域看護活動方法論」

平澤則子：平成 20 年 11 月 10 日 三条市健康推進員研修会講演「地域における健康推進の役割について～市町村合併下における住民と行政の協働～」

平澤則子：平成 20 年 11 月 15 日 新潟県看護協会ファーストレベル講習会講義「看護組織論」「ヘルスケアシステム」

平澤則子：平成 20 年 12 月～平成 22 年 3 月 魚沼市「健康日本 21 計画」見直し、地域診断の指導

平澤則子：平成 21 年 9 月～平成 22 年 3 月 魚沼市青壮年男性の健康課題の整理、グループ・インタビューの指導

平澤則子：平成 21 年 11 月 21 日 新潟県看護協会ファーストレベル講習会講義「看護組織論」「ヘルスケアシステム」

平澤則子：平成 22 年 6 月 22 日 ふもと地域包括支援センター研修会講演「住み慣れた地域でいつまでも暮らすために」

平澤則子：平成 22 年 8 月 5 日 上越保健所難病ボランティア研修会講義「在宅支援の中で難病ボランティアに期待すること」

平澤則子：平成 22 年 8 月 23 日 刈羽村民生児童委員協議会研修会講演「災害後のこころのケア復興期における留意点」

平澤則子：平成 22 年 11 月 9 日 新潟県看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会講義「看護教育課程」

平澤則子：平成 22 年 11 月 14 日 新潟県看護協会ファーストレベル講習会講義「看護組織論」「ヘルスケアシステム」

【外的資金獲得】

平澤則子：科学研究費補助金（基盤C）「難病患者家族の介護プロセスにおける対処方略の学習支援プログラム開発」（研究代表者）平成 19 年度から平成 21 年度

飯吉令枝，平澤則子，小林恵子，他．科学研究費補助金研究費（基盤C）「豪雪過疎地域の高齢者の

自立生活継続のための介護予防マネジメント技術の検討」(研究分担者),平成20年度から平成22年度.

藤川あや,小林恵子,平澤則子,飯吉令枝:平成21年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)における「訪問看護ステーションの基盤強化に関する調査研究事業「在宅死を可能にする訪問看護ステーションの機能に関する研究」(研究分担者),平成21年度.

【研究活動】

1. 原著論文

- 1) 内田陽子, 上山真美, 小泉美佐子 (2008) : 看護学生の実習前後における認知症高齢者のアウトカム判定とケア実施率の関係、北関東医学, 58 (3) 303-309.
- 2) 内田陽子, 上山真美, 小泉美佐子 (2008) : 地域在住高齢者における頻尿・尿失禁の可能性の背景要因の関係—介護予防講習会の参加者の自己評価から、日本在宅ケア学会誌, 12 (1) : 44-52.
- 3) 益田育子, 小泉美佐子(2008) : 通所リハビリテーションを利用する高齢者の健康管理に対する自己効力感の研究, 老年看護学, 13 (1) : 23-31.
- 4) 内田陽子, 他 5 名 (最後 小泉美佐子) (2008) : 老人看護専門看護師コースにおける老年看護学実習のスタッフにもたらす効果, 群馬保健学紀要, 28 : 121-128.
- 5) Hatsue Ogawara, Tomoko Hayashi, Yasuyosi Asakawa, Kiyotaka Iwasaki, Tamiko Matsuda, Yumiko Abe, Fusae Tozato, Takatoshi Makino, Hiromitsu Shinozaki, Misako Koizumi, Takako Yasukawa, Hideomi Watanabe (2009) : Systematic inclusion of mandatory inter-professional education in health professions curricula at Gunma University : A report of Students self-assessment in a nine-years implementation, Human Resources for Health, 7 : 60.
- 6) 上山真美, 内田陽子, 小泉美佐子 (2009) : 自宅で生活している認知症高齢者の排泄行動と家族の排泄介護に影響する要因, 群馬保健学紀要, 29 (1) : 103-110.
- 7) 岩永喜久子, 他 5 名 (最後 小泉美佐子) (2009) : 群馬県における認定看護師教育ニーズに関する研究, 群馬保健学紀要, 29 (1) : 1-9.
- 8) 牧野孝俊, 他 13 名 (前から 12 番 小泉美佐子 (2010)) : チームワーク実習によるチーム医療及びその教育に対する態度の変化:保健学科と医学科との比較検討, 日本保健医療福祉連携教育, 2(1):2-11
- 9) 辻村弘美, 小泉美佐子 (2010) : 認知症高齢者の穏やかスケールの開発, 北関東医学, 58 (3) : 119-134.

2. その他の論文

- 1) 小泉美佐子, 上山真美, 村椿茂里, 曲友弘 (2008) , 尿失禁看護相談, 看護技術, 54(5) : 99-106.
- 2) 小泉美佐子 (2008) : 高齢者の強さをアセスメントしてケアに生かす, 日本褥瘡学会誌, 10 (2) : 91-97.
- 3) 小泉美佐子(2009) : クランベリー製品は女性の再発性の尿路感染を予防する可能性がある, イービーナーシング, 9 (4) : 98-99.
- 4) 齋田綾子, 小泉美佐子 (2010) : 意思確認が困難な終末期高齢患者の看護—家族との話しあいによりその人らしさを看護に取り入れることを目指した終末期看護支援手順導入の効果—, 老年看護学, 14 (1) : 42-50.
- 5) 小泉美佐子, 齋田綾子 (2010) : 看護支援手順を活用した終末期ケア, 臨床老年看護, 17 (2) : 3-11.

3. 著書

- 1) 堀内ふき, 櫻井美代子, 中村魔紀, 六角僚子, 鷹野和美, 関千代子, 浅野均, 上原明子, 佐藤圭子, 安川揚子, 中村直, 小長谷百絵, 本間昭, 金子昌子, 浅野祐子, 山本恵子, 小川紀子, 角田直枝, 小泉美佐子, 高橋信子 (2008) : ナーシンググラフィカ 26 老年看護学 高齢者の健康と障害 (第 2 版), 308 , MCメディカ出版, 東京.

- 2) 浅川典子, 大西和子, 大淵律子, 奥野茂代, 小泉美佐子, 小林理恵子, 小松万喜子, 齊藤好子, 佐藤敏子, 佐藤芙佐子, 曾根千賀子, 千葉真由美, 新寶夕香理, 長谷川雅美, 水野敏子, 箕浦とき子, 百瀬由美子, 森下利子, 山西真由美 (2008) : 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 (第2版), 295, ヌーヴェルヒロカワ, 東京.
- 3) 相羽利昭, 内田陽子, 大西和子, 奥野茂代, 上鶴重美, 小泉美佐子, 小松万喜子, 近藤恵子, 齊藤好子, 坂本規子, 櫻井しのぶ, 佐藤敏子, 佐藤蓉子, 千葉真弓, 出口克己, 中西貴美子, 中村恵子, 沼本教子, 長谷川雅美, 八田勘司, 松岡広子, 水野敏子, 百瀬由美子, 森下利子, 山幡信子, 吉岡一美, 渡辺みどり (2008) : 老年看護学 理論と看護の実践 (第4版), 498, ヌーヴェルヒロカワ, 東京.
- 4) H.watanabe,M.koizumi (Editors) : Advanced Initiatives in Inter-professional Education in Japan, 141, Springer, Tokyo.
- 5) 天津栄子, 泉キヨ子, 小泉美佐子, 栗田友子, 直井千津子, 森垣こずえ, 追田綾子, 松岡千代, 正源寺美浦, 横道真理佳, 宮腰美希, 長谷川真澄, 田中マキ子, 谷口好美, 寺島喜代子, 内田陽子, 上山真美, 清水さゆり, 梨木恵実子, 小玉幸佳 (2010) : 根拠がわかる老年看護技術 (第2版) : 366, メジカルフレンド社, 東京.
- 6) 中島紀恵子, 石垣和子監修, 酒井郁子, 北川公子, 佐藤和佳子, 伴真由美編 : 高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコールー連携と協働のために, 佐藤和佳子, 小泉美佐子, 坂本祐子, 堀江竜弥, 阿部桃子, 岡本充子, 上山真美著 : 膀胱留置カテーテルからの離脱のためのケアプロトコール, 176, 日本看護協会出版会, 東京.

4. 学会発表

- 1) 新井明子, 小泉美佐子 (2007年5月12日) : 尿失禁患者に対する排尿モニタリングの有用性と排尿自立に向けた援助ー脳梗塞患者の事例を通して, 日本老年泌尿器科学会, 長崎.
- 2) 小泉美佐子, 辻村弘美 (2007年10月12日) : 認知症高齢者のおだやかスケールの作成ー認知症QOL評価スケール, 行動感情障害スケールとの関連, 日本認知症ケア学会, 盛岡市.
- 3) 山口晴保, 小泉美佐子他 (2007年10月12日) : 群馬県での認知症ケア研究の普及・発展をめざした『ぐんま認知症アカデミー』の取組, 盛岡市.
- 4) 新井明子, 小泉美佐子 (2007年11月10日) : 要介護高齢者の尿失禁ケアプログラムの開発ー2事例における有用性の検討, 日本老年看護学会, 神戸市.
- 5) 益田育子, 小泉美佐子 (2007年11月11日) : 通所リハビリテーションを利用する高齢者の健康管理自己効力感に関する研究, 日本老年看護学会, 神戸市.
- 6) 辻村弘美, 小泉美佐子 (2007年11月11日) : 認知症高齢者のおだやかスケールの開発, 日本老年看護学会, 神戸市.
- 7) 剣持淳子, 小泉美佐子 (2007年11月11日) : 重度認知症高齢者の入浴場面における不穏行動の観察, 日本老年看護学会, 神戸市.
- 8) 小泉美佐子, 新井明子 (2007年12月 日) : 日本看護科学会, 要介護高齢者の尿失禁ケアプログラムの開発, 東京都.
- 9) 飯見優子, 小泉美佐子, 村椿茂里, 上山真美 (2008年5月25日) : 過活動膀胱の症状を有する前立腺肥大症高齢者のQOLと影響因子日本老年泌尿器科学会, 北九州市.
- 10) 小泉美佐子 他 (2008年9月27日) : 認知症になってもおだやかに過ごす高齢者の特徴と背景ー認知症のレベルと性格について, 日本認知症ケア学会, 高松市.
- 11) 小泉美佐子他 (2008年11月8日) : 高齢者のライフヒストリーインタビューによる回想の分析と語りの効果, 日本老年看護学会, 金沢市.
- 12) 内田陽子, 上山真美, 小泉美佐子 (2008年11月9日) : 老年看護学実習前後における認知症高齢者のアウトカム判定と学生のケアの実施率ーその2ー評価票改良後のアウトカム変化率とケア

実施率の関係，日本老年看護学会，金沢市

- 13) 上山真美，内田陽子，小泉美佐子（2008年11月9日）：老年看護学実習前後における認知症高齢者のアウトカム判定と学生のケアの実施率 その1－判定別にみたアウトカム項目の特性，日本老年看護学会，金沢市
- 14) 阿部桃子，小泉美佐子他（2009年9月26日）：安全で効果的な膀胱留置カテーテル抜去のためのケアプロトコル開発と試行日本老年看護学会，札幌市
- 15) 坂本裕子，小泉美佐子他（2009年9月26日）：介護保険施設における膀胱留置カテーテル挿入者の実態調査，日本老年看護学会，札幌市
- 16) 齋田綾子，小泉美佐子（2009年9月27日）：高齢者の終末期看護計画立案までのケアパス作成とその評価－一般病院における高齢者の終末期ケア改善を目指した取組，日本老年看護学会，札幌市
- 17) 牧野隆俊，小泉美佐子他（2009年10月11日）：実習による保健学科と医学科学生のチーム医療に対する態度変化について，日本保健医療福祉連携教育学会，千葉市
- 18) 小泉美佐子、小嶋雅佳、坂入和也（2009年11月1日）：アルバム写真を取り入れた思い出ノート作成とその有用性について，日本認知症ケア学会，東京
- 19) 牧野隆俊，小泉美佐子，他（2010年8月11日）：チームワーク実習を履修した卒業生のIPW/IPEに対する態度について，日本保健医療福祉連携教育学会，札幌市
- 20) 山崎真奈美，林智子，小泉美佐子，他（2010年8月11日）：チームワーク実習におけるグループワークに対する多専攻学生の態度，日本保健医療福祉連携教育学会，札幌市
- 21) 辻村弘美，小泉美佐子（2010年10月23日）：認知症高齢者のおだやかスケールの開発，日本認知症ケア学会，神戸市
- 22) 堀江竜也，佐藤和佳子，坂本祐子，阿部桃子，上山真美，小泉美佐子（2010年11月7日）：性差による膀胱留置カテーテル管理の実際，日本老年看護学会，前橋市
- 23) 小玉幸佳，高橋陽子，齋藤喜恵子，中村直子，小日向幸江，内田陽子，小泉美佐子（2010年11月7日）：脳卒中地域連携クリティカルパスのアウトカム評価と費用対効果分析－地域連携パス群と病院完結群の比較，日本老年看護学会，前橋市
- 24) 大平奈津美，小泉美佐子（2010年11月7日）：訪問看護を利用する在宅要介護高齢者の排尿障害と家族介護者の排尿ケアの特徴，日本老年看護学会，前橋市
- 25) 辻村弘美，小泉美佐子（2010年11月7日）：認知症高齢者のおだやかスケールの開発－Well-beingの指標をふまえた改訂版スケールの作成，日本老年看護学会，前橋市
- 26) 河端裕美，小泉美佐子（2010年11月6日）：病院看護師，介護支援専門員，訪問看護師の訪問看護必要性判断と紹介に関する研究，日本老年看護学会，前橋市

【その他の研究活動】

1. 平成19年及び20年度，厚生労働省老人保健健康増進事業（老人保健事業推進等補助金）「高齢者の胃ろう閉鎖，膀胱留置カテーテル抜去を安全かつ効果的に実施するためのアセスメント・ケアプログラムの開発に関する調査研究事業」研究代表者：中島紀恵子，「膀胱留置カテーテルからの離脱のためのケアプロトコル研究班」班長：佐藤和佳子，副班長：小泉美佐子
2. 平成22年度厚生労働省老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）「特別養護老人ホームにおける看取り介護の質保証のためのシステム開発と経済効果に関する研究事業－看取りケアパスの開発とアウトカム評価－」委員長；特定非営利法人・手をつなごう・理事長 田中志子 委員兼ワーキング委員：小泉美佐子

【学会等における活動】

1. 公益社団法人日本看護科学会（評議員）

2. 北関東医学会（評議員）平成 23 年 3 月迄
3. 日本認知症ケア学会（評議員）
4. 日本老年行動科学会（評議員）
5. 日本老年泌尿器科学会（評議員）
6. 日本保健医療福祉連携教育学会（理事）
7. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会（評議員）平成 21 年 5 月～
8. 日本老年看護学会（評議員）
日本老年看護学会第 15 回学術集会（会長）

【社会活動】

1. ぐんま認知症アカデミー（幹事）
2. 一般社団法人・日本看護系大学協議会（理事）
同協議会看護学教育研究倫理検討委員会委員長
3. 国立大学保健医療学系代表者協議会看護学分科会（幹事）平成 20 年 11 月～23 年 3 月
平成 22 年 6 月第 3 回国立大学保健医療学系代表者協議会看護学分科会総会開催（幹事長）
4. 日本チーム医療教育機関ネットワーク会議（J I PWEN）の設立に関わる。平成 20 年 6 月 28 日、
第 1 回会議を開催。

【外部資金獲得】

1. 平成 20 年度～22 年度・文部科学研究費補助金基盤研究（C）「認知症高齢者にみるおだやか
さの探究」（研究代表者）2,730,000 円
2. 平成 21 年度～継続
科学研究費補助金基盤研究（C）「膀胱留置カテーテルに抜去後排尿障害のアセスメント・ケアガ
イド」の作成（共同研究者）
3. 平成 19 年度文部科学省 特色ある大学教育支援プログラム採択事業「多専攻学生による
模擬体験型チーム医療実習」群馬大学医学部保健学科チーム医療教育運営委員会委員

【研究活動】

1. 原著論文

- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子(2008) : デイサービス利用者に対する看護・介護職員による口腔ケアの効果, 老年歯科医学, 23 (3), 338-45.
- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子(2009) : デイサービスセンターにおける口腔ケアに関する職員研修プログラムの導入とその意識変化, 日本口腔ケア学会雑誌, 3 (1), 31-6
- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子(2010) : 予防給付における口腔機能向上サービス立案に影響する要因地域包括支援センター職員の口腔に関するアセスメントの実態, 老年歯科医学, 25 (2), 107-14.
- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子(2010) : 指定介護予防支援事業従事者の口腔機能の向上サービスに関する意識(原著論文), オーラルケアメイト, 5, 5-8.

2. その他の論文

- ・ 原等子, 北川公子 (2007) : 認知症高齢者の持つ力と可能性 口の持つ力, 認知症介護, 8 (2), 1-5.

3. 著書

- ・ 原等子 (2008) : 認知症終末期の人に緩和口腔ケアの視点は有効か, 道又元裕監修, ケアの根拠看護の疑問に答える 151 のエビデンス, 日本看護協会出版会, p. 136
- ・ 原等子 (2008) : X I 在宅 107 口を開けてくれない人への口腔ケア, 日本口腔ケア学会編, 口腔ケア基礎知識, 永末書店, 320-4.
- ・ 原等子 (2008) : X I 在宅 108 在宅で口腔ケアを行う場合の介護者(家族あるいは在宅介護者)への指導, 日本口腔ケア学会編, 口腔ケア基礎知識, 永末書店, 325-31.
- ・ 原等子 (2010) . 第 5 章高齢者の生活機能を整える看護の実際 B 食事と看護ケア C 排泄と看護ケア, 系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学, 147-70, 東京, 医学書院.
- ・ 原等子 (2010) . 第 6 章健康逸脱からの回復と終末期を支える看護の展開 A 検査・治療を受ける高齢者への看護ケア②栄養ケアマネジメント, 系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学, p. 214-9, 東京, 医学書院.
- ・ 伴真由美, 原等子, 辻村真由子, 他 (9 名中 2 番目) (2010) : 第 6 章 快便を目指すケア. 中島希恵子・石垣和子監修. 高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコール 連携と協働のために. 日本看護協会出版会, 東京, 136-70.

4. 学会発表

- ・ 原等子, 柿木保明(2007年6月20-22日) : 高齢者介護施設における口腔ケアの現状と課題 2 県の施設スタッフへの調査から, 第 49 回日本老年社会科学学会老年社会科学(0388-2446)29 巻 2 号 Page262
- ・ 原等子, 宮林郁子, 谷多江子, 他 1 名 (2007 年 8 月 10-11 日) : 中小規模病院における看護過程研修による職務満足度向上に向けたプログラムの検討, 日本看護学教育学会誌17 巻学術集会講演集, 150, 福岡国際会議場, 福岡市.
- ・ 河野總子, 木浪智佳子, 原等子, 他 2 名 4 番目 (2007 年 10 月 25-26 日) : 看護師集団におけるキャリア・アンカー—E. Hシャインの理論モデルを用いて—, 第 45 回日本病院管理学会学術総会, 病院管理, 44 (Supple), 130, 横浜市.
- ・ 原等子, 柿木保明 (2007 年 11 月 10-11 日) : 高齢者施設看護職の口腔ケアに関する実態調査, 日本老年看護学会第 12 回学術集会抄録集, 170, 神戸国際会議場, 神戸市.
- ・ 原等子, 柿木保明 (2007 年 11 月 17-18 日) : 高齢者施設における口腔ケア物品の管理方法に関する実態調査, 第 4 回日本口腔ケア学会学術大会, 日本口腔ケア学会雑誌, 2 (1), 61, 愛知学院大学, 名古屋市.

- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子 (2007年11月17-18日): 口腔セルフケアを行っている高齢者の口腔内清潔状態の現状～ケアハウス及び高齢者向け優良賃貸住居の入居者について～, 第4回日本口腔ケア学会学術大会, 日本口腔ケア学会雑誌, 2 (1), 72-3, 愛知学院大学, 名古屋市.
- ・ 堤千代, 原等子, 下川雅文, 他1名 (2008年6月): デイサービスセンター職員に対する「口腔機能の向上」支援研修プログラムの効果, 第16回広島口腔ケア研究会, オーラルケアメイト, 4, 79, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.
- ・ 堤千代, 原等子, 下川雅文, 他1名 (2008年11月8日): デイサービス利用者に対する看護・介護職員による口腔ケアの効果, 日本老年看護学会第13回学術集会, 石川県立音楽堂, 金沢市.
- ・ 伴真由美, 桑田美代子, 原等子, 他6名5番目 (2008年11月8日): 厚生労働省事業報告治療・療養中の高齢者の生活機能再確立を安全かつ効果的に実施するためのアセスメント・ケアプログラムの開発に関する調査研究事業「排便(便秘の改善)ケアプロトコール班」, 日本老年看護学会第13回学術集会, 石川県立音楽堂, 金沢市.
- ・ 原等子, 堤千代, 下川雅文, 他1名 (2008年11月15日): 通所介護事業利用者の口腔機能向上の個別ケアの必要性, 第5回日本口腔ケア学会学術大会, 日本口腔ケア学会雑誌, 3 (1), 67, 沖縄県総合福祉センター, 那覇市.
- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子 (2009年5月): 口腔機能の向上サービスに関する意識, 第17回広島口腔ケア研究会, 5, 41-2, 広島大学, 広島市.
- ・ 伴真由美, 原等子, 辻村真由子, 他6名 (2009年9月27日): [厚老補助研究] 施設入所高齢者のための排便(便秘の改善)ケアプロトコール開発, 日本老年看護学会 第14回学術集会, 札幌コンベンションセンター, 札幌市.
- ・ 辻村真由子, 伴真由美, 原等子, 他6名 (2009年9月27日): 施設入所高齢者の排便状況と下剤使用に関する実態調査—排便(便秘の改善)ケアプロトコール試行施設を対象として, 日本老年看護学会 第14回学術集会, 札幌コンベンションセンター, 札幌市.
- ・ 西山みどり, 伴真由美, 原等子, 他6名 (2009年9月27日): 排便(便秘の改善)ケアプロトコール試行に伴う看護職・介護職の排便ケアにおける変化, 日本老年看護学会 第14回学術集会, 札幌コンベンションセンター, 札幌市.
- ・ 原等子, 伴真由美, 谷規久子, 他6名 (2009年9月27日): 排便ケアプロトコールによる下剤使用状況の変化—高齢者施設における排便(便秘の改善)ケアプロトコール試行から, 日本老年看護学会 第14回学術集会, 札幌コンベンションセンター, 札幌市.
- ・ 谷規久子, 伴真由美, 原等子, 他6名 (2009年9月27日): 施設入所高齢者の効果的排便ケアの検討—排便(便秘の改善)ケアプロトコール試行事例の分析から日本老年看護学会 第14回学術集会, 札幌コンベンションセンター, 札幌市.
- ・ 原等子 (2009年11月21日): 看護の視点で評価する口腔機能と口腔ケア (シンポジウム), 第6回日本口腔ケア学会シンポジウムⅢ口腔ケアをどう評価するか?, 日本口腔ケア学会雑誌, 4 (1), 59, 栃木県総合文化センター, 宇都宮市.
- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子 (2009年11月27-28日): 介護予防給付における口腔機能の向上サービス立案に影響する要因(第2報) プランニングを阻害する要因, 日本看護科学学会学術集会講演集29回, 266, 幕張メッセ, 千葉市.
- ・ 中川笑, 永野真紀, 原等子 ほか3名中 (2009年8月): 口腔セルフケアを行なっている高齢者における口腔関連QOLと包括的QOL ケアハウス入居者及び高齢者向け優良賃貸住宅入居者を通して, 聖マリア医学, 34, 79, 久留米市.
- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子 (2010年11月27-28日): 口腔ケア行動とメタボリックシンドロームの関連 - Propensity Scoreを用いた疫学分析 -, 第7回日本口腔ケア学会学術大会, 大阪国際交流センター, 大阪市.

- Naoko Hara, Ryoko Hori, Kayoko Fukazawa(11-12th FEB 2011) : A trial project providing practical skill-training to nurses on a career break. The 14th East Asian Froum of Nursing Scholars, The Seoul Olympic Parktel, Seoul, Korea.

5. その他の研究活動

- 北川公子, 井上多鶴子, 原等子, 他 3 名 5 番目 (2007) . 高齢者ターミナルケア, 訪問看護ステーションに係る介護保険サービスにおける看護提供体制のあり方に関する研究 訪問看護ステーションの業務基準に関する検討報告書.
- 伴真由美, 桑田美代子, 原等子, 他 6 名 7 番目 (2008) : 第 8 章 施設入所高齢者のための排便 (便秘の改善) ケアプロトコール開発, 日本老年看護学会, 平成 19 年度高齢者の胃ろう閉鎖, 膀胱留置カテーテル抜去, 膀胱留置カテーテル抜去を安全かつ効果的に実施するためのアセスメント・ケアプログラムの開発に関する調査研究事業報告書, 139-78.
- 深澤佳代子, 堀良子, 原等子, 他 9 名中 5 番目 (2009) : 看護師の学びなおしを支援する地域志向型オープン/バーチャル・カレッジの試み, 平成 19 年度文部科学省「社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム」平成 19 年度成果報告書.
- 堤千代, 原等子, 下川雅文, 宮林郁子 (2008) : ディサービスセンター利用者に対する「口腔機能の向上」支援職員研修プログラムの構築, 2006 年度財団法人在宅医療助成 勇美記念財団 完了報告書.
- 千葉由美, 山脇正永, 原等子 (2008) : 摂食・嚥下機能の維持・向上のための包括的地域支援活動事業報告書, 国立大学法人東京医科歯科大学 摂食・嚥下友の会
- 柿木保明, 西原達治, 小関健由, 原等子 他 38 名中 34 番目 (2009) : 唾液を指標とした口腔機能向上プログラム作成, 厚生労働省・厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業(H19-長寿-009) 平成 20 年度総括・分担報告書, 111-2.
- 吉山直樹, 深澤佳代子, 堀良子, 原等子, 他 8 名 5 番目 (2009) : 看護師の学びなおしを支援する地域志向型オープン/バーチャル・カレッジの試み, 平成 20 年度文部科学省「社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム」平成 20 年度成果報告書.
- 伴真由美, 原等子, 辻村真由子, 他 6 名 (2009) : VIII. 施設入所高齢者のための排便 (便秘の改善) ケアプロトコール開発, 日本老年看護学会, 平成 20 年度高齢者の胃ろう閉鎖, 膀胱留置カテーテル抜去, 膀胱留置カテーテル抜去を安全かつ効果的に実施するためのアセスメント・ケアプログラムの開発に関する調査研究事業報告書, 125-67.
- 堀良子, 深澤佳代子, 原等子, 他 12 名中 5 番目 (2010) : 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム (文部科学省)「看護師の学び直しを支援する地域志向型オープン/バーチャル・カレッジの試み」平成 21 年成果報告書.
- 原等子, 永吉雅人, 角山裕美子, 須藤陽子 (2010) : 最新看護技術周知のためのWEBネットワーク構築の試み : 高齢者ケアにかかわるネットワークづくり, 看護研究交流センター年報, 21, 9-10.

【学会等における活動】

1. 所属学会など

- 日本看護協会 会員 (平成元年～現在) [日本看護学会論文集 (老年看護) 査読委員 (平成 21 年度～現在)]
- 日本老年社会科学会 会員 (平成 11 年～現在)
- 日本老年看護学会 会員 (平成 14 年～現在) [第 14 回学術集会査読委員 (平成 21 年), 論文査読委員 (平成 21 年～現在)]
- 日本認知症ケア学会 会員 (平成 16 年～現在) [評議員 (平成 22 年～現在), 認知症ケア専門士認定試験面接員 (平成 17 年, 21 年), 論文審査委員 (平成 17 年～現在), 1 次試験問題作成委

員（平成 19 年～現在）、査読委員（平成 19 年～現在）]

- ・ 日本口腔ケア学会 会員（平成 17 年～現在）〔理事（平成 17 年）、評議員（平成 18 年～現在）、編集委員および査読委員（平成 17 年～現在）、用語委員会（平成 21 年～現在）]
- ・ 日本老年歯学学会 会員（平成 21 年～現在）

2. 学会口演座長

- ・ 原等子（2007 年 11 月 18 日）：一般口演座長（口演 6 題）、第 4 回日本口腔ケア学会学術集会、愛知学院大学、名古屋市。
- ・ 原等子（2009 年 9 月 26 日）：ランチョンセミナー 1「ここがポイント 看護の視点でみる高齢者の口腔ケア、座長、札幌コンベンションセンター、札幌市
- ・ 原等子（2009 年 11 月 21 日）：Ⅶ方法 2（口演 3 題）、第 6 回日本口腔ケア学会学術集会、栃木県総合文化センター、宇都宮市。
- ・ 原等子（2010 年 11 月 28 日）：ポスター発表 6（7 題）、第 7 回日本口腔ケア学会学術集会、大阪国際交流センター、大阪市。

3. 学会交流集会主催

- ・ 原等子、迫田綾子、村松真澄（2007 年 11 月 10 日）：交流集会 高齢者の口腔ケアにおける看護の役割と多職種連携、日本老年看護学会第 12 回学術集会、神戸国際会議場、神戸市。
- ・ 千葉由美、梶井文子、原等子（2007 年 12 月 7-8 日）：交流集会 臨床における高齢者のリスクマネジメントの取り組み～誤嚥、肺炎、低栄養、脱水の予防実践に向けて～、第 27 回日本看護科学学会学術集会、東京国際フォーラム、東京都。

【社会活動】

1. 所属団体など

- ・ 公益社団法人「認知症の人と家族の会」B 会員(2004 年～現在、2009 年～新潟支部世話人)
- ・ 上越高齢者ケア勉強会の設立、運営(2009 年 6 月～現在) 地域の高齢者医療・福祉の充実を目指し、年数回の勉強会の企画運営、地域活動の支援など活動中。

2. 認知症／高齢者ケアに関する相談および講演一覧

- ・ 原等子（2007 年 9 月～10 月 3 週間）：平成 19 年度新潟県看護職員臨地実習指導者要請講習会実習指導の実践Ⅱ（講義および実習指導）、上越市。
- ・ 原等子（2007 年 10 月 6 日）：人ごとでない認知症の理解と予防そして、かかわり方（2 時間）、みんなの実家 グリーンホームふたば主催、アルカディア小ホール、見附市。
- ・ 原等子（2007 年 11 月 28 日）：在宅ケアが必要な患者の看護（5 時間）、新潟県ナースセンター主催「在宅看護研修会」、新潟県看護研修センター、新潟市。
- ・ 原等子（2008 年 1 月 27 日）：高齢者の口腔ケア（40 分）、長寿科学成果発表会（一般向け）（H19-長寿-一般-009）、リバーウォーク北九州 北九州芸術劇場小劇場、北九州市。
- ・ 原等子（2008 年 6 月 26 日）：高齢者の口腔ケアスキル演習 高齢者の口腔機能向上はサービスの差別化につながるか（3 時間）、医療法人社団愛心館 介護老人保健施設プラットホーム、札幌市。
- ・ 原等子（2008 年 11 月 1 日）：食べることは、生きることー口から始まる認知症ケアー（2 時間）、みんなの実家 グリーンホームふたば主催、アルカディア小ホール、見附市。
- ・ 原等子（2008 年 11 月 3 日）：看取り 口から始まり口で終わる 高齢者の終末期ケア（シンポジウム）、むなかた介護サービス研究会主催「口から始める健康づくり介護予防町おこし勉強会」、メイトム宗像、宗像市。

- ・ 原等子 (2008年11月28日) : 在宅ケアが必要な患者の看護 (5時間), 新潟県ナースセンター主催「在宅看護研修会」, 新潟県看護研修センター, 新潟市.
- ・ 原等子 (2008年11月30日) : 食べることは, 生きること 口から始める高齢者ケア (90分), 新潟県立看護大学看護研究交流センター主催 専門職公開講座, 新潟県立看護大学第二ホール, 上越市.
- ・ 原等子 (2009年1月29日) : 高齢者の口腔ケア基礎知識 (2時間), 医療法人知命堂病院「高齢者の口腔ケア研修会」, 上越市.
- ・ 原等子 (2009年2月5日) : 高齢者の口腔ケアスキルアップ演習 (2時間), 医療法人知命堂病院「高齢者の口腔ケア研修会」, 上越市.
- ・ 原等子 (2009年2月28日) : 看護・介護の立場から (シンポジウム), むなかた介護サービス研究会主催「高齢者の健康づくりの備えは赤ちゃん育てからエンドレス」, メイトム宗像, 宗像市.
- ・ 原等子 (2010年5月25日) : 最新の口腔ケア事情, QOLを考慮したケア (2時間), 国立病院機構さいがた病院「高齢者の口腔ケア研修会」, 上越市.
- ・ 原等子 (2010年6月15日) : 口腔ケア基本技術演習 (2時間), 国立病院機構さいがた病院「高齢者の口腔ケア研修会」, 上越市.
- ・ 原等子 (2010年11月11日) : 高齢者の口腔ケア (1時間), 社団法人新潟県看護協会主催「平成22年度看護職員実務研修」, 新潟県立看護大学第二ホール, 上越市.
- ・ 原等子 (2010年11月17日) : 認知症の正しい理解と付き合い方-認知症の人も家族も地域もみんなが幸せになるために- (90分), 佐渡市認知症予防講演会 アルツハイマーデー記念講演会, 佐和田行政サービスセンター, 佐渡市.
- ・ 原等子 (2011年3月25日) : 認知症について知る (1時間), 介護付有料老人ホーム ハートフルケア上越高田「認知症のケアについて考える」, 上越市.

【外的資金獲得】

- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子 : デイサービスセンター利用者に対する「口腔機能の向上」支援職員研修プログラムの構築, 財団法人 在宅医療助成勇美記念財団, 2007年度在宅医療研究助成.
- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子 : 居宅介護支援事業者および介護予防支援事業者の口腔機能の向上サービスに対する意識, 聖マリア学院大学中堅研究者助成金 (平成20年)
- ・ 堤千代, 原等子 (研究分担者) : 口腔ケア行動のメタボリックシンドローム予防対策における可能性, 科学研究費助成金 萌芽研究 (平成21年~23年 : 課題番号 21659541).
- ・ 原等子 : 認知症の人の口腔機能に関連した苦痛とその緩和に関する研究, 科学研究費補助金 基盤研究 (C) (平成22年~24年 : 課題番号 22562599)

飯吉 令枝

【研究活動】

1. 原著論文

- ・藤川あや, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝(2010): 在宅での看取りを可能にする訪問看護ステーションの医療連携体制に関する研究, 日本在宅ケア学会誌, 14(2), 76-86.
- ・平澤則子, 飯吉令枝, 鳩野洋子(2011): 豪雪参観地域における高齢者のIADLの変化と日常生活行動との関連性, 日本地域看護学会誌, 13(2), 31-37.
- ・藤川あや, 小林恵子, 飯吉令枝, 平澤則子(2011): 新潟県中山間地域に暮らす高齢者の通院手段と関連要因, 新潟医学会雑誌, 125(8), 435-442.
- ・藤川あや, 小林恵子, 飯吉令枝, 平澤則子(2011): 新潟県内の訪問看護ステーションと在宅療養支援診療所の連携の実態, 新潟医学会雑誌, 125(9), 498-506.

2. その他の論文

- ・小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝他(2008): 農村地域に暮らす高齢者の生活ニーズとソーシャル・サポートの検討, 保健師ジャーナル, 64(3), 258-263.
- ・藤川あや, 飯吉令枝, 平澤則子他(2009): 過疎地域における高齢者の生活の自立において困難なことと地域支え合いの実態, 第39回日本看護学会論文集 地域看護 119-121.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子他(2011): 保健師の介護予防マネジメントにおける支援意図と課題, 第41回日本看護学会論文集 地域看護 227-230.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子他(2008): 過疎地域における高齢者の健康と生活の自立に関する研究, 平成19年新潟県立看護大学看護研究交流センター年報, 3-4.
- ・野地有子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝他 (2008): 上越まちの保健室によるCBPRアプローチの実践研究, 平成19年新潟県立看護大学看護研究交流センター年報, 9-10.
- ・鳩野洋子, 中山貴美子, 飯吉令枝(2008): 地区組織の健康危機対応支援ツールの開発, 厚生労働科学研究費補助金 地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究 平成19年度総括研究報告書, 108-116.
- ・鳩野洋子, 中山貴美子, 飯吉令枝(2009): 地区組織の健康危機対応支援ツールの開発, 厚生労働科学研究費補助金 地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究 平成20年度総括研究報告書, 60-67.
- ・鳩野洋子, 中山貴美子, 飯吉令枝(2010): 地区組織の健康危機対応支援ツールの開発, 厚生労働科学研究費補助金 地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究 平成21年度総括研究報告書, 35-49.
- ・藤川あや, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝 (2010): 在宅での見取りを可能にする訪問看護ステーションの機能に関する研究, 平成21年度厚生労働省老人保健事業推進費等字補助金 介護保険制度の適正な運営・周知に寄与する調査研究事業報告書
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや (2011): 豪雪過疎地域の高齢者の自立生活支援のための介護予防マネジメント技術の検討, 平成20-22年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書

3. 著書

なし

4. 学会発表

- ・飯吉令枝, 平澤則子, 野地有子他 (2008.7.6) : 豪雪地域に暮らす後期高齢者の生活と健康との関連 第1報 痛みに焦点をあてて, 日本地域看護学会 第11回学術集会, 沖縄.
- ・平澤則子, 飯吉令枝, 野地有子他 (2008.7.6) : 豪雪地域に暮らす後期高齢者の生活と健康との関連 第2報 睡眠習慣に焦点をあてて, 日本地域看護学会 第11回学術集会, 沖縄.
- ・鳩野洋子, 中山貴美子, 飯吉令枝 (2008.7.5) : 災害時における地区組織の役割とそれが発揮されるための要件, 日本地域看護学会 第11回学術集会, 沖縄.
- ・藤川あや, 飯吉令枝, 平澤則子他(2008.10.10) : 過疎地域における高齢者の生活の自立において困難なことと地域支え合いの実態, 第39回日本看護学会 地域看護, 静岡.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子他 (2008.11.6) : 過疎地域における高齢者の自立生活維持のために必要な支援, 第67回日本公衆衛生学会, 福岡.
- ・中山貴美子, 鳩野洋子, 飯吉令枝 (2008.11.6) : 地区組織による地震災害時対応支援ツール, 第67回日本公衆衛生学会, 福岡.
- ・野地有子, 飯吉令枝, 長瀬亜岐他 (2008.12.13) : CBPRアプローチによる地域看護実践に関する研究 上越まちの保健室の看護活動を中心として, 第28回日本看護科学学会, 福岡.
- ・飯吉令枝, 鳩野洋子, 中山貴美子(2009.8.8) : 地区組織の健康危機対応支援ツールの内容と妥当性の検討, 日本地域看護学会 第12回学術集会, 千葉.
- ・藤川あや, 飯吉令枝, 小林恵子他(2009.8.8) : 訪問看護ステーションと在宅療養支援診療所との連携の実態, 日本地域看護学会 第12回学術集会, 千葉.
- ・Aya Fujikawa, Keiko Kobayashi, Yoshie Iiyushi, Noriko Hirasawa.(2009.8.17) : Home Care Nursing Station System Enabling Persons to Die at Home, The 4th international conference on community health nursing research, Adelaide.
- ・Yoshie Iiyoshi, Noriko Hirasawa, Aya Fujikawa, Keiko Kobayashi, Yuko Noguchi, Naoko Hashidate(2009.8.17) : Mutual support within communities for care-preventive programs in depopulated areas, The 4th international conference on community health nursing research, Adelaide.
- ・飯吉令枝, 藤川あや, 平澤則子他(2009.10.21) : 山間過疎地域における高齢者の活動能力と生活行動の変化 ー縦断調査からー, 第68回日本公衆衛生学会, 奈良.
- ・平澤則子, 飯吉令枝, 小林恵子他(2009.10.21) : 山間過疎地域における高齢者の睡眠習慣と健康との関連, 第68回日本公衆衛生学会, 奈良.
- ・藤川あや, 小林恵子, 飯吉令枝他(2009.10.21) : 山間過疎地域に暮らす高齢者の通院手段, 第68回日本公衆衛生学会, 奈良.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子他(2010.7.10) : 豪雪過疎地域の高齢者の7年間の動態及び健康状態の変化, 日本地域看護学会 第13回学術集会, 札幌.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子他(2010.10.15) : 保健師の介護予防マネジメントにおける支援意図と課題, 第41回日本看護学会 地域看護, 大津.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 藤川あや他(2011.10.19) : 過疎地域の介護予防が必要な高齢者を早期発見するための近隣見守りリストの検討, 第70回日本公衆衛生学会, 秋田.
- ・平澤則子, 飯吉令枝(2011.10.21) : 介護福祉施設におけるCOPD療養者への居宅サービスの実践と研修ニーズ, 第70回日本公衆衛生学会, 秋田.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

日本公衆衛生学会会員, 日本地域看護学会会員, 日本看護科学学会会員, 日本在宅ケア学会会員, 聖路加看護学会会員, 日本看護協会会員

【社会活動】

- ・新潟県看護協会上越地区協会教育委員長 平成22年5月～平成23年4月
- ・新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会の講師 平成22年9月
- ・妙高市介護保険運営協議会委員 平成18年4月～現在に至る
- ・上越市建築審査会委員 平成20年4月～現在に至る
- ・上越市開発審査会委員 平成23年4月～現在に至る
- ・上越市健康づくり推進協議会委員 平成23年4月～現在に至る
- ・新潟県准看護師試験委員 平成22年4月～現在に至る

【外的資金獲得】

- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや: 豪雪過疎地域の高齢者の自立生活支援のための介護予防マネジメント技術の検討, 独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 平成20～22年度(研究代表者).
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 藤川あや, 小林恵子: 豪雪地域の介護予防リスクの高い高齢者を早期発見する近隣見守りチェックリストの開発, 独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 平成23～25年度(研究代表者).

田口 玲子

【研究活動】

1. 原著論文

- ・ 田口玲子 (2008) : 援助に対する申し訳なさ と 心理的負債感に関する研究 (修士論文) , 関西福祉科学大学.
- ・ 田口玲子 (2008) : 「電話が怖い」と訴える男性との面接過程, 関西福祉科学大学 心理・教育相談センター紀要, 6, 68-74.

2. その他の論文: なし

3. 著書: なし

4. 学会発表

- ・ 田口玲子, 渡辺岸子 (2008.6.21) : 看護援助に対する申し訳なさ と 心理的負債感に関する研究, 第18回日本精神保健看護学会 (東京)
- ・ 田口玲子 (2009.8.19) : 医療場面における患者の心理的負債感「患者と医療従事者との新しい協同関係の構築をめざしてー患者になったとき医療従事者に気兼ねなく援助を頼めますか?」(自主企画シンポジウム: シンポジスト) , 第42回日本カウンセリング学会 (長崎)

5. その他の研究活動: なし

【学会等における活動】

- ・ 新潟看護ケア研究学会 学会誌編集委員 (平成22年9月~)

【社会活動】

- ・ 公開講座の開催

看護職 EAP としての「ナースのためのホリスティックセンターLLC」起業準備プロジェクトを立ち上げ, そのメンバー (看護部長2名, 看護系教員3名, 他, 新潟市周辺で活発に活動している保健師, 社会福祉職, 市民活動家等の, 計10名) のひとりとして, 新潟県下の看護職者・介護職者に呼びかけ, 「在宅で家族の介護をしながら働く看護職のための支援講座」(全6回: 平成23年1月~) を開催中。

【外的資金獲得】

- ・ 申請者: 渡辺岸子, 共同研究者: 田口玲子

「在宅で家族の介護をしながら働く看護職のための支援講座」

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の2010年度「市民講座開催への助成」(助成金額: ¥281,340) を獲得。

【研究活動】

◇ 原著論文

1. 城戸裕子(2007)「認知症高齢者が地域で暮らす支援としての医療と福祉の連携についてー連携についての医療と福祉の意識調査からー」日本社会事業大学大学院修士論文,
2. 城戸裕子・吉田滋・小佐々典靖(2007)「介護保険に於ける第二号被保険者に対する居宅介護サービス提供に関する一考察 居宅介護支援事業所実態調査結果についての分析」山梨県立大学 人間福祉学部紀要, p9-p17
3. 城戸裕子(2008)「居宅介護支援サービス事業所における介護支援専門員の業務実態に関する研究～第二号被保険者へのサービス提供実態調査～」日本社会事業大学 社会福祉論叢
4. 城戸裕子(2008)「介護保険制度改正によるサービス提供事業者への影響～居宅介護支援事業所と福祉用具供給事業所へのアンケートより～」日本社会事業大学社会事業研究
5. 城戸裕子(2008)「脊髄性筋萎縮症(SMA)を抱える一障害者のライフ・ステージの変化と必要な支援の変化についての考察 (A consideration about changes of life stage for a person with Spinal Muscular Atrophy (SMA) and about changes for various support services)」山梨県立大学 人間福祉学部 紀要, p9-p19
6. 城戸裕子(2009)「介護支援専門員の性格因子とストレス対処能力との関連性の研究～個人質問票作成の過程から実施へのプロセス～」日本社会事業大学 社会福祉論叢
7. 城戸裕子(2010)「介護支援専門員の性格因子とストレス対処能力との関連性の研究」日本社会事業大学大学院博士論文

◇ 著書

1. 城戸裕子他(2009)「社会福祉士国試対策'10」医学評論社, p231～p316
2. 城戸裕子他(2009)「2010年版 U-CAN の社会福祉士速習レッスン(基礎科目)」, ユーキャン社会福祉士試験研究会
3. 城戸裕子他(2009)「イラストで見る社会福祉用語事典」, 医学評論社
4. 城戸裕子他(2009)「在宅医療辞典」, 中央法規, p18
5. 城戸裕子他(2010)「看護師国家試験対策模擬試験問題集」(株)ティ・エム・エス
6. 城戸裕子他(2011)「社会福祉士国試対策'11」医学評論社

◇ 学会発表

1. 城戸裕子・小佐々典靖(2009) 介護保険下における障害者居宅サービス及び福祉用具供給の現状と課題～民間事業所調査結果を中心に～第 46 回日本社会事業大学社会福祉研究大会(東京都清瀬市)
2. 城戸裕子(2007) 医師が介護支援専門員に求める資質と連携のイメージ・日本認知症ケア学会(宮城県仙台市)
3. 城戸裕子(2008) 介護保険制度改正によるサービス提供事業者への影響～居宅介護支援事業所と福祉用具供給事業所へのアンケートより～, 第 47 回日本社会事業大学社会福祉研究大会
4. 城戸裕子(2008) サービス提供事業者が求める地域包括支援への役割～居宅介護支援事業所へのアンケートから～, 第 21 回日本社会福祉学会学術集会(鹿児島県鹿児島市)

【学会などにおける活動】

- ・日本老年社会科学会 会員 (現在に至る)
- ・日本認知症ケア学会 会員 (現在に至る)
- ・山梨県福祉サービス評価推進機構 研究部会委員 (現在に至る)
- ・山梨県認知症リーダー研修会 講師 (現在に至る)
- ・日本社会福祉学会 会員 (現在に至る)

- ・日本保健福祉学会 会員 (現在に至る)
- ・日本看護科学学会 会員 (現在に至る)
- ・NPO 法人 福祉経営研究会 会員(福祉サービス第三者評価機構) (現在に至る)
- ・みずほ総合研究所 相談部 (福祉サービス第三者評価機構)(現在に至る)

【社会活動】

- ・平成 19、20、21 年度 認知症介護実践研修「実践リーダーの役割と視点」
- ・平成 19 年 9 月 長野県 伊那弥生ヶ丘高等学校 PTA 進路セミナー「大学模擬授業」
- ・平成 19 年、20 年、21 年度 山梨県福祉サービス評価者養成研修会 「評価項目の着眼点」「第三者評価の実践」
- ・平成 20、21 年度 山梨県福祉サービス評価者養成研修会評価者フォローアップ研修
- ・平成 20 年 1 月 世田谷区福祉事業団 介護福祉士国家試験対策講座
- ・平成 21 年 9 月 千葉大学大学院 看護学研究科 「訪問看護師として再就職したい看護職者を支援する学び直しプログラム開発」
- ・平成 22 年度 山梨県キャリアサポート訪問事業接遇研修講師
- ・平成 22 年度 山梨県キャリアサポート支援事業 介護福祉士国家試験対策 心理学 担当講師
- ・平成 23 年度上越ケーブルテレビジョン 秋の公開講座講師 テーマ「食といのち」
- ・平成 23 年度 新潟県介護福祉士会上越支部研修講師 「フットケアの実際について」

【外的資金獲得】

1. 城戸裕子・小佐々典靖(2007), 介護保険制度における第二号被保険者に対するサービス提供の実態に関する研究～高齢者福祉サービスと障害者福祉サービスの今後の課題について～山梨県立大学地域研究交流センター 2007 年度 研究報告書
2. 今井幸充・遠藤英俊・本間昭・池田学・萱間真美・加藤伸司・木村隆次・石田光広・沖田裕子・長田久雄・後藤隆・田中由紀子・八木ありさ・城戸裕子・長谷部雅美・永島徹・山崎葉子・黄才榮(2009), 認知症高齢者の要介護認定に係る判定指標等の開発に関する研究, 老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分) 平成 20 年度老健事業報告 報告書・老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分) 認知症高齢者の要介護認定に係る判定指標等の開発に関する研究平成 20 年度老健事業報告(資料編)

家族介護者からのヒアリング報告書, 老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分) 認知症高齢者の要介護認定に係る判定指標等の開発に関する研究, 平成 20 年度老健事業報告(資料編), 認定調査員グループディスカッション報告書記録編, 老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分), 認知症高齢者の要介護認定に係る判定指標等の開発に関する研究, 平成 20 年度老健事業報告(資料編), 「認知症高齢者の日常生活自立度」の統計解析

後田 穰

【研究活動】

1. 原著論文 なし
2. その他の論文 なし
3. 著書 なし
4. 学会発表 なし
5. その他の研究活動
 - ・研究テーマ「精神的豊かさ（幸福感）における民族的相違」についての予備調査
新潟市在住ネパール人に聞き取り（平成22年11月）

【学会等における活動】 なし

【社会活動】 立命館大学キャリアアドバイザー（平成13年より現在に至る）
米国 Sierra International College ESL and nursing program 修了（平成22
年8月）

【外的資金獲得】 なし

片平 伸子

【研究活動】

1. 原著論文：なし

2. その他の論文

片平伸子,小山真理子,竹内淳(2008):看護学士課程における「エビデンスをさがす」演習の評価,神奈川県立保健福祉大学誌,5(1),37 - 44.

水戸優子,小山真理子,片平伸子,山口由子,川守田千秋,植村由美子,朝倉美奈,野崎真奈美,鶴田恵子,手島恵(2008):看護基礎教育卒業時の看護技術の到達目標に関する教育者と看護実践者の意見の差の分析-デルファイ第1回調査の結果から-,神奈川県立保健福祉大学誌,5(1),117 - 125.

水戸優子,小山真理子,間瀬由記,片平伸子,野崎真奈美,屋宜譜美子(2008):卒業時の到達度を踏まえた看護技術教育-到達度を教育内容にどう落とし込むかについての試案-,看護展望,33(3),8-13.

片平伸子,本田亜起子,上野まり,北岡英子,廣川聖子,渡部月子,竹田由美子,畑中高子,別所遊子(2009):認知症高齢者グループホームにおける看護体制-訪問看護の利用に焦点を当てて-,日本地域看護学会誌,12(1),59-64.

北岡英子,倉貫早智,片平伸子,渡部月子,本田亜起子,鈴木志保子,山本妙子(2010):大学生の健康状態および関連する生活行動に関する研究,神奈川県立保健福祉大学誌,7(1),71 - 78.

3. 著書：なし

4. 学会発表

Katahira,N, Koyama,M, Shiramizu,M.(2007年6月2日):Evaluation of "searching the evidence" program in baccalaureate nursing program, ICN Conference 2007, Kanagawa.

Katahira,N, Honda,A, Watanabe,T, Kobayashi,R, Bessho, Y. (2007年6月2日) :Development and validation of an assessment tool for support eating behaviors in elderly with dementia,ICN Conference 2007, Kanagawa.

Koyama,M, Shiramizu,M, Katahira,N. (2007年6月3日):Is it too early to teach EBN to the second-year-students in baccalaureate nursing program?, ICN Conference 2007, Kanagawa.

村上明美,白水真理子,間瀬由紀,北岡英子,渡部月子,片平伸子,牧野美幸,松嶋弥生,小山真理子(2007年8月10日):総合実習におけるEBNの導入 その1 教員の働きかけ,日本看護学教育学会第17回学術集会,福岡.

片平伸子,渡部月子,北岡英子,牧野美幸,松嶋弥生,村上明美,白水真理子,間瀬由記,小山真理子(2007年8月10日):総合実習におけるEBNの導入 その2 学生の変化,日本看護学教育学会第17回学術集会,福岡.

間瀬由記,片平伸子,植村由美子,野崎真奈美,水戸優子,屋宜譜美子,小山真理子(2007年8月10日):実践能力を高めるための看護技術学習方法の検討—授業評価からの分析—,日本看護学教育学会第17回学術集会,福岡.

片平伸子,本田亜起子,上野まり,北岡英子,廣川聖子,渡部月子,竹田由美子,畑中高子,別所遊子(2007年10月25日):グループホームにおける健康管理体制と訪問看護の提供に関する実態調査.第66回日本公衆衛生学会総会,愛媛.

間瀬由記,小山真理子,片平伸子,野崎真奈美,水戸優子,屋宜譜美子(2007年12月8日):状況設定と模擬患者を用いた看護技術学習方法の検討 その1 技術実施時の学生の思考と援助内容,第27回日本看護科学学会学術集会,東京.

水戸優子,小山真理子,野崎真奈美,間瀬由記,片平伸子,屋宜譜美子(2007年12月8日):状況設定と模

擬患者を用いた看護技術学習方法の検討 その2 学生にとっての「想定外」の学び,第27回日本看護科学学会学術集会,東京.

片平伸子,小山真理子,間瀬由記,水戸優子,野崎真奈美,屋宜譜美子(2007年12月8日):状況設定と模擬患者を用いた看護技術学習方法の検討 その3 学生による授業評価,第27回日本看護科学学会学術集会,東京.

片平伸子, 本田亜起子, 北岡英子,上野まり,渡部月子,竹田由美子(2008年7月5日):介護保険改正後の認知症高齢者グループホームにおける訪問看護提供の効果と課題,第11回日本地域看護学会学術集会,沖縄.

片平伸子,本田亜起子,吉田法子,太田貞司,別所遊子(2009年8月9日):高齢者の経済的理由による介護保険サービス利用の手控えとその影響-介護支援専門員からみた現状に焦点を当てて-,第12回日本地域看護学会学術集会,千葉.

本田亜起子,片平伸子,太田貞司,吉田法子,別所遊子(2009年8月9日):介護保険サービス利用者の男性介護者における介護困難-介護支援専門員からみた問題に焦点を当てて-,第12回日本地域看護学会学術集会,千葉.

片平伸子(2010年7月11日):認知症高齢者グループホームにおける看護職の活動の効果と課題,第13回日本地域看護学会学術集会,北海道.

本田亜起子,片平伸子, 別所遊子,吉田法子,太田貞司(2010年10月29日):一人暮らし高齢者の経済問題と健康問題に対する民生委員の対応,第69回日本公衆衛生学会総会,東京.

【学会等における活動】

第10,11,12回日本地域看護学会学術集会実行委員 (2007,2008,2009)

第27,28回日本看護科学学会学術集会実行委員 (2007,2008)

【社会活動】

新潟県立看護大学 看護研究交流センター 地域社会貢献部門 看護大いきいきサロン 企画運営(2010)

【外的資金獲得】

平成21年度科学研究費補助金(若手研究B) 65万円

平成22年度科学研究費補助金(若手研究B) 65万円

藤川 あや

【研究活動】

1. 原著論文

藤川あや, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝 (2011) : 在宅での看取りを可能にする訪問看護ステーションの医療連携体制に関する研究, 日本在宅ケア学会誌, 14 (2) , 76-86.

藤川あや, 小林恵子, 飯吉令枝, 平澤則子 (2011) : 新潟県中山間地域に暮らす高齢者の通院手段と関連要因, 新潟医学会雑誌, 125 (8) , 435-442.

藤川あや, 小林恵子, 飯吉令枝, 平澤則子 (2011) : 新潟県内の訪問看護ステーションと在宅療養支援診療所の連携の実態, 新潟医学会雑誌, 125 (9) , 498-506.

2. その他の論文

菊池チトセ,市原千里,藤川あや,田中美佐子,中沢尚恵 (2008) : 臨地実習 (保健所・市町村) における満足度等の学生の気持ちと到達目標の自己評価に関する調査, 埼玉医科大学短期大学紀要, 19, 79-89.

菊池チトセ,市原千里,藤川あや,田中美佐子,中沢尚恵 (2008) : 埼玉医科大学短期大学専攻科地域看護学専攻修士の動向と保健師教育の検討, 埼玉医科大学短期大学紀要, 19, 91-102.

藤川あや,飯吉令枝,平澤則子,小林恵子,野口裕子,外立直子 (2009) : 過疎地域の高齢者の自立において困難なことと地域支えあいの実態, 第39回日本看護学会論文集-地域看護一, 119-121.

藤川あや,飯吉令枝,小林恵子,平澤則子 (2009) : 新潟県内の訪問看護ステーションにおける在宅療養支援診療所との連携に関する研究, 平成20年度看護研究交流センター年報, 11-12.

藤川あや,小林恵子,平澤則子,飯吉令枝 (2010) : 在宅での看取りを可能にする訪問看護ステーションの機能に関する研究, 平成21年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業分) 報告書.

藤川あや, 小林恵子, 布施寿美江 (2010) : 訪問相談従事者研修を受講した訪問介護員の「たんの吸引」に関する意識と実践, 第41回日本看護学会論文集-地域看護一, 245-248.

飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや (2010) : 保健師の介護予防マネジメントにおける支援意図と課題, 第41回日本看護学会論文集-地域看護一, 227-230.

3. 著書

なし

4. 学会発表

藤川あや,菊池チトセ,中沢尚恵,市原千里,田中美佐子 (2007年7月) : 臨地実習(訪問看護)における経験した内容と到達目標の自己評価に関する調査, 第10回日本地域看護学会学術集会, 横須賀市

藤川あや,菊池チトセ,高橋邦泰,田中美佐子,市原千里,佐々木久子,丸橋陽子 (2007年10月) : 保健師養成校におけるリハビリテーション関連科目の教授状況の実態調査(第1報), 第66回日本公衆衛生学会総会, 松山市

菊池チトセ,藤川あや,高橋邦泰,田中美佐子,市原千里,佐々木久子,丸橋陽子 (2007年10月) : 保健師養成校におけるリハビリテーション関連科目の教授状況の実態調査(第2報), 第66回日本公衆衛生学会総会, 松山市

藤川あや,飯吉令枝,平澤則子,小林恵子,野口裕子,外立直子 (2008年10月) : 過疎地域の高齢者の自立において困難なことと地域支えあいの実態, 第39回日本看護学会-地域看護-, 静岡市

飯吉令枝,平澤則子,小林恵子,藤川あや,野口裕子 (2008年10月) : 過疎地域における高齢者の自立生活維持のために必要な支援, 第67回日本公衆衛生学会総会, 福岡市

野地有子,飯吉令枝,長瀬亜岐,菅原峰子,藤川あや,小林恵子,平澤則子,野口裕子 (2008年12月) : CBPRアプローチによる地域看護実践に関する研究 上越まちの保健室の看護活動を中心として, 第28回日本看護科学学会学術集会, 福岡市

藤川あや,飯吉令枝,小林恵子,平澤則子 (2009年8月) : 訪問看護ステーションと在宅療養支援診療所との連携の実態, 第12回日本地域看護学会学術集会, 千葉市

Aya Fujikawa,Keiko Kobayashi,Yoshie Iiyushi,Noriko Hirasawa (2009年8月) : Home Care Nursing Station System Enabling Persons to Die at Home, The4th international conference on community health nursing research Adelaide, Adelaide

Yoshie Iiyushi,Noriko Hirasawa,Aya Fujikawa,Keiko Kobayashi,Yuko Noguchi,Naoko Hashidate (2009年8月) : Mutual support within communities for care-preventive programs in depopulated areas, The 4th international conference on community health nursing research Adelaide, Adelaide

飯吉令枝,藤川あや,平澤則子,小林恵子 (2009年10月) : 山間過疎地域における高齢者の活動能力と生活行動の変化-縦断調査から-, 第68回日本公衆衛生学会総会, 奈良市

平澤則子,飯吉令枝,小林恵子,藤川あや (2009年10月) : 山間過疎地域における高齢者の睡眠習慣と健康との関連, 第68回日本公衆衛生学会総会, 奈良市

藤川あや,小林恵子,飯吉令枝,平澤則子 (2009年10月) : 山間過疎地域に暮らす高齢者の通院手段, 第68回日本公衆衛生学会総会(奈良市)

原 等子,飯田 智恵,深澤 佳代子,栗生田 友子,藤川 あや,大久保明子,角山裕美子,橋本 明浩,永吉雅人,堀良子,水口陽子,岡村典子,堀 良子 (2009年11月) : ニーズに基づく潜在看護師の学び直しシステムの構築の試み, 平成21年度情報教育研究集会, 仙台市

堀 良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵, 深澤佳代子, 粟生田友子, 橋本明浩, 原等子, 大久保明子, 飯田智恵, 永吉雅人, 藤川あや, 角山裕美子 (2009年11月) : 基礎看護技術のためのe-Learning教材作成の試みと評価, 平成21年度情報教育研究集会, 仙台市

橋本 明浩, 吉山 直樹, 永吉 雅人, 深山真司, 堀良子, 深澤佳代子, 粟生田友子, 原等子, 水口陽子, 岡村典子, 大久保明子, 飯田智恵, 水澤久恵, 藤川あや, 角山裕美子 (2009年11月) : 看護師の学び直しに必要なユビキタス教育環境の作成の試みと評価, 平成21年度情報教育研究集会, 仙台市

飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや (2010年7月) : 豪雪過疎地域の高齢者の7年間の動態及び健康状態の変化, 第13回日本地域看護学会学術集会, 札幌市

藤川あや, 小林恵子, 布施寿美江 (2010年10月) : 訪問相談従事者研修を受講した訪問介護員の「たんの吸引」に関する意識と実践, 第41回日本看護学会-地域看護-, 大津市

飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや (2010年10月) : 保健師の介護予防マネジメントにおける支援意図と課題, 第41回日本看護学会-地域看護-, 大津市

Naoko Hara, Ryoko Hori, Kayoko Fukazawa, Aya Fujikawa, Chie Iida, Noriko Okamura, Yoko Mizuguchi, Hisae Mizusawa, Yumiko Tsunoyama, Akihiro Hashimoto (2010年) : A trial project providing practical skill-training to nurses on a career break, 14th East Asian Forum of Scholars(EAFONS), Seoul

Chie IIDA, Hisae MIZUSAWA, Naoko HARA, Youko SUDO, Ryoko HORI, Akihiro HASHIMOTO, Noriko OKAMURA, Aya FUJIKAWA, Yumiko TSUNOYAMA, Yoko MIZUGUCHI, Masato NAGAYOSHI (2011年2月) : PARTICIPANTS' PERSPECTIVES ON THE FUNCTION OF A PROFESSIONAL DEVELOPMENT LEARNING SYSTEM FOR NURSES ON A CAREER BREAK AND THEIR EVALUATION OF THE LEARNING SYSTEM, 14th East Asian Forum of Scholars(EAFONS), Seoul

藤川あや, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝 (2011年3月) : 在宅での看取りを可能にする訪問看護ステーションの医療連携体制に関する研究, 第15回日本在宅ケア学術集会, 三原市

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

1. 上越保健所「在宅における訪問介護員のたんの吸引の取扱に関する調査」調査票の検討, 平成21年7月~10月
2. 新潟県看護協会「平成21年度看護職員臨地実習指導者養成講習会」講義, 平成21年8月31日
3. 新潟県立看護大学「看護研究交流センター」地域課題研究開発部門メンバー, 平成22年4月~現在に至る

【外的資金獲得】

平成 21 年度厚生労働省老人保健事業費補助金（老人保健健康増進等事業分）獲得

櫻井 信人

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
なし
4. 学会発表

櫻井信人, 栗生田友子, 浦山留美, 小林創

身内の自殺後の体験を通して生じた思い—自死遺族の語りから—
日本精神保健看護学会学術集会, 2009年, 東京

櫻井信人

在宅高齢者の臨終に係わる訪問看護師の困難と困難を軽減するために必要な要素
日本在宅ケア学会学術集会, 2009年, 東京

櫻井信人, 北川公子

在宅高齢者の臨終に係わる訪問看護師の現状と課題
日本在宅ケア学会学術集会, 2008年, 大阪

櫻井信人, 栗生田友子, 浦山留美, 小林創

自殺者遺族が必要とする看護ケアのニード—自殺対策のケア提供者によって語られた遺族ケアの
困難さ—, 日本精神保健看護学会学術集会, 2007年, 神奈川

浦山留美, 栗生田友子, 櫻井信人

精神科病棟において隔離・拘束の必要性を判断する看護師の臨床判断の様相
日本精神保健看護学会学術集会, 2007年, 神奈川

【社会活動】

自死遺族支援グループはじめの会を運営し活動を行っている。

角山 裕美子

【研究活動】

1. 原著論文
2. その他の論文
3. 著書
4. 学会発表
5. その他の研究活動

【学会等における活動】

【社会活動】

【外部資金獲得】

加賀美 亜矢子

【研究活動】

4. 学会発表

- ・加賀美亜矢子，山田実千代，森本純子：当施設における夜間排泄ケアの向上について，第 17 回日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会，2008，倉敷.
- ・加賀美亜矢子，配原智幸子，氏見優子，白石和加枝：夜間排泄ケアにおけるパッドの検討，第 57 回共済医学会，2008，横浜.
- ・氏見優子，白石和加枝，配原智幸子，加賀美亜矢子：夜間排泄ケアの向上について－皮膚トラブルが生じないおむつ選択－，第 40 回日本看護学会（老年看護），2009，福島.
- ・石丸由梨，青山尚史，上川千尋，加賀美亜矢子：当施設のノロウィルスの対応を振り返って，広島県介護老人保健施設大会，2010，広島.

【学会などにおける活動】

- ・日本老年看護学会 会員 （第 14 回学術集会 実行委員（2009 年））
- ・日本地域看護学会 会員
- ・日本認知症ケア学会 会員

【社会活動】

- ・認知症の人と家族の会 会員（新潟県支部）
- ・認知症看護認定看護師として、実習病院における認知症者対応困難例について助言・相談などを行っている。

【外的資金獲得】

なし

井上 智代

【研究活動】

1. 原著論文

井上智代、佐々木裕子、勝高太郎他(2011)：精神障害者当事者への就労支援事業の評価ーフォーカス・グループ・インタビューによる質的分析ー. 北里大学保健衛生専門学院紀要 16：1-9
駒形三和子、井上智代、佐々木裕子他(2011)：精神障害者をもつ家族が捉えた精神保健福祉事業の評価. 北里大学保健衛生専門学院紀要. 16：10-16

2. その他の論文

井上智代 (2009)：地域在住高齢者の外出内容が高次生活機能に及ぼす影響. 桜美林大学大学院国際学研究科老年学専攻修士論文

3. 著書

4. 学会発表

井上智代、渡辺修一郎、新開省二、藤原佳典、吉田裕人、熊谷 修、芳賀 博、柴田 博(2009. 10. 22)：地域在住女性高齢者の外出内容が高次生活機能に及ぼす影響. 日本公衆衛生学会, 奈良

渡辺修一郎、井上智代、畠山明美(2009. 10. 22)：都市部 60 歳代住民の精神的自立と外出内容の関連. 日本公衆衛生学会, 奈良

井上智代、駒形三和子、勝高太郎、佐々木裕子(2010. 10. 29)：市町村における在宅精神障害者就労支援の効果と環境要因についての質的分析. 日本公衆衛生学会. 東京

駒形三和子、井上智代、勝高太郎、佐々木裕子(2010. 10. 29)：家族の視点から見た在宅精神障害者への保健福祉事業の効果. 日本公衆衛生学会. 東京

5. その他の研究活動

井上智代、佐々木(須田)裕子、駒形三和子、梅本智夫、原沢由美子、佐藤美恵子、勝高太郎他(2009～)：精神障害者への保健福祉事業に対する縦断的な効果評価. 北里大学保健衛生専門学院と旧川口町による共同研究

田辺生子、井上智代、瀬倉幸子(2010～)：要支援高齢者の食品摂取状況と健康感との質的分析. 新潟青陵大学共同研究

【学会等における活動】

日本思春期学会(会員)、日本公衆衛生学会(会員)、日本民族衛生学会(会員)、日本保健福祉学会(会員)、日本老年社会科学会(会員)

【社会活動】

長岡市男女平等推進センター「ウィルながおか」専門相談員

社会福祉法人 大石福祉会 評議員

【外部資金獲得】

野口 裕子

【研究活動】

2.その他の論文

- ・藤川あや, 飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 野口裕子, 外立直子 (2008) : 過疎地域における高齢者の生活の自立において困難なことと地域支えあいの実態, 日本看護学会論文集地域看護 (第 39 回), 119-121.
- ・平澤則子, 飯吉令枝, 鳩野洋子, 小林恵子, 齋藤智子, 野口裕子 (2011) : 山間豪雪地域における高齢者のIADLの変化と日常生活行動との関連性, 日本地域看護学会誌, 第 13 巻, 第 2 号, 31-37.

4.学会発表

- ・平澤則子, 飯吉令枝, 齋藤智子, 野口裕子, 小林恵子, 鳩野洋子, 佐々木美佐子 (2007. 7. 28) : 高齢者の活動能力低下に関連する要因の検討, 日本地域看護学会 (第 10 回) , 神奈川.
- ・野口裕子, 小林恵子 (2007. 7. 29) : 中越大震災における保健師の保健活動の検証-フェイズ 0 からフェイズ 1-, 日本地域看護学会 (第 10 回) , 神奈川.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 野口裕子, 齋藤智子 (2007. 10. 26) : 過疎地域における高齢者の 3 年間での健康・生活の変化, 日本公衆衛生学会 (第 66 回) , 愛媛.
- ・Keiko Kobayashi. Ariko Noji. Noriko Hirasawa. Yoshie Iiyoshi. Yuko Noguchi. (2007.11.23) : Disaster Nursing for the Victims of Earthquake in a Village Evacuated as a Whole—A Case of Families Scattered to the Different Shelters—, The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing, Seoul.
- ・Noriko Hirasawa. Ariko Noji. Keiko Kobayashi. Yoshie Iiyoshi. Yuko Noguchi. (2007.11.23) : Lessons Learned the Emergency Readiness Competencies for Public Health Nurses from a Flood Disaster—Focus on the First Day of the Disaster—. The 1st Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing, Seoul.
- ・小林恵子, 福島道子, 北岡英子, 清水洋子, 島内節, 野口裕子 (2007.12.8) : 子ども虐待事例に対する保健師のケアの評価, 日本看護科学学会 (第 27 回) , 東京.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや, 野口裕子 (2008.11.6) : 過疎地域における高齢者の自立生活維持のために必要な支援, 日本公衆衛生学会 (第 67 回) , 福岡.
- ・野地有子, 飯吉令枝, 長瀬亜岐, 菅原峰子, 小林恵子, 平澤則子, 野口裕子 (2008.12.13) : CBPR アプローチによる地域看護実践に関する研究 上越まちの保健室の看護活動を中心として, 日本看護科学学会 (第 28 回) , 福岡.
- ・Yoshie Iiyoshi. Noriko Hirasawa. Aya Fujikawa, Keiko Kobayashi. Yuko Noguchi. Naoko Hashidate (2009.8.17) : Mutual support within communities for care-preventive programs in depopulated areas. The 4th international conference on community health nursing research, Adelaide.

大郷 みさき

【研究活動】

2. その他の論文

大郷みさき，設楽万里子，山崎智子，石崎有希（2010）：精神科ナースのアサーションと職場ストレスとの関連，日本精神保健看護学会誌，19（1），155-160.

4. 学会発表

大郷みさき，設楽万里子，山崎智子，石崎有希（2009.6.21）：精神科ナースのアサーションと職場ストレスとの関連，日本精神保健看護学会，東京

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【外的資金獲得】

なし

川里 庸子

【研究活動】

【学会等における活動】

【社会活動】

子どもを亡くした遺族の会（わかばの会） 役員

【外的資金獲得】

研究代表者：粟生田友子, 研究分担者：菅原峰子(平成 21 年), 櫻井信人(平成 22 年), 川里庸子(平成 23 年), 連携研究者：太田喜久子, 長谷川真澄, 瀧断子, 鳥谷めぐみ, 小日向真依：入院中の高齢者のせん妄発症にかかわる環境因子のリスクコントロール, 平成 21 年度～平成 23 年度, 文部科学省科学研究費助成金（基盤研究C）

2 年度別大学運営各種委員会活動構成員

平成20年度～21年度

看護学部長 教授 深澤 佳代子(21年度前期まで) 教授 小林 恵子(21年度後期より)
(学生部長(22年度まで))

図書館長 教授 関谷 伸一(21年度前期まで) 教授 中野 正春(21年度後期より)

看護研究交流センター長 教授 吉山 直樹(20年度) 教授 中野 正春(21年度前期まで)

教授 栗生田 友子(21年度後期より)

(運営委員会)

委員会の名称	構 成 員
自己点検(認証)評価委員会(21年度前期までは特別委員会所属)	◎中野副学長 ○鈴木事務局長 吉山教授◎ 深澤教授 関谷教授 北川教授 栗生田教授
倫理委員会(21年度前期までは特別委員会所属)	◎野地教授◎ ※◎杉田教授 ○吉武准教授◎ 中野学長代行◎ 吉山教授◎ 関谷教授 柿川教授◎ ※中島教授 ※境原教授 ※深澤教授
教務委員会	※◎◎◎北川教授 ※◎深澤教授 ◎◎小林准教授 関谷教授 栗生田教授 ※中村准教授 吉武准教授◎ ※渡辺講師 ※高島講師 ※岡村講師
実習委員会	◎堀教授◎ ◎◎栗生田教授 ○平澤准教授◎ ○◎中島教授 原准教授 渡部講師◎ ※飯吉講師 ※直成講師 後田講師◎ ※酒井講師 高柳講師◎ 大久保講師 ※小林助教 ※櫻井助教 ※横田助教 水澤助教◎
学生委員会	◎中村准教授◎ ◎◎中島教授 杉田教授◎ ※堀教授 ○◎境原教授 ※高柳准教授 ○酒井講師◎ 徐講師◎ ※飯吉講師 ※渡辺講師 ※山田助教 ※永吉助教 ※菊池助教 飯田助教◎
研究推進委員会	◎吉山教授◎ ※◎加城教授 ※堀教授 ○◎藤田准教授 朝倉准教授◎ 岡村講師 ※菅原助教
広報委員会	◎◎杉田教授 ◎◎水口准教授 柿川教授◎ ※北川教授 ○井上准教授◎ ○◎橋本准教授 ※後田講師 ※藤川助教 ※角山助教 菅原助教◎
FD委員会	◎栗生田教授◎ ◎◎藤田准教授 ○関谷教授◎ 野地教授◎ ○◎境原教授 渡辺講師◎ ※徐講師 ※エルグトン助教 山田助教◎ 西方助教
国家試験対策就職委員会	◎水口准教授◎ ◎◎関谷教授 吉山教授◎ 深澤教授◎ ○◎平澤准教授 ○飯吉講師◎ 酒井講師 ※後田講師 ※渡部講師 ※高島講師
入試委員会	※◎◎◎原准教授 ※◎中村准教授 ○中野学長代行◎ 北川教授◎ 直成講師◎ 徐講師 ※大久保講師 浦山助教◎ ※飯田助教 ※水澤助教
図書委員会	◎関谷教授◎ ◎◎中野副学長 ※加城教授 ○橋本准教授 ※平澤准教授 井上准教授◎ 水口准教授◎ ※渡辺講師 ※郷助教 長瀬助教◎

(情報化推進本部)

委員会の名称	構 成 員
情報化推進本部	◎中野副学長 ○鈴木事務局長 ○深澤学生部長◎ 関谷教授 橋本准教授 原准教授 村松事務局長 山崎教務学生課長◎ ※高橋教務学生課長
実行部会	◎鈴木事務局長 ○橋本准教授 小林教授 岡村講師 伊藤庶務係長◎ 堀川教務係長 田村主任◎ ※渡辺庶務係長 ※杉田専門員

(特別委員会)

委員会の名称	構 成 員
ハラスメント防止委員会(セクシャル・ハラスメント対策委員会は21年度前期まで)	◎◎中野副学長 ◎◎境原教授 ○◎平澤准教授 深澤学生部長◎ 関谷教授◎ ※杉田教授 ※藤田准教授 ※渡辺講師 ※大久保講師 鈴木事務局長 山崎教務学生課長◎

看護研究交流センター	構 成 員
看護研究交流センター運営会議	◎吉山教授◎ ◎◎栗生田教授 ※深澤教授 ※関谷教授 ※堀教授 ※橋本准教授 ※藤田准教授 ※鈴木事務局長

(大学院小委員会)

委員会の名称	構 成 員
教学小委員会	※◎北川教授 ※◎小林教授 栗生田教授 杉田教授 ※深澤教授 ※加城教授 朝倉准教授◎ 平澤准教授◎ 高柳准教授
入学小委員会	◎堀教授 ○◎水口准教授 中野学長代行◎ 藤田准教授◎ 直成講師
図書小委員会	◎関谷教授◎ ◎◎中野副学長 ○◎橋本准教授 ※加城教授 井上准教授◎ 水口准教授◎ ※平澤准教授

(注1) ◎委員長 ○副委員長 (注2) 各委員は原則として2年間任期 (注3) 例=○○教授◎は21年度前期まで、※○○教授は21年度後期より。(注4) 例=◎◎△△教授は21年度前期までの委員長、※◎△△教授は21年度後期より委員長。(注5) 期間途中の変更は反映していない。

平成22年度～23年度

看護学部長
図書館長
看護研究交流センター長

教授 小林 恵子 (22年度まで) 教授 堀 良子 (23年度より)
教授 中野 正春
教授 粟生田 友子

(運営委員会)

委員会の名称	構 成 員
倫理委員会	◎石田教授② ○②※◎境原教授 関谷教授② 中島教授② 藤崎教授② ※小泉教授 ※平澤教授 ※坪倉教授 ○※田口准教授
教務委員会	◎堀教授② ◎※平澤教授 ※○関谷教授 ○②高島講師 小林教授② 粟生田教授 ※加城教授 石田教授 ※水口准教授 原准教授 中村准教授② ※高柳准教授 大久保講師 岡村講師
実習委員会	◎粟生田教授② ○中島教授② ◎※石田教授 ※○飯吉准教授 酒井准教授 岡村講師② ※水澤助教 山田(真)助教 小林助教 ※加賀美助教 櫻井助教 角山助教 菊池助教
学生委員会	◎中島教授② ○境原教授② ◎※関谷教授 ※○高柳准教授 ※酒井准教授 渡辺講師② 片平講師 山田(正)講師 ※エルダト助教 永吉助教
研究推進委員会	◎②加城教授 ◎※中野副学長 ○岡村講師 堀教授② 藤田准教授 ※徐講師 ※井上助教
FD委員会	◎藤田准教授 ○石田教授② ○※藤川講師 境原教授② ※城戸准教授 片平講師② エルダト助教② ※櫻井助教
国家試験対策就職委員会	◎関谷教授② ◎※橋本教授 ○平澤准教授② ※○酒井准教授 ※坪倉教授 後田講師 高島講師 ※内宮講師 ※藤川講師
広報委員会 (22年度まで)	◎水口准教授 ○橋本教授 藤崎教授 後田講師 藤川助教
入試委員会(22年度まで)	◎中村准教授 ○原准教授 徐講師 大久保講師 飯田助教 水澤助教
入試・広報委員会(23年度より)	◎中村准教授 ○水口准教授 飯吉准教授 後田講師 山田講師 内宮講師 飯田助教 水澤助教 渡邊助教
図書委員会	◎中野副学長 ○橋本教授 加城教授② 平澤准教授② ※城戸准教授 渡辺講師 郷助教
紀要委員会 (23年10月より新設)	◎関谷教授 ○高柳准教授 中野副学長 片平講師 吉原主任司書

(情報化推進本部)

委員会の名称	構 成 員
情報化推進本部	◎中野副学長 ○佐々木事務局長 関谷教授 橋本教授 原准教授 村松事務局長次長② ※諏訪部事務局長次長 高橋教務学生課長② ※関崎教務学生課長
実行部会	◎佐々木事務局長 ○橋本教授 小林教授② 岡村講師 ※内宮講師 渡辺庶務係長 大林教務係長 杉田専門員

(特別委員会)

委員会の名称	構 成 員
ハラスメント防止委員会	◎境原教授 ○平澤教授 中野副学長 藤田准教授 ※田口准教授 渡辺講師 大久保講師 佐々木事務局長
自己点検(認証)評価委員会 (22年度は運営委員会所属)	◎中野副学長 ○佐々木事務局長 ※小泉教授 粟生田教授 関谷教授 堀教授② 小林教授②

看護研究交流センター	構 成 員
看護研究交流センター運営 会議	◎粟生田教授 境原教授② 小林教授② 堀教授② ※橋本教授 ※石田教授 ※小泉教授 杉田特任教授 ※飯吉准教授 大久保講師② 佐々木事務局長

(大学院小委員会)

委員会の名称	構 成 員
教学小委員会	◎粟生田教授 ○※小泉教授 堀教授② 小林教授② 加城教授 石田教授 ※平澤教授 ※坪倉教授 藤崎教授② 高柳准教授②
入学小委員会	◎橋本教授② ◎※関谷教授 ○水口准教授② ○※原准教授 飯吉准教授② ※中村准教授 ※田口准教授 徐講師
図書小委員会(22年度まで)	◎中野教授 ○橋本教授 加城教授 平澤准教授

(注1) ◎委員長 ○副委員長 (注2) 各委員は原則として2年間任期 (注3) 例=○○教授②は22年度まで、※○○教授は23年度より。
(注4) 例=◎②△△教授は22年度までの委員長、※◎△△教授は23年度より委員長。(注5) 期間途中の変更は反映していない。